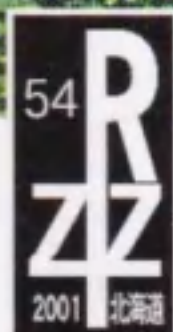


2001北海道

風よ大地よ夢よ

北からはじまる造形の未来

2001. 9. 6(木)7(金)8(土)



第54回 全国造形教育研究大会北海道大会 in 札幌
第51回 全道造形教育研究大会

第54回 全国造形教育研究大会北海道大会 in 札幌
第51回 全道造形教育研究大会

《北海道造形教育連盟研究主題》

心豊かに未来に生きる造形教育

《全国大会北海道大会研究主題》

《いま》《ここ》《わたし》

を基軸にして

造形の未来を創る



会 期：平成13年9月6日(休)・7日(金)・8日(土)

会 場：札幌市

なかのしま幼稚園、札幌市立幌南小学校、札幌市立三角山小学校
ホテル・ライフオート、札幌芸術の森、道新ホール

主 催：全国造形教育連盟、北海道造形教育連盟

後 援：文部科学省

北海道教育委員会、札幌市教育委員会、札幌市教育研究協議会
全国連合小学校長会、全日本中学校校長会、全国高等学校長協会、
全国特殊学校長会、日本PTA全国協議会、北海道国公立幼稚園長会、北海道私立幼稚園協会
北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、札幌市立幼稚園長会
札幌市私立幼稚園連合会、札幌市小学校長会、札幌市中学校長会、札幌市立高等学校長会

目 次

○ あ い さ つ	大会長（北海道造形教育連盟委員長）	芝 木 秀 昭	3
	全国造形教育連盟委員長	矢 木 武	3
○ 祝 辞	文部科学省 初等中等教育局 視学官	遠 藤 友 麗	4
	北海道教育委員会 教育長	鎌 田 昌 市	4
	札幌市教育委員会 教育長	土 橋 信 男	5
○ ようこそ北の地へ	全国造形教育研究大会 運営委員長	窪 田 恵 子	5
○ シンボルマークについて、開会式・全体会次第			6
○ 大会日程			7
○ 記念講演者の横顔・イベント紹介			10
○ パネルディスカッション、ワークショップ、実践バザール			11
○ 大会研究主題			13
	研究主題と5つの扉		15
	5つの扉と授業づくり		18
	未来を創る造形ボックス		19
①	遊びと造形		21
②	もの・材料（環境）と造形		45
③	暮らしと造形		55
④	コミュニケーションと造形		65
⑤	個性と造形		77
○	札幌市全体図・各会場付近図		97
○	会場校紹介		99
○	札幌芸術の森 案内		100
○	各会場案内図	ホテル・ライフオー・札幌	102
		道新ホール，なかのしま幼稚園	103
		札幌市立幌南小学校	104
		札幌市立三角山小学校	105
○	全国造形教育研究大会のあゆみ		106
○	全国造形教育連盟規約		107
○	全道造形教育研究大会の開催地と研究一覧		108
○	全道造形教育連盟規約		110
○	平成13年度 全国造形教育連盟本部役員名簿		111
○	平成13年度 北海道造形教育連盟名簿・北海道地区サークル名簿		112
○	全国大会実行委員会組織図		116



ご挨拶

～北からはじまる造形の未来～

全国造形教育研究大会 大会長

北海道造形教育連盟委員長

芝木 秀昭

北海道造形教育連盟が、21世紀最初の記念すべき年に、第54回全国造形教育研究大会ならびに第51回全道造形教育研究大会を各地区サークル、札造連、札教研図工・美術部会と共に、ここ札幌市において盛大に開催できますことを心より感謝申し上げます。

さて、今回の全国大会は、日本の教育が大きく変革していく中での大会であります。

申すまでもなく、今日の教育現場は、子供をとりまく環境の悪化、人間疎外等々と多くの問題に直面しています。今、私たち造形教育に携わる者にとって、21世紀に生きる子供たちに、みずみずしい感性を回復し、「豊かな人間性」や「生きる力」の育成、「心の教育」を推進していくことが最大の課題であります。

北海道造形教育連盟は、造形教育の基本理念を一貫して人間育成の基本教科・科目として位置付け、感性・感覚・感情・表現という心の奥底の生き方そのものに関わることとして研究・実践を積み重ねてまいりました。

このような時に全国大会を開催いたしますが、今まで、道内各地の造形教育に携わる者たちが、「北からはじまる造形の未来」を合い言葉に大会の準備を進めてまいりました。

本大会では、子供たちに「豊かな心」や「生きる力」を育み、『<いま><ここ><わたし>を基軸にして未来の造形を創る』手がかりとなる大会であったか、ご参会の皆様方から忌憚のないご批評、ご指導、ご助言を賜りたいと思います。

終わりに、文部科学省、北海道教育委員会、札幌市教育委員会をはじめ、関係諸機関及び関係各位の心のこもったご援助、ご支援に厚くお礼申し上げます、ご挨拶と致します。



あいさつ

全国造形教育連盟委員長

矢木 武

21世紀最初の全造連大会をここ、広々とした北の大地北海道は札幌で開催されますことを心から嬉しく思います。人類が大きく発展した20世紀はその輝かしい繁栄とその陰に含まれる多くの矛盾をこの21世紀に引き継いで去っていきました。そこに含まれる問題の多くは著しい科学の進歩や消費社会の発展が引き起こしたところの人類の精神面の荒廃に拠っているところが大きいことは万人の認めるところです。その解決策はようとして見えてはきませんが、今私たちは造形美術教育と言う分野でこの大きな問題に立ち向かっています。それが私たちの職業的手段であるからではありませんが、それ以上に造形美術教育が直接人々の心に働きかける面をもっているからに他なりません。神戸の震災後や池田小の事件後の子供たちの心のケアに造形活動が果たした役割を見てもそれは明らかであります。このような特別なケースでなくても我々は日々多くの児童生徒と触れ合い、彼らに創造の芽と豊かな感性、開かれた心を植え付けていることは事実でしょう。しかし社会的にはこのような地味で目に見えにくいことは評価されにくいものです。造形美術教育も然りであります。小、中、高等学校の時数の削減はその際たるものでしょう。

一方、文化立国としてのわが国の将来をイメージする動きが文部科学省始め各方面で見られるようになりました。広く文化を支える国家の基盤は芸術家でもなんでもない一人一人の人々の文化的教養に掛かっています。このことから公教育における図工美術教育の必然性は明らかです。このような状況の下、今日ここに集う全国の造形美術教育関係の方々、校種、立場を超えた研究と協力から造形美術教育の新たな地平の見えてくることを期待しています。最後になりましたが、本大会のためご尽力くださいました文部科学省始め関係諸機関ならびに北海道の先生方に心より御礼申し上げます。



祝 辞

文部科学省
初等中等教育局 視学官

遠藤友麗

21世紀幕開けの全国大会である第54回全国造形教育研究大会及び第51回北海道造形教育研究大会が大自然の地、北海道にて開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

特に県別の研究会として北海道造形教育研究会が第51回を数えるということは、北海道の造形教育に携わる先生方の並々ならぬご努力と教育愛の歴史、より良い教育を求めてやまない情熱の現れであると深く敬意を表し、熱きエールを送りたいと思います。

平成10年度に示された新学習指導要領は来年度より小・中学校が完全実施に、高等学校においては平成15年度から順次実施になります。先生方におかれましては学習指導要領告示以来、新学習指導要領の求める精神や指導内容などについて真摯に研修を深めてこられたものと思います。小・中学校の完全実施を約半年後に控えたこの時期、今大会における研究の中身と討議には意義深いものがあり、その成果に大きな期待がされます。

さて、学習指導要領の完全実施を前に皆様にぜひご理解をいただきたいことがあります。それは、造形各教科におけるこれからの教育課題は、一つに、造形教育が豊かな人間の教育にとってなぜ重要なのか、日々の生活を生きる力としてどのような面で寄与している教科なのかという教科の存在意義や目的を論理的な根拠を基に明確にすること。二つに、いかにして創造活動の喜びを深く味わわせ、生きる力としての基礎基本を一層確実に身に付けさせ、児童生徒一人一人の個性を生かしつつ豊かな感性と自ら課題を見つけ自ら学び考え解決していく創造的能力を育てるか。そして三つに、その学習の実現状況をどのような絶対評価の規準によって客観的に評価し、児童生徒に確かな自信と生活を心豊かに創造していく意欲・態度をいかに培うかということです。教育観と実践方法の一大転換の時期に本研究大会において多くの先生が研究・研修を深められる意義は大きなものがあります。

その熱意と協議の深まりと成果を期待いたしましてお祝いと期待の言葉と致します。



祝 辞

北海道教育委員会 教育長

鎌田昌市

このたび、第54回全国造形教育研究大会北海道大会・第51回北海道造形教育研究大会が北の都札幌市を会場として、全国から多数の先生方をお迎えし、盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

さて、今日、学校教育においては、新学習指導要領の全面実施を目前に控え、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、学ぶことの楽しさや成就感を味わうことのできる教育活動の展開が求められております。

特に造形・美術教育においては、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、その基礎となる感覚・感性や想像力、技能などの資質・能力を育てることが重視されております。

このため各学校においては、これらのことを踏まえ、本道の豊かな自然や気候・風土に主体的に働きかける場や機会を大切に、豊かな感性をはぐくむ造形・美術教育の充実に努めているところであります。

また、北海道教育委員会におきましても、学校教育において児童生徒の美術への興味・関心を高めるよう支援するとともに、六つの道立美術館において、広く道民に親しまれる展示等の工夫に努めているところであります。

このような折、本研究大会が、幼稚園から小・中学校、高等学校、大学までの幅広い学校種間の連携の下、『<いま><ここ><わたし>を基軸にして造形の未来を創る』を大会主題に掲げ、研究発表や協議、パネルディスカッション、さらには、札幌芸術の森を会場として「ワークショップ」を展開し、研究を推進されますことは、大変意義深く、その成果に大きな期待を寄せるものであります。

終わりになりますが、本会のますますの充実・発展を心から祈念しまして、祝辞といたします。



祝 辞

札幌市教育委員会 教育長

土 橋 信 男

このたび、第54回全国造形連盟教育研究大会北海道大会並びに第51回北海道造形教育研究大会が、全国から多数の先生方をお迎えして、札幌市において開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、皆様方のお越しを心から歓迎いたします。

本市は、街づくりの基本構想の一つとして、市民の豊かな人間性・創造性を伸ばす環境づくりを掲げております。その一環として、昭和61年7月に「芸術の森」を南区の丘陵地に開設しました。ここには、野外美術館や芸術の森美術館をはじめ、ガラス・陶芸房、木工房、クラフト房など、造形教育に関連の深い施設も多数配置されております。

このような札幌の地において、全国の美術教育に携わる方々が一堂に会して研究を進められることは誠に喜ばしく思います。

本大会では、「風よ、大地よ、夢よ、北からはじまる造形の未来」を合い言葉に、「〈いま〉〈ここ〉〈わたし〉」を基軸にして造形の未来を創る」を大会主題に掲げ、幼・小・中・高の17の授業を公開し、校種を越えた話し合いや実践発表がなされるとともに、第3日には、「芸術の森」を会場に、ワークショップやパネルディスカッションなどが開催されると伺っております。

こうした今大会の取組は、今後の造形教育をますます充実、発展させるとともに、豊かな人間性・創造性の育成に貢献するものと、その成果に大きな期待を寄せるものであります。

結びに、本大会の開催に向けてご尽力いただいた関係者の皆様にご心より敬意を表しますとともに、全国各地からお集まりの皆様のご健勝、ご発展を祈念し、祝辞といたします。



造形の未来を夢みて

全国造形教育研究大会 運営委員長

札幌造形教育連盟委員長

窪 田 恵 子

今年は例年になく寒い冬となり、連日真っ白い雪の中でじっと春の訪れを待ち望んでいました。

春4月、新しい芽吹きと共に新年度がスタートし、ようやく新しい学校体制のもと、第54回全国造形教育研究大会北海道大会に向けて具体的に歩み出しました。やわらかい土の中から少しずつ芽を出す植物にも似て、日頃のささやかな実践の中から、子供たちと共に「表現すること」の大切さを確認しました。

本大会は、全道各地で実践を深めている北海道造形教育連盟の会員を中心に、未来の造形教育を夢みている人たちで、全国へ発信する大会です。豊かな子供の育成を願って、「いま」の姿を見てもらい、「ここ」にある物や場所とのかかわりを通して、「わたし」を思いっきり発揮している様子をご覧いただきたいと思います。授業実践の窓口として、私たちは、「未来をひらく5つの扉」を中心に組み立てました。どの授業も、図工科専科ではない担任による子供と先生とのふれあいも、大事にしている一要素です。毎日真摯に向き合っている子供と先生の心のふれあいにも目を向けていただければと思います。

私は、「心を紡ぐ」という言葉に引かれます。綿や毛を手でこまやかに紡ぎ、より強い1本の糸にするように、子供たちの思いや願いを、先生や友達と意見交流しながらより強い豊かな思いや願いに高めていくことの大切さを思います。そして、人間としてより幅の広い豊かさに向けて、造形教育が果たす役割の大切さを夢んでいます。

最後に、本大会のために、各方面からのご支援、ご指導、ご協力をいただきましたことに対し深く感謝申し上げます。ご挨拶といたします。

《大会シンボルマークへの思い》

『北海道に・北海道から・北海道の造形を描こう』というテーマでデザインしました。中央の「!」は、感動や発見、そして21世紀の始まりを表しています。マークに使われる色は、雄大な北海道の自然(太陽・大地・森林・空・海)を表しています。

絵筆を使って、北海道を描いているのは、この大会を参加者全員の力で、夢あふれる素晴らしいものにしようという願いをデザインしたものです。

シンボルマークデザイン

札幌市立三角山小学校
教諭 堀口 基一



◆開 会 式

第1日目

15:30~16:00

2FライフォートホールⅢⅢ

- | | | |
|------------|-----------------|---------|
| 1. 開式の言葉 | 全国大会実行委員会副委員長 | |
| 2. 主催者あいさつ | 大会長 | 芝木 秀昭 |
| | 全国造形教育連盟 委員長 | 矢木 武 |
| 3. 来賓あいさつ | 文部科学省初等中央教育局視学官 | 遠藤 友麗 様 |
| | 北海道教育委員会 教育長 | 鎌田 昌市 様 |
| | 札幌市教育委員会 教育長 | 土橋 信男 様 |
| 4. 来賓紹介 | | |
| 5. 祝電披露 | | |
| 6. 閉式の言葉 | 全国大会実行委員会副委員長 | |

◆全 体 会

第1日目

16:00~17:00

- | | | |
|----------------|----------------|-------|
| 1. 開会の言葉 | 全国大会実行委員会副委員長 | |
| 2. 全国代議員会報告 | 全国造形教育連盟 事務局長 | 伊藤 元一 |
| 3. 大会宣言 | 全国造形教育研究大会事務局長 | 櫻田 豊 |
| 4. 基調提案 | 全国造形教育研究大会研究局長 | 川島 正夫 |
| 5. 次期開催地代表あいさつ | 沖縄県 | |
| 6. 閉会の言葉 | 全国大会実行委員会副委員長 | |

大会日程

第1日目		開会式・全体会・諸会議						
9/6(木)		会場 ホテル ライフォート札幌						
9:30	10:00	12:00	12:30	14:00	15:00	15:30	16:00	17:00
受付	大学部会(総会・発表会)				受付	開会式	全体会 基調提案 大会宣言	
		受付	全中 全小 全美 全連 全 小 回 連	全国代議員会				

第2日目		公開授業・分科会・記念講演会							
9/7(金)		会場 なかのしま幼稚園・幌南小学校・三角山小学校・道新ホール							
8:30	9:00	10:15	10:30	12:30	14:00	15:00	15:10	17:00	18:00
なかのしま幼稚園				道新ホール					
受付	一斉授業公開	移動	分科会 研究討議・提言	昼食 移動	歓迎演奏会	休憩	記念講演会 遠藤友麗氏 -文部科学省視学官-	移動	レセプション サッポロビール園
幌南小学校									
受付	階段式授業公開	移動	分科会 研究討議・提言	昼食 移動					
三角山小学校									
受付	階段式授業公開	移動	分科会 研究討議・提言	昼食 移動					

第3日目		研修会	
9/8(土)		会場 札幌芸術の森(アート・ホール)	
9:30	10:00	13:00	
受付	ワークショップ(10:00~12:00)		終了・後始末
	パネルディスカッション(10:30~12:30)		
	全国実践バザール (10:00~10:30)	全国実践バザール (12:30~13:00)	

第2日目 9/7 (金)	8:30	9:00	10:00	10:15	移動
	受付				

5つの扉	なかのしま幼稚園 会場		幌南小学校 会場			
	遊びと造形	もの・材料 (環境)と造形	遊びと造形	もの・材料 (環境)と造形	暮らしと造形	個性と造形
公開授業	札幌 なかのしま幼稚園 「へ〜んしん!!」 (年少) 「探検に出発だ」 (年中) 「ながい、なが〜い」 (年長) 藤原 朋美 関口 真美 小野 旬子 横山 美恵 鳥羽 和美		札幌 幌南小学校 6年「この時、 この場で…」 沼田 玲子	札幌 山鼻小学校 5年「アルミ星 の旅」 齋藤 志保	札幌 新陽小学校 6年「くらし メイクアップ!」 湯浅 大吾	札幌 幌南小学校 2年「のつけてっ くつけてっつて」 能登谷治恵
			札幌 新陵中学校 中3 「せんであそぶ」 椿野 衣江	札幌 あいの里東中学校 中1「地域環境 を素材に」 豊田 ゆき	札幌 北都中学校 中1「うるおう 心だのしい瞳」 西川紫菜子	札幌 柏丘中学校 中2「自分の知ら ない自分の発見」 宮崎 亨
提言者	石狩 大地太陽幼稚園 中本真美子 平間 直樹		旭川 光陽中学校 川原 潤	函館 旭岡小学校 瀧本 伸幸	空知 子どもと文化を つくる会 渡辺 貞之	石狩 恵庭 和光小学校 養島 裕二
アドバイザー	札幌 顧問 伊藤 善彬		旭川 雨粉中学校 築山 尚明	函館 大森小学校 繪面 和子	空知 美唄 中央小学校 内田 暢一	札幌 常盤中学校 角力山 旭
記録者	札幌 白楊幼稚園 齋藤 三佳		旭川 豊岡小学校 菅原 良和	函館 港中学校 横岸澤英二	空知 滝川 東小学校 中澤 孝仁	石狩 恵庭 和光小学校 豊田 治子
運営委員 扉責任者	札幌 いなづみ幼稚園 森 美由紀		札幌 教育大附属中学校 水野 一英	札幌 西岡北中学校 安田 仁昭	札幌 平岡緑中学校 大高 雅子	札幌 幌西小学校 櫻田 悟
分科会形態	幼稚園分科会		小・中 合同分科会	小・中 合同分科会	小・中 合同分科会	小・中 合同分科会

10:30	12:30	14:00	15:00	15:10	17:00	18:00
分科会 研究討議・提言	昼食 移動	歓迎演奏会	休憩	記念講演会 -文部科学省 視学官- 遠藤友麗氏	移動	レセプション

三角山小学校 会場						
5つの扉	遊びと造形	コミュニケーションと造形		個性と造形		
公開授業	札幌 円山小学校 6年「ウォーター スタジオ三角山」 小林 充裕	札幌 三角山小学校 5年「ほくのわたし のワルトラガ〜ガシ」 藤森 久美	札幌 宮の森中学校 中1「ようこそ先輩 アニメーションで交流を」 高橋久美子			
	札幌 発寒小学校 5年 「キャラクター」 八田 博之		札幌 大倉山小学校 佐藤 真史	札幌 山鼻中学校 中2「わくわく 彫刻ハンフレット」 小澤 香子 (札幌彫刻美術館にて)	札幌 丘珠高等学校 美術部「抽象彫刻〜見え ないものが見えてくる〜」 本田 勝哉	
提言者	オホーツク 女満別 大成小学校 里見 貴史	札幌 桑園小学校 福島由紀子	札幌 札幌北中学校 中川原信生	石狩 北広島 大曲中学校 山崎 正明	札幌 新川高等学校 吉岡 隆	
			札幌 東栄中学校 白崎 博	札幌 真駒内曙中学校 平野まなみ	オホーツク 音威子府高等学校 平田 昌也	
アドバイザー	オホーツク 網走 東小学校 石橋 一郎	札幌 屯田西小学校 伊藤 武司	札幌 新陵中学校 三輪 望	石狩 千歳 青葉中学校 吉田 英夫	札幌 新川高等学校 近藤 暢男	
記録者	オホーツク 網走 中央小学校 宮武喜美子	札幌 真駒内南小学校 富樫 信博	札幌 藻岩中学校 小野 泰裕	石狩 北広島 東部中学校 小出 倫生	札幌 平岸高等学校 鉢呂 彰敏	
					札幌 開成高等学校 齊藤 周	
運営委員 扉責任者	札幌 三角山小学校 堀口 基一	札幌 藻岩南小学校 毛利 聡	札幌 手稲中学校 石川 早苗	札幌 柏中学校 寺田 実	札幌 東海大四高校 石川 雅昭	
分科会形態	小学校分科会	小学校分科会	中学校分科会	中学校分科会	高等学校分科会	

演題 「夢と感性と創造性をはぐくむ図工・美術教育」
—心豊かに生きる美術教育の教科性—

講師 遠藤 友麗 氏 文部科学省初等中等教育局視学官



□ 講師のご紹介

昭和18年横浜市に生まれる。昭和41年、東京芸術大学日本画科を卒業後、東京都江東区立第三砂町中学校、東京都教育委員会指導主事、文部省初等中等局中学校課・高等学校課教科調査官(美術・工芸担当)を経て、初等中等教育局視学官となり、現在に至る。中学校学習指導要領「美術」の改訂に携わる他、航空宇宙研究会員として「ロケットの打ち上げと人工衛星の軌道」の研究、文部省委嘱による「道徳」、副理事長を務める日本感性教育学会の「感性の理念と教育方法」の研究など、多岐にわたって活躍されている。現在も、高度な見識をもとに文部科学省生涯学習審議会(社会教育審議会)専門委員、国際協力事業団青年海外協力隊派遣選考委員を務める他、東京芸術大学大学院美術教育研究科講師も兼任し後進の指導に当たられている。

「中学校学習指導要領美術の展開」「楽しくうまくなるスケッチの学習」「思いやりを育てる中学校の学級経営」(以上明治図書)、「人間の在り方を求める新教育」「新しい道徳教育の展開」(以上ぎょうせい)、「変容する女子生徒の理解と指導」(光文書院)、「実践・生徒指導ハンドブック」(暁教育図書)、「高等学校芸術学習指導要領解説」(学事出版)の他、多くの編著書等がある。

東京銀座で毎年個展を開くなど、日本画の創作活動も精力的にこなし、平成3・4年度全国公募展「日本の自然を描く展」に入賞。平成元年、群馬県榛名町役場の新庁舎落成記念に「夕照富士」、フランス革命200年の記念品として「湘南富士図」がフランス財界に贈られている。

□ 講演の概要

確かな基礎の定着と創造的能力の開発は？ 生活に生きる美的能力を育て、美術がもっと生活で生きようとするために、私たちは、どのようなことを考え、実践していけばよいのでしょうか。

- ・新しい美術教育とは？—学校、社会教育、自由活動の区分け
- ・これまでの美術教育に「教科性はあったのか？」
- ・美術・図工教育は、本当に創造性や豊かな心を育てるのか？
- ・学校教育で必要な美術教育とは？
- ・生活に生きて働く美術・図工の教育を開発する。
- ・感性、想像力、創造性を育てるには…。

を論旨のポイントとし、これからの造形教育をどういう方向に進めていけば良いのかを、私たちにわかりやすく解き明かしてくれます。

アイヌのしらべ



北海道は明治以後、日本各地から開拓の民が入り、クラークをはじめとした外国人技師の指導も受けながら本格的に開拓されました。しかし、本道には長い間、独自の文化と伝統を持つアイヌの人々が暮らしていたのです。開拓期以来、文化や価値観の違いから、不当に差別と迫害を受けてきたのも事実です。新たな世紀を迎えた今、私たちは多様な文化や価値観を持つ国々、民族との交流を進めていくことが重要となっています。新たな造形の未来を見いだそうとする本研究大会で、アイヌの人々の伝統文化に触れることも有意義なことではないでしょうか。

今回は自然と見事に共生し、様々な物に神を感じてきたアイヌの人々の伝統的音楽を、故 砂澤ビッキ氏のご子息、加納 沖さんと奥様の八谷ルミ子さんの演奏で皆様にお聞かせいたします。

同時にホールロビーにアイヌの装飾文様についても展示いたします。ごゆっくりご鑑賞ください。

協力 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

パネルディスカッション

第3日目 芸術の森アートホール大練習室 10:30~12:30

《未来に向けて、自分を『ひらく』子供の姿とは?》

21世紀は「心」と「命」の世紀。五感を働かせじっくり取り組むことを通して、自分を成長させていく子供の姿をイメージすることがねらいである。

「ひらく」という学習の状態は、今回の大会では「感じて」「つくって」という造形活動の営みの中で、今までとは違う世界に降り立った自分の表現により、夢や願いが実現した状態でもある。

5つの扉において、「うるおう」「ひたる」「かかわる」「わかちあう」というそれぞれの学習で期待される子供の姿が「ひらいた」姿なのである。

この「ひらいた」姿が具体的にどのような状態なのかを、浮かび上がらせたい。

未来に生きる子供を育てるのが教師の役目。こんな子供を育てたい、そして20年後にどんな大人になってほしいのか。そのために私たちは、どんなことを考え、実践していけばよいのかを、すばらしい研究・実践を積み重ねてきた4名のコーディネーター、パネリストと一緒に考えてみましょう。

そう、造形の未来=子供たちの未来 となるために!!

コーディネーター
村瀬千樫氏



北海道教育大学札幌校
教授兼附属小学校長

兵庫教育大学大学院修士課程修了後、道内中学校教諭、北海道教育庁指導主事、後志教育局生涯学習課長を経て現職。主な編著書に「新しい時代を見る美術教師」(教育美術)「美術教育の創造」(北海道教育社)「美術教育を考える」(実践美術教育学会)「造形教育の基礎」(道教育大学公開講座委員会)等

パネリスト
岩崎由紀夫氏



大阪教育大学
教育学部 助教授

大阪教育大学大学院教育学研究科修了後、公立小学校教諭、大阪教育大学教育学部附属平野小学校教諭・副校長を経て現職。主な編著書に「造形遊びの魅力」(日本文教出版)「図工科の自由研究ヒント集」(黎明書房)「小学校総合的学習の新展開」(明治図書)「美術教育の課題と展望」(建帛社)等

パネリスト
水島尚喜氏



聖心女子大学
文学部教育学科助教授

東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程終了後、同大学附属竹早小学校教諭、山形大学教育学部助教授を経て現職。他に東京学芸大学教育学部、千葉大学教育学部でも講座を開設。主な翻訳、編著書に「美術教育と子供の知的発達」(黎明書房)「メディア時代の美術教育」(国土社)「新訂図画工作・美術教育研究」(教育出版)等

パネリスト
金井秀男氏



北海道造形教育連盟
顧問

北海道学芸大学札幌分校卒業後、小学校教諭、札幌市立桑園小学校校長として定年退職。北海道造形教育連盟委員長(第13代)。主な編著書に「構想画の指導」(学芸書林)「お話の絵」(日本文教)の他、毎日新聞「教育の森」3月号特集「動的プログラムを取り入れた『四層学習』」などを発表。

実践バザール

第3日目 芸術の森アートホールロビー 10:00~10:30, 12:30~13:00

全国の造形教育に携わる方々に、広く呼びかけ、これからの造形教育を支える研究・実践を交流し発表する場を設けました。各発表者毎のスペースの中で、作品・掲示物・論文やトークなどを用い、各々の研究・実践を発表する、いわば造形教育のフリーマーケットです。パネルディスカッションを挟み、2回開催いたします。何か糧になる物をお持ち帰りください。

ワークショップ

第3日目 芸術の森アートホール前広場 10:00~12:00

《自然とつながる、仲間とつながる》

札幌軟石を素材に

北方の新しい芸術・文化の創造を目指すためオープンした「札幌芸術の森」は、札幌市の南の丘陵地にあり、その名にふさわしい豊かな自然環境の中にあり、広さ40haにおよぶ敷地には、鑑賞・発表・制作・研修・情報交流の機能を備えた各種施設が点在しています。

このすばらしい環境の中、この地域でとれる札幌軟石と枝木を使い、アートホール前の広場を緑のキャンパスに見立て、地域の小学生、中学生が思い思いに広がり、つながることによって作品を、そして2時間の中で充実感あふれる楽しい思い出をつくりあげます。

軟石と木の枝、この素材は、普段何気なく見ている物です。でも、何かそこに人の意志をそそぎ込むことによって、そこに作品という生命が宿り、見る人にまた、新たな感動が伝わっていくのです。

このワークショップの作品づくりを通して、今大会の研究の授業テーマにある「感じて」「つくって」「ひらく」から最終の「ひらく」の段階を、子供たちの“高まりの自覚”と考えました。すなわち子供たちが、自己の可能性の広がりを自覚するものにしたいと願っています。

当日は、小学生（5・6年生）と中学生（1・2年生）でグループを作り、共同制作で作業をすすめていきます。参会のみなさまも、自由に子供たちに声をかけて、作品づくりに参加してください。



研究概要



【北海道造形教育連盟研究主題】

「心豊かに未来に生きる造形教育」

【全国造形教育研究大会北海道大会研究主題】

「<いま><ここ><わたし>を基軸にして造形の未来を創る」



はじめに

新世紀を迎え、私たちは、社会や自分自身に何かしらの変化や新しさを求めている。しかし、何が変化し、何をどのように変化させようとしているのか、まだぼんやりとして見えてこないというのが正直なところである。

変化するのは何か。教育現場では、「授業を変えよう」「子供観を変えよう」「意識改革をしよう」などといわれて久しい。今一度考え直してみたい。変化の対象は、“自分”自身であり、子供も大人も自分の中の変化を問いながら生きる時代だといえないだろうか。

心豊かに未来に生きる

豊かな心は、人やもの・自然などとかかわりをもちながら、様々な体験や問題を解決していく過程の中から生まれるものと考え。私たちは、造形教育を通して、自分の生き方を問い続け、さらに自分自身の変化に喜びを感じながら豊かな心を育み、未来を切り開いていこうとする人間を育てていきたい。

そのために、以下のことを大切にしたい。

「生きる」エネルギーとして「夢」「創造力」「想像力」を育む

夢は子供に力を与える。子供は、人や自然とふれあい、かかわりながら夢をかなえる力を蓄えていく。しかし、時代をそのまま映す現代の子供たちは、「むかつく」「キレル」など、現実への不満ややるせなさのアクションばかりが目につき、まるで夢をもつことを避けるように心を閉ざしているかのようだ。人や自然とのふれあいやかかわりを避け、想像する楽しさを忘れ、考えや問いをもたず、浮遊するようになってはならない。だからこそ、「夢」をかなえる大きなエネルギーとして、「想像力」「創造力」を回復したい。「夢」は、豊かな想像を生み、豊かな「生」を創造する。

手づくりの時間の中から「感性」を育む

手でものをつくることを見直したい。手でものをつくるというのは、単に手の巧緻性が高まることだけではなく、創造する知恵も鍛えられるのである。これは、「手で考える」ことであり、手で考える「時間」が保障される。この時こそが「人間として生きる感性を育てる」時間である。

極度に発達したコンピュータやメディア時代においては、「瞬時なはやさ」がもてはやされるが、人間が自分の力で想像し、つくり上げる時間は、「人間そのもののはやさ」である。足もとの小さな花に目をやる「時間」や「空間」に、人間そのもののもつ感動や感性が存在する。

感性は、人と人、人とものが共鳴しあって高まり深まっていく。感性が感性を呼び起こすのである。感性は人間に与えられた固有の財産である。この感性を捨ててはならない。

美しいものにふれ、創造することに心をときめかせながら、人間としての尊厳をつくり上げる造形（創造）活動を通して、人間として生きる感性を育てたい。

「誰がこう言った」という評論家のような言葉はいらない。「子供にこれを教え育てなければならない」というような呪縛に惑わされて、自分の目の前にいる子供の〈いま〉を摘み取ってはならない。子供の〈いま〉を摘み取ることは、未来も一緒に摘み取ってしまうことになる。

「未来」は子供と一緒に紡ぎ出せばよい。子供と「未来」を紡ぎ出すということは、子供が対象にかかわり、ものと対話することを十分に保障することである。ものと対話し、友と語らい、そして、自分と対峙する活動に造形の多くの価値がある。

心豊かに生きるには、身のまわりにある様々なことに感じ、自分の手でものをづくり、そのつくり出す過程の中で、自分を見つめ、新たな自分確かめながら、自分自身の手で未来をつくり出すことを大切にしたい。

ものづくり
↓
手づくり
↓
自分づくり
↓
未来づくり

〈いま〉〈ここ〉〈わたし〉と造形の未来

自分自身の変容
・成長を意識する

〈いま〉
〈ここで〉
意識改革する
新たな
〈わたし〉

他とのかかわりの中
から、新たな
自分を形づくる

自分づくりの
造形活動

すぐれたものづくりに受け継がれている心と技は、世紀を超えても生き続ける。その心と技は、人間の英知を集め、長い時間と苦労の中で生まれたものである。「つくる」営みの中で育まれる様々なことを、体験・経験する時こそが〈いま〉なのである。〈いま〉、何を、どのようにしていくか、その時の〈いま〉を見つめる自分自身に着目したい。

〈いま〉〈ここ〉で、自分=〈わたし〉と材料・環境などがかかわり合う。そのかかわり合いの中から、豊かな造形活動を生み出そうとする〈わたし〉をより意識することで、新たな〈わたし〉を見出していこうとすることが大切なのである。つまり、「こんなこともできた」「こんふうにやれそうだ」と、今までとは異なる発想や構想、技法などを使って活動したり、持ち味を発揮している自分を見出そうとすることである。

しかし、〈わたし〉だけでは、自分自身の変容に気づかない時もある。他と時間や場所を共有し、かかわり合いや対話によってより明確になる。それは、五感を通して実感した（獲得した）実体を積み重ねることであり、見ることでもとらえられるし、聞くこと、話すこと、味わうことでもとらえることができる。

〈ここ〉で共有した〈いま〉は、確かに〈わたし〉自身に記憶され、さらに、記憶されたものが、〈わたし〉を形づくっていくのである。

私たちは、幼児・児童・生徒とともに造形活動をつくり出し、その中で、自分の成長や変化を自覚しながら、豊かな心で未来に向かって生きる〈わたし〉を、自らつくろうとする幼児・児童・生徒の育成を図りたい。



未来をつくる子供たちのために

- 〈いま〉を大切に、未来に生きる夢を育む。
- 〈ここ〉を大切に、表現する喜びを分かち合える文化を築く。
- 〈わたし〉を大切に、心豊かに未来に生きる自分をつくる。

研究主題と《5つの扉》

—実際の授業づくりに向けて—

研究主題と 《5つの扉》 との関係

キーワードの定義

私たちは研究主題である『<いま><ここ><わたし>を基軸にして造形の未来を創る』の具現化に向かうために、キーワードの定義を確認することから始めました。すなわち、実際の造形活動へ向けて、

<いま>を今の自分～今の自分が持っているよさ～
<ここ>～場所・材料～
<わたし>～より自分らしい表現・夢や願いのふくらみ～

と定義したのです。

子供自身も持っているかけがえのない<いま>のよさが、<ここ>という場所や材料との実感を伴ったかかわりの中で共鳴し合い、記憶となり<わたし>に蓄積されていきます。この実感を伴った活動が<わたし>の世界をふくらませ、未来に向かって生きるより豊かなくわたし>づくりにつながっていくものと考えたのです。

実際の授業づくり
に向けて

私たちの目指す未来に向かって生きる豊かなくわたし>づくりを、実際の授業で実現するためには、もう少し具体化されたイメージしやすい授業像が必要になります。そこで、『感じてつくる』ことで<わたし>を『ひらく』造形活動という授業像を設定しました。研究主題と関連させて、

<いま> 『感じてほしいこと』
<ここ>で『つくってほしいこと』
<わたし>に『ひらいてほしいこと』

を授業づくりの柱とすることで、私たちが目指す造形活動を具体化してきました。

もう少し具体的に述べますと、『感じてほしいこと』とは造形活動で大切にしたい心ということになりますし、『つくってほしいこと』とは造形活動の内容ということになります。そして『ひらいてほしいこと』が従来の言葉でいう題材の目標や美的価値ということになります。さらにこの『ひらく』の中に、今までとは違う世界に降り立った<わたし>の表現による夢や願いの実現された状態、という意味ももたせました。私たちは子供が『ひらく』ことによって、内面が豊かになり、自分づくりや未来づくりに向かっていってほしいと願っています。

合い言葉は
『ひらく』

『ひらく』ということの子供の側からしますと“高まりの自覚”というように考えることができます。小学校高学年より上の子供では“自己評価”という形であらわれることが可能でしょう。また小学校低学年より下の子供では“没頭する”などの姿で現れると考えました。

子供の『ひらく』姿の現われこそ、造形活動を子供に提供する価値そのものです。同時に、子供が「過去」から「現在」への高まりを自覚する中で有能感や自己の可能性の広がりを感じ取るものであり、「未来」を紡ぎ出していく土台となるものと考えました。ですから、『ひらく』という考え方を授業づくりや授業評価の観点の中で重要視してきました。ですから、私たちは「子供の『ひらく』姿が見られたか」を合言葉に研究を進めてきたのです。

《5つの扉》とは？

私たちは、子供の『ひらく』姿を生むために、より具体的な造形活動の観点となり、その後の研究協議の切り口となるような《5つの扉》を設定してきました。これは、

第46回「全道造形教育研究大会 札幌大会」において

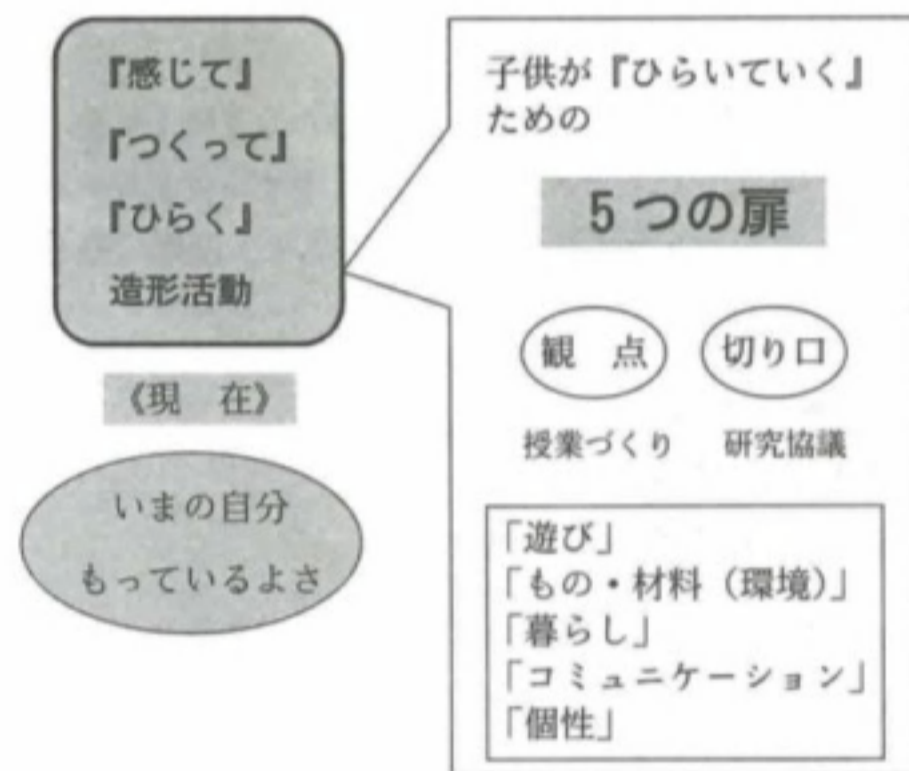
《8つの扉》（「造形と遊び」「造形ともの・材料」「造形と環境」「造形とイメージ」「造形とメディア」「造形と個性」「造形と技」「造形と鑑賞」）として北海道において研究してきたものを考察し直し、発展・統合させたものです。

実際の研究では、「遊びと造形」「もの・材料（環境）と造形」「暮らしと造形」「コミュニケーションと造形」「個性と造形」という授業づくりの観点でありその後の研究協議の切り口になりうる《5つの扉》を開くことで、子供の『ひらく』姿を見つけてきました。

今回、この《5つの扉》という切り口をもとに分科会を運営し、北海道の主張を全国の方々に問うていきたいと考えています。

幼稚園、小学校、中学校高等学校と校種の壁を取り払った中で研究していけることが、北海道造形教育連盟の強みだと自負しています。

また、今回の大会にあたっては、開催地は札幌ですが、提言や運営などは全道各支部によっても行われています。私たちは、自然環境に代表される北海道の独自性を遺憾なく発揮し、『北からはじまる造形の未来』足りうる大会にしたいと考えています。



研究全体図について

5つの扉には、その扉ごとに、キーワードを設定しています。それは、授業で期待する子供の姿であり、授業評価の観点でもあります。図に表すと次ページのようになります。

【研究主題】

<いま><ここ><わたし>を基軸にして造形の未来を創る

未来に生きる<わたし>づくり

実感

記憶

<わたし>

より自分らしい表現
夢 願い

有能感

可能性の広がり

ひらく

ひたる

「遊びと造形」

かかわる

「もの・材料(環境)と造形」

うるおう

「暮らしと造形」

わかちあう

「コミュニケーションと造形」

むきあう

「個性と造形」

感じて つくって

<いま>

今の自分
もっているよさ

であい

ふれあい

<ここ>

環境
場所 材料 人

【授業テーマ】

感じて つくって ひらく 造形活動

5つの扉から授業づくりへ

第1の扉

＜遊びと造形＞
「ひたる」

○子供たちが体全体の感覚を存分に働かせく遊ぶ＞中から、＜わたし＞らしさを見つける授業づくりを行います。自分の世界にたっぷりと「ひたる」ことで、＜わたし＞らしい造形表現が生まれます。

- ・身体性… 触覚を中心に五感を働かせる活動が造形意欲を引き出す。
- ・自主性… 子供がそれ自体に楽しさやおもしろさを見いだせる活動の大切さ。
- ・行為性… 並べる・積む・転がす・破るなど行為そのものを楽しむ活動を保障する。
- ・ユーモア… 頭で遊ぶ発想を生かした活動。知の遊び。

第2の扉

＜もの・材料
(環境)と造形＞
「かかわる」

○＜もの＞と対話し、その可能性を広げることで、＜もの＞と＜わたし＞との新しい関係が生まれる授業づくりに取り組みます。繰り返しくもの＞に「かかわり」、つくり続ける姿から子供の未来を見つめます。

- ・材料体験… 材料と対話し材料を味わう（鑑賞する）ことが造形意欲を生み出す。
- ・道具経験… 繰り返し道具を使うことで技が身に付き、そこから造形意欲が高まる。
- ・材料の特性を生かす… よりよい表現のための大切な技能。

第3の扉

＜暮らしと造形＞
「うるおう」

○造形表現を通して、自分の生活をより豊かにしていこうとする授業づくりを探ります。＜わたし＞が感性や美的感覚を沸き立たせ、生活環境へ働きかけることから、暮らしに「うるおい」が生まれます。

- ・生活の中で使える造形作品… 作品とのかかわりが強まり、見直しや意欲が生まれる。
- ・学校行事で生かされる造形… 造形活動の満足感が高まる。
- ・学校環境で生かされる造形… 自己表現の喜びの実感へつながる。

第4の扉

＜コミュニケーション
と造形＞
「わかちあう」

○＜わたし＞と＜わたし＞と一緒にものをつくり、その喜びを「わかちあう」ことを大切にした授業づくりを求めます。互いに理解し合い、心を伝え合う中で、新しい＜わたし＞をひらいていきます。

- ・作品を通じた交流… 作品発表の場を広げることが子供の表現の高まりへ。
- ・共同制作… 個のイメージを交流させることがよりよい表現へとつながる。
- ・鑑賞と表現の一体的な扱い… 感じ味わうことが表すことへの意欲となる。
- ・マルチメディア… インターネットやデジタル画像がコミュニケーションを広げる。

第5の扉

＜個性と造形＞
「むきあう」

○その子らしい創造性を発揮しながら、＜わたし＞に「むきあう」授業のあり方を問います。子供が主体的に問題解決に向かうことから、自分の中の新しい＜わたし＞に気づいていきます。

- ・自分らしさへの気づき… 自分の表現へのこだわりが自分らしさの発見へつながる。
- ・教師の見とり… 子供の「いま」を見とり「わたし」らしさへつなげる教師の役割。
- ・ポートフォリオ評価… 子供自身が自分の表現の足跡から自分を見つける評価。

未来を創る造形ボックス

—授業づくりのガイドブックとして—

<いま>
<ここ>
<わたし>
と
「感じて」
「つくって」
「ひらく」

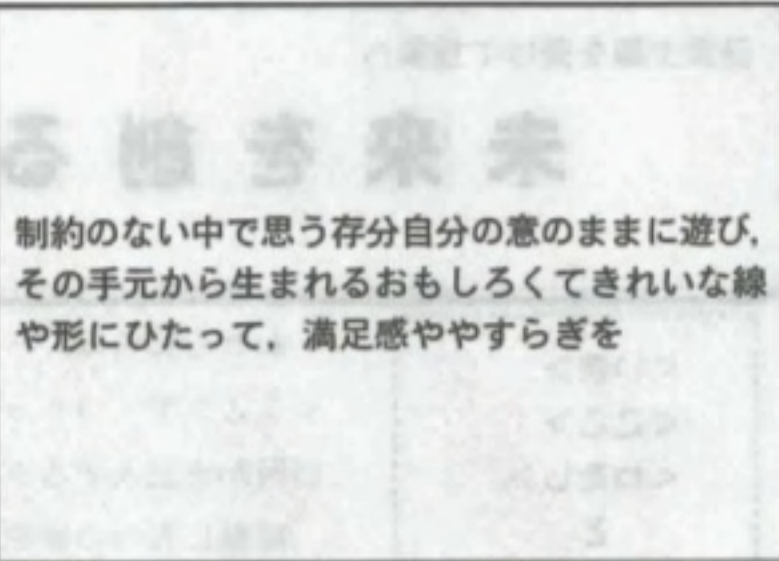
授業の評価
～どんなひらいた
姿が見られたか

わたしたちは、一つの題材（学習）で<いま>「感じて」ほしいことは何か、<ここ>で「つくって」ほしいことは何か、<わたし>に「ひらいて」ほしい姿は何かを記入するボックスをつくりました。

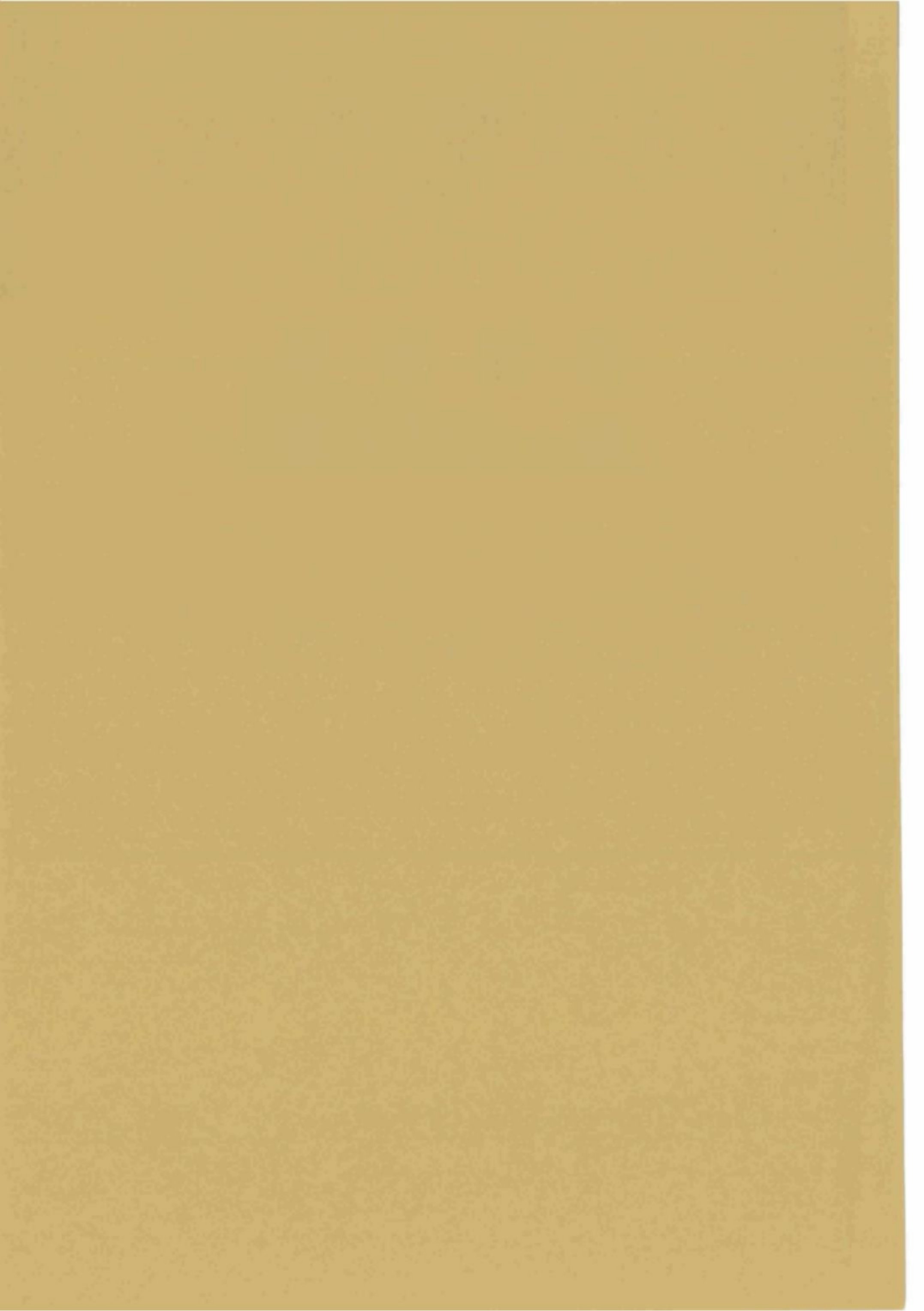
縦軸に五つの扉や題材、横軸に「感じて」「つくって」「ひらく」ことをとり、その題材で何を指導・支援し子供のどんな姿が見えればよいのかを明らかにしたボックスです。わたしたちは、このボックスで特に「ひらく」ことに子供たちの「未来にいどむ姿」が表れることから、これを「未来を創る造形ボックス」とよび、授業案はもとより、後から読まれる方が、この題材では子供がどのような姿になればよいのか（学習の評価～中学校以上）、またそのような姿を導くには何を教え（美的価値）、どのように指導・支援すればよいのか（活動内容）がわかる、授業づくりのガイドブックとして実践を積み上げていこうと考えています。

未来を創る造形ボックス

扉	題材	感じて	つくって	ひらく
		<いま>の<わたし>に感じて・気づいてほしいこと 大切にしたい心	<ここ>で身に付けてほしいこと 活動内容	力や経験を身に付けて、一步成長した 新しい<わたし> 題材の目標・美的価値
暮らしと造形 うるおう	玄関を光りあふれる空間に 共同制作	<ul style="list-style-type: none"> カラーシールを透しての光の美しさ・明るさ・温かさを ユニットによる構成の美しさ・おもしろさを 訪問者への思いやり・美しい空間へのあこがれ人への想いを 互いの作品を生かすために協力すること・思いやることの喜び・楽しさを 	<ul style="list-style-type: none"> カラーシールを切ったり、重ねたりして美しい色光を スケールの大きい、美しく想いのある構成をして 安全性を考え、明るく広い空間をめざして構成を 形や色の全体の調和を考えて、調整して 	<ul style="list-style-type: none"> 美しい光あふれる環境をつくり、身も心もうるおう姿 ユニットを使うと簡単に構成できるなあ。自信がついた<わたし>の姿 ～ 基礎的な学習 美しい色光をイメージして創り出すのは楽しい。またやりたい。 自分の家や部屋をきれいにしたい 訪問者をイメージして、温かく迎える気持ちもてる自分が好きだ ～ 自尊感情 色や形を全体的に調和するように他と協調しながら表現できた<わたし>ってすごい！
	中学全学年			

遊びと造形 ひたる	ころころ、ころがって 小学2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ころがる素材のおもしろさを ・素材をころがしてできる、線や形の発見・おもしろさを ・偶然の妙を 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材から生まれる線や形を重ねたり、からませたりして ・素材につける色をあれやこれや試して 	 <p>制約のない中で思う存分自分の意のままに遊び、その手元から生まれるおもしろくてきれいな線や形にひたって、満足感ややすらぎを</p>
もの・材料(環境)と造形 かかわる	おやすみなさい よい夢を 小学4年	<ul style="list-style-type: none"> 蓄光性のゴムのおもしろさ ・暗くなると光 ・針金を通すと、自由に形を変えられる 寝るときに ・落ち着いた気分で ・安らぎの気分で ・幸せな気分で寝られるように 	<ul style="list-style-type: none"> ゴムを ・引っ張る ・揺らす ・結ぶ ・束ねる ・試行錯誤を繰り返して、自分らしいすてきな形に ・お互いの作品を見て夢が広がる ・先生にも手伝ってもらって、さらに幸せに 	<ul style="list-style-type: none"> ・光ってすてきだなあ ・寝るときにこの光なら、食べるときはどんな光がいいかなあ。家の人にもつくってあげようかなあ。 ・自在に形を変える、ゴムのおもしろさを体験しもっとかかわりたくなったくわたり ・世の中のいろいろな光を知り、おぼろげながらも生活との結びつきをつかむ。
個性と造形 むきあう	わたしの今を見つめて 小学6年	<ul style="list-style-type: none"> ・画家の自画像からどんな自分を表したかったのか感じ取る。 ・今の自分への意識を持ち、その自分をどのように表すとよいか考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさをいかに表すか考えながら取り組む ・目や鼻など顔の部分に対してこだわりを持って表そうとする ・混色や着色の時に試みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現のよさや課題を意識しながら制作する ・自分と「むきあい」試行錯誤する中から生まれる表現の尊さを感じる ・今のくわたりが好き ～自尊感情
コミュニケーションと造形 わかちあう	紙でつくる美しく夢のあるおもちゃ 中学1年	<ul style="list-style-type: none"> 大事にしたい心 ・自分より幼い者への思いを ・紙の美しさを ・おもちゃの楽しさ・おもしろさを ・遊ぶことの楽しさを 	<ul style="list-style-type: none"> 大事にしたい表現 ・美しく夢のある紙のおもちゃを ・魅力的な工夫を ・色や形を美しくつくることを ・夢と優しさが表現できるような工夫をして ・驚きや意外性から楽しく遊べるように 	<ul style="list-style-type: none"> 大事にしたい経験・力・振り返り ・小1のこどもに、紙の美しさ・おもしろさを伝えようとする ・紙で作ったおもちゃの美しさ・おもしろさ・驚きをわかちあう ・夢のあるおもちゃの優しさ、お互いのメッセージをわかちあう

公 開 授 業
提 言





①

遊 び と 造 形

タイム スケジュール

9:00 9:15 9:30 9:45 10:00 10:15 10:30~12:30

◎なかのしま幼稚園会場

公開保育

幼稚園分科会

小6「この時、この場所で…」 沼田 玲子

小・中
合同分科会

◎幌南小会場

9:25~ 中3「せんとあそぶ」 椿野 衣江

小6「ウォータースタジオ三角山」 小林 充裕

小学校分科会

◎三角山小会場

小5「ギャラクター」 八田 博之

遊 び と 造 形

札幌市立三角山小学校 堀口 基一

遊 び に
ひ たるゆるやかに
ふくらんでいく
〈わたし〉
のせかいひたり
ひらいていく
〈わたし〉ひ たる
た め に

ある晴れた秋の日、校庭の端で何やら楽しそうに遊んでいる子供の姿が目にとまりました。その子供は、近くに落ちていた木の枝を集めてきて四角い棒状のものをつくり、その中にいろいろな木の実や小石、落ち葉などをきれいに並べていました。そして、ついつい興味深くなつてのぞき込んだ私に「いらっしゃいませ」とにっこり笑いかけてくれたのです。私も何だか嬉しくなつて、「随分とおいしそうなものばかりを揃えていますね。おすすめはどれですか？」と尋ねてみると、その女の子は、自慢げに顔を微笑ませて一つ一つの説明を始めたのです。「ええと、これは甘くて…、こっちは少し苦いのだけど…」「それじゃあ、これいただくかな？」と小さなどんぐりを二つもらい、お礼を言ってその可愛いお店屋さんを離れたのですが、どうも気になつて仕方がありません。しばらく、少し離れた所からこの子供の様子を覗かせてもらったのです。小声でお話しながらお店を切り盛りしたり、小さな花を飾ったり…。自然素材を上手く生かしながら次から次へと小さな世界が広がっていくのでした。

このように見立てたり、なりきったりする遊びは、誰しもが幼い頃に経験をもつ遊びです。想像の世界をふくらませ、心と体を通して目に見えたり、肌に触れたりする何かに表していきます。夢にあふれ、めくるめく「自分の世界」がそこにはあるのです。そして、その自分の世界にひたり、次々と広がりながら連続していく楽しさや、わくわくする心地よさを味わっているのです。このような遊びにひたる時、〈わたし〉の心や体は柔らかく解きほぐされ、〈わたし〉は自分のいる場所や手にするものから受ける刺激を自分の世界に位置づけていくという行為を連続していきます。生みだし、つくりかえ、つくり続ける、そんな試行の過程がひたっている姿として現れてきます。

この扉では〈わたし〉が〈ひらく〉姿、つまり遊びにひたっている姿を、想像をふくらませながら手や全身を動かして自分の世界にひたる姿とおさえ、そこから具体的な活動をつくっていきたいと思います。自分の世界にひたることは、心や体の感覚を柔らかくすると共に、感じる力を刺激しながら高めることにもなります。また、自分の世界をつくりあげることは、自分の存在という実感を生み出し自信や満足感をふくらませていくことにもなります。思いを表現し、紡いでいくことで、友達など自分のまわりにいる他者との関わりも芽生え、よりよい〈わたし〉の形成につながっていくのです。自分の世界にひたり、自分の世界を豊かに広げ、ふくらませ、深めていくことの大切さを造形活動を通して見つめることで、この“遊びと造形”の扉を開いていきます。

造形活動を通して子供たちが自分の世界をつくり出し、その中にひたるためには、いくつかの具体的なポイントがあります。たとえば、自分の思いのままにつなげてい



もの
ばしよ

ひと

とき

遊び心

くことのできる材料や場所の設定。活動のきっかけとなる遊びの提案。自分の世界にじっくりとひたれる時間の保障などです。活動のきっかけとなるテーマ、ひたれる時間などの設定です。このような内容が子供の遊び心と同調したとき、子供の中に遊びが自然に生まれ、自分の世界が動き始めるのです。

このような姿を期待するとき、扱いやすい材料を選ぶことや繰り返し活動できるように大量に材料を準備すること、遊び心をくすぐるようなテーマづくりや投げかけ方のアイデアなども大切になってきます。

子供たちが思う存分自分の世界にひたれるような具体的な授業をいろいろなチャレンジで探りながら、遊ぶことの大切さ、自分の世界を大切にすることのかけがえのなさを今一度、再確認していきたいと思います。



遊びにひたる 造形活動

ものと遊ぶ

ばしよで遊ぶ

ゆめ

遊び心

〈わたし〉

のせかい

『つなげてみよう!』 ～枝木であそぶ～

(小学2年生)

- 学校の近くにある防風林から枝木を集め、つないだり、組み立てたりしながら思い思いに遊んでみる。子供の背丈ほどもある枝木は全身の遊びを引き出していく。

【準備】枝木、粘着テープ、カラービニルテープ、ひも等

- ◆縛るよりもテープなどで巻き付けるという方法を提案した。

【活動】思い思いに枝木で遊ぶ

- ◆簡易に組み立てたりつなげたりすることができると、遊びが連続していった。基本的な形（四角や三角）から立体的にしていくことも思いついていた。



『オリジナル商品』 ～遊び心をくすぐる～

(中学2年生)

- 「こんなものがあたらいいな…」という夢をデザイナーとなりつくっていく。実際の商品などからもデザインやコピーを学びながら、自分の世界を表現していく。

【準備】紙、接着剤、自分で集めた材料等

- ◆デザインを繰り返しながら材料を収集した。イメージにあった「商品化」を遊び心を原動力に進めていく。

【活動】素材感や商品コンセプトまで

- ◆見た目のデザインだけでなく、心情面からも「商品化」を進め、遊び心いっぱいの世界に一つのものができる。ユニークな発想はどんどんふくらみ、知の遊びとして表現を楽しみながら満足感が生まれ、制作への意欲と探究が連続していった。



「へ～んしん!!」

「探険に出発だ!!」

「ながい、なが～い」

指導者 (年少) 横山美恵
鳥羽和美
(年中) 関口真美
小野句子
(年長) 藤原朋美



1. 扉との関連

ひたる

子供の日々の生活は「遊び」そのものである。この遊びの中から様々なことを感じとり、学んでいく体験を繰り返しながら成長している。遊びから広がる造形活動をとおして心身共に充実感や満足感を味わえる様な環境を設定する。

①興味・意欲

「何だろう?」「どうなるのかな?」「やってみよう。」

子供の興味、関心をひくような材料や用具を与えたり、自然環境にひたらせることで活動に対する意欲を高める。

②工夫・発展

「こうすると楽しいな。」 「もっとこうしてみよう。」 「こうできないかな?」

実際に遊びながら色々なことを発見し、工夫したり挑戦しようとする気持ちが芽生え、そこから更に遊びの内容が発展していく。

③協力・認め合い 保育者の援助

「友だちといっしょにやってみよう。」

自らの遊びを深く掘り下げていく子、友達や保育者とのかかわりから遊びを広げていく子などがいる。

個々から集団への遊びへと広がり、友達のよさを認め合う気持ちもでてきて、協力し合うようになる。

保育者は子供の発想を大事に、一人一人の自発性を大切にしながら援助していく。

④充実感・達成感

「やった!」「こんなにできたね。」「また遊びたいね。」「こんどはああやってみようか。」

自分の遊んだ過程や友達といっしょに楽しく遊んだことに満足し、達成感を得ると共に自信を持ち、それが次回への起爆剤となる。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材に興味をもち、素材の質を ・素材からの発想により、やりたいという意欲を 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい創意工夫や新たな遊びの発見等により、さらに遊びを発展させて 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びにひたりながら試行錯誤や心身ともに感じる開放等から芽生えた満足感や充実感を ・遊びの中で友達との協力やかかわりで友達のよさを発見し、仲間意識を深めて

3. 造形活動保育計画

月	年少児	年中児	年長児
4	<p>○線描き遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> クレヨンを使い、雨や水道水の流れを描いて遊ぶ。 <p>○ストローク</p> <ul style="list-style-type: none"> クレヨンを使い、小さな紙から大きな紙へと発展させ、自然と腕を大きく動かして描く。 	<p>○新聞紙遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞紙を破り、音を楽しんだり大きく腕や手を動かすことの楽しさを感じる。 大きな紙や小さな紙を破ったりちぎったり、みんなで集めて形を作ったり、上に向けて投げ落ちてくる様子を体全体で楽しむ。 	<p>○線描き遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> クレヨンを使い、模造紙に迷路を描いて遊ぶ。 チョークを使い、ビロティで迷路や線路、渦巻きを描いて遊ぶ。 <p>○絵の具遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ローラーに絵の具を付けて遊ぶ。 運動会の旗を集団でつくる。
5	<p>○スタンプング</p> <ul style="list-style-type: none"> 指に絵の具を付け、スタンプをする(母の日カードに応用) 絵の具の感触を楽しむ。 <p>○絵の具遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵の具を水でうすめペットボトルに入れ色水遊びをする。 色水を色によりジュースにみたくたり、アスファルトに絵や線を描いて遊ぶ。 	<p>○ちらし遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 模造紙に形を描き(へび)みんなでちぎったちらしを洋服に見立てて、好きなように貼り完成を楽しむ。 紙飛行機を作り、身近な素材での遊びを楽しむ。 <p>○ストローク</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな紙の上に腕をいっぱい動かしてクレヨンでストロークを描く。 	<p>○糸を使って</p> <ul style="list-style-type: none"> ラップの芯や鉛筆に絵の具を付けた糸を巻き付け転がし、曲線や波線を描いて遊ぶ。 個人が作ったものを持ち寄り、合わせることによって大きな波をつくることを楽しむ。
6	<p>○スタンプング</p> <ul style="list-style-type: none"> 指先、手、足の順にそれぞれスタンプをして遊ぶ。 小さな紙から大きな紙にスタンプをして遊ぶ。 絵の具の感触を体全体で味わう。 <p>○新聞、ちらし紙遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞、ちらし紙を破ったり、ちぎったりして解放感を味わう。 破いた新聞、ちらし紙をセロテープで先生や友達、自分に貼って変身して遊ぶ。 <p>○小麦粉粘土遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> たたいたり、こねたりして感触を楽しむ。 	<p>○はさみを使って</p> <ul style="list-style-type: none"> はさみを使って紙を切る楽しさを味わう。 <p>○スタンプング</p> <ul style="list-style-type: none"> 指で押ししたり、物を使って押すスタンプのできる模様を楽しむ。 自分で考える楽しさを味わう。 <p>○粘土遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像をふくらませながら自分で作る世界を楽しむ。 友達との会話のやりとりを楽しむ。 <p>○トイレットペーパーの芯を使って</p> <ul style="list-style-type: none"> トイレットペーパーの芯で作った双眼鏡を使い、ごっこあそびを楽しむ。 自分が作った物で遊ぶ楽しさを味わう。 	<p>○棒を使って</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園に遊びに行き、枝を拾って遊ぶ。 地面に枝を使って線や絵を描いて遊ぶ。 <p>○ちらし遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙飛行機、筒、剣、飾りを作って遊ぶ。 丸めたり、破いたり、ちぎったりして工夫して遊ぶ。 <p>○じょうろを使って</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を入れたじょうろで地面に線を描いて遊ぶ。
7	<p>○チョーク遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 腕や体を大きく動かし、長い線や大きな絵をみんなで描いて遊ぶ。 <p>○水鉄砲遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗剤の容器を使い、入れた色水を的に当て遊ぶ。 アスファルトに色水で線を描いて遊ぶ。 <p>○変身遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ポリ袋を被って遊んだり、ポリ袋に油性ペンで絵や線を描いたり、ちらし紙を破って貼ったりしながら思うものに変身して遊ぶ。 <p>○フィンガーペインティング</p> <ul style="list-style-type: none"> 指から手、腕へと糊絵の具の感触を楽しむ。 混色を楽しむ。 指で線描きをして描いたものを紙に写し取って楽しむ。 	<p>○砂場で遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで協力して大きな物を作る楽しさを味わう。 <p>○絵の具遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ただ描くことのほかに、様々な描材用具を用いて模様作りを楽しむ。 <p>○積み木を使って</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの友達と積み木を使い、積み上げたり、つなげたりしながら1つの物を完成させる楽しさを味わう。 <p>○箱・牛乳パックを使って</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人ひとりの小さな物を合わせ、少しずつ大きな物へと発展していく過程を楽しむ。 	<p>○砂場で遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂場で玩具や手を使って線を描いて遊ぶ。 <p>○絵の具を使って</p> <ul style="list-style-type: none"> ビー玉に絵の具を付けて模造紙の上を転がして遊ぶ。 偶然に出来る線描きを楽しむ。 <p>○ちらし遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> はさみを使って自分の好きな形に切ったり、切り込みを入れたりして遊びを深める。 <p>○地面で川遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 地面に山や川、ダムを作り水を流して遊ぶ。 水の流れを楽しむ。 <p>○川遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 川の流れを体感したり、川の周りの植物や生き物に関心を持つ。
8	<p>○おでかけあそび</p> <ul style="list-style-type: none"> 野原にピクニックに行ったという想定で手足に絵の具をつけて原っぱや花をつくって遊ぶ。 	<p>○ダンボールを使って</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな物を作り上げ、自分で工夫し考えることも大切にしていきながら友達と一緒に考え協力していけるように働きかけていく。 	<p>○ちらし、新聞紙遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月の遊びに新聞紙を加えて、ちらしでは作れなかったものを作って遊ぶ。 川で遊んだことを思い出しながら、川の周りの植物を作る。
9	<ul style="list-style-type: none"> 夜空にお出掛けしたという想定で黄色地に黒の絵の具を塗り、指、手を使い星や月を描いて遊ぶ。 		

4. 本時のねらい

- ・全身をのびのびと動かし、解放感を味わう
- ・変身することを楽しむ

対象：年少（3歳児）

指導者：横山 美恵

鳥羽 和美

5. 本時の展開 「へ～んしん!!」

場所：晴天時－ピロティ、L組 雨天時－N組

主 な 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p style="text-align: center;">あそびを広げよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>いろいろな描画材</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">描く</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">塗る</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">変身ごっこ</div> </div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>全身を使って</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">おでかけあそび</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">フィンガーペインティング</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">体操あそび</div> </div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な描画材を使うことでそれぞれの描画材に親しみを持ち、楽しんで遊べるように働きかけていく。 ・様々なごっこ遊び、変身遊びを行い変身する楽しさを味わえるように働きかけていく。 ・材料の小さなものから大きなものへと広げていき、身体を使って遊ぶ楽しさが味わえるように働きかけていく。
<p>本時</p> <p style="text-align: center;">なにしておそぼうかな？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px;">指で</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px;">手で</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px;">腕で</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px;">足で</div> </div> <p style="text-align: center;">全身を使って</p> <p style="text-align: center;">自分たちの世界にひたってあそぶ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">個人</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">集団</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・素材に親しみを持つ。 ・自分が変身することを、楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達の真似をして遊ぶ。 ・保育者や友達を変身させ楽しむ。 ・友達同士の変身を楽しむ。 </div> <p style="text-align: center;">変身あそびを楽しむ</p> <p style="text-align: center;">思い思いの変身を楽しむことができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のおそびに期待が膨らむように働きかけていく。 ・小さな動きから大きな動きへと遊びが広がるように働きかけていく。 ・保育者の働きかけから友達同士や自分が変身していくことを楽しめるよう発展させていく。 ・一人ひとりの変身から仲間同士がかかわりあって楽しめるように働きかけていく。 ・今日のおそびに満足し次のあそびへの期待を高めていく。

4. 本時のねらい

- 様々な材料を使った製作を楽しむ。
- 個人で作った物を持ちよることで、1つの作品ができることを喜ぶ。

対 象：年中（4歳児）

指導者：関口 真美

小野 句子

5. 本時の展開 「探険に出発だ!!」

場 所：I組・ホール

主 な 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p>自分でイメージしたものをつくってみよう</p> <p>身近な素材をつかって</p> <p>壁面を飾る 平面に飾る 立体にして 吊す飾り</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分で作った物で遊ぶ喜びを味わえるように働きかけていく。 • 身近な素材を使って遊ぶことで親しみを持てるように働きかけてく。 • 友達と関わりながらより大きな作品を作る楽しさ、喜びを感じられるように働きかけていく。
<p>本 時</p> <p>完 成 へ の 期 待</p> <p>切る 塗る 描く 貼る</p> <p>個人 ← 集団</p> <ul style="list-style-type: none"> • 材料を観て見て製作物へのイメージを膨らませていく。 • 自分で考え、工夫しながら製作することを楽しむ。 • 友達からのヒントを得て製作する。 • 1人で作れない部分は友達と一緒に製作する。 • 友達の良さを認めていく。 <p>個人で作った物が1つの作品になる喜び</p> <p>探 険 に 出 発 !!</p> <p>自分達の作品にひたって遊ぶ</p> <p>ごっこ遊びを満足いくまで楽しむことができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 皆で1つの作品を作り上げていくことを確認し、製作しようとする意欲や完成への期待を高めていく。 • 他の様々な材料を加え、自分の力で製作することを大切にしていく。 • 完成した作品を見ながら、皆で作上げた作品の良さを認めていく。 • 今まで作ってきた作品を鑑賞して、気づいたことや感じたことを引き出していく。 • 自分達で作上げた作品の中でごっこ遊びを深めていけるように働きかけていく。 • 活動を振り返ることで皆で作ったことや楽しく遊んだことに満足できるように働きかける。

4. 本時のねらい

- ・皆で力を合わせることの喜びを感じ、遊びを深める
- ・様々な方法での線描き遊びを楽しむ

対 象：年長（5歳児）
指 導 者：藤原 朋美

5. 本時の展開 「ながい、なが～い。」

場 所：B組・廊下

主 な 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p style="text-align: center;">線描き遊びの中からイメージを膨らませる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">チョーク クレヨン を使って</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">絵の具を 使って</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">糸・ひも を使って</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">ちらし を使って</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">地面に 棒を 使って</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">じょうろ 等 を使って</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・偶然から作られる線、自分でイメージして作る線等様々な線描き遊びを楽しめるよう働きかけていく。 ・遊びの中で用具の違いに興味を持つよう働きかける。 ・実体験を通してイメージを膨らませていけるように働きかける。
<p>本 時</p> <p style="text-align: center;">新しい描画用具を使って</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">長 く</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">太 く</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">思い思いの 線 で</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">破線 で</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">波線 で</div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">自分らしさを発揮して</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料経験を生かし、道具の使い方を工夫しながら自分の思いの線遊びを楽しむ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">集団</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら線を描く。 ・友達の描いた線に合わせて自分の遊びを深めていく。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">自分で考え工夫しながら線を描くことの喜び</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">一人ひとりが描いた線が集まることにより、1つのものが出来上がる満足感</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">新しい描画用具で思い思いに線遊びを楽しむことが出来た</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までとは違う環境での線描き遊びに意欲を持てるように働きかけていく。 ・出来上がりを期待しながら楽しめるように働きかける。 ・道具の使い方を工夫したり、友達と協力しながら描いていけるように全体の様子をみて働きかける。 ・遊びにひたっている中で気付いたことや感じたことを素直に表現し、更にそこから発展していけるように働きかける。 ・活動を振り返ることで、出来上がったものの良さを認め活動に満足の出来るように働きかけていく。 ・次回の遊びへの期待を高めていく。

感性をはぐくむ心をゆさぶる自然体験。 そこから始まるドラマ

提言者 中本真美子・平間直樹



環境と造形

「かかわる」

自然は、子供たちに、様々な驚きや感激を与えてくれます。幼児期において自然と関わること、その世界にひたることは、とても大切だと思います。子供時代の今、たくさんの自然に触れ、様々なものとの出会いや胸をときめかせる体験が、きれいなものを見てきれいと感じる気持ち、美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性を育むことでしょう。そのためにも、自然という環境を通しての教育を根本に、保育を考えています。森探検に行き、その中に入り込み、森の生活者になることで、そこから森の生きもの、動物や植物とのつきあい方を知ります。そのことからいろいろなものが見えてきます。聞こえてきます。雨上がりの土で遊ぶことから土や水の世界にどっぷりとつかり、その世界の人になることで、土とのつきあい方がわかります。土の温かさ、冷たさ、地球の営み、その不思議…。その様々な経験が、ともに心の原風景となり、感じる力が育まれる。そのことこそが、『夢見る力』なのです。

♣森の一員と なることから

森での 基地づくり

初めは、かなづちと釘を5才児の子供たちに存分に使わせるところから始まります。かなづちと釘の使い方を知り、森にたたく一つ一つの基地づくりに取り組む子供達。しかし、この森の基地づくりは、ただかなづちと釘の活動の発展としての活動ではありません。森に基地をつくり上げ、探検隊気分を味わいながら基地から出かけることで、森が自分たちだけの身近で特別な森となり、いつもは見えなかった小さなものや、いつもは聞こえなかった小さな音に気づくことができさらに興味や好奇心が膨らんでいくことを目的と考えています。心のそこから森の世界、その不思議な世界にどっぷりとひたり、その時を満喫し、体中で楽しめます。虫を探し、蛙と遊び、森の生活者となる…。そこから楽しい遊びがどんどん広がっていきます。

♣大地と太陽 のエネルギー の不思議 大地に育つもの

どろんこ あそび

子供たちにとって最も身近でどこにでもある水と土。晴れの日と雨の日の経験から太陽と水、大地と太陽のエネルギーの不思議を知る、それがどろんこ遊びの始まりです。この水と土と存分に遊ばせたい、体中で開放感、満足感を味わって欲しい。このねらいのもとに、どろんこ遊びをします。水が大好きな子供たちは、土山に水を流すことで、水路ができることを楽しみます。次に、水を溜めようと穴を掘ったり、水をせき止めたりします。その道をパンツ一枚で滑り降りたり、水の溜まった穴にすっぽりと沈むことのなんと楽しいこと！手も足もお腹も、時には顔も泥だらけになって遊ぶことの開放感といったらありません。この遊びの中で、子供たちは水と土の不思議に気づいていきます。初めは冷たかった水が、太陽の光の下でだんだん暖かくなっていくこと。土の性質の違い。泥水がやがて水と土に分かれ、沈殿していくこと。昨日はどろどろの土で作ったものが、今日のかたまっている。実体験を通して、様々なことを学び、覚えていくのです。

『この時、この場所で…』

指導者 沼田玲子



1. 扉との関連

自分の世界に
たっぷりとひたる
造形表現活動

基調提案で述べられているように、心と体をゆったりと解放しながら、心地よい想像の世界にひたる『遊び』は、子供たちの豊かな成長に欠かすことのできない大切な要素である。子供一人一人が、自分らしい感覚を働かせながら自由に表すことを楽しむ造形表現活動は、〈わたし〉らしさへの気づきや自信を育むものであり、以下の点に留意して題材化を図った。

① 子供それぞれの「こだわりの世界」が生まれること

自分だけの
こだわりをもって

これまで子供たちは、材料や表現方法をきっかけに自分なりの発想で場所を変化させて楽しむ『造形遊び』を経験している。その中で、自分だけの視点をもとに、自由につくったり描いたりする心地よさを実感している姿が見られた。

そこで今回は、普段何気なく見ている身の回りのものへの視点を変えて、楽しんで面白がったりすることを子供たちに提案したい。『一日の時間の流れ』や『天候の変化』をとらえ、一瞬の美しさや効果を期待しながら場所にはたらきかけていく活動は、自分だけのこだわりをいっそう深めることになるだろう。

② 互いのかかわりによる発想の広がりや、それぞれの独自性に気づくこと

その子らしさを
際立たせる
教師のががわり

子供たちは注目している場所や試みている方法が違って、互いに触発し合ったり、組み合わせたりしながら、つくりつくりかえていく。そうした活動にひたることは、一人一人の表現が高まり、広がっていくことにつながる。そこで教師は、その子独自のものの見方や変容の表れを確かに見とり、場に応じて全体に返すなどして、位置づけていく。そして、子供同士が互いに認め合い共感し合うことで、それぞれの感じ方の多様性に気づく場となるようかかわっていききたい。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
<ul style="list-style-type: none"> 時間の経過による変化をとらえ自分が「美しい」「おもしろい」と感じる状況をイメージして 	<ul style="list-style-type: none"> 見えないものを形にするための方法を探ったり、見通しを立てたりしながら取り組んで 表す方法や材料に対して、こだわりをもちながら試みて 	<ul style="list-style-type: none"> イメージに合わせて視点を変えたり、見方を広げたりした自分らしい表現に喜びを感じて 思いのままに表現したり、試行錯誤することの楽しさを味わって

4. 本時の目標

- ・時間や天候の変化で期待される『美しさ』や『面白さ』を意識しながら、場所や材料に働きかけていく。
- ・自分らしいものの見方を大切にするとともに、表現し続けることを楽しむ。

5. 本時の展開

主 な 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p>いろいろな場所で、いろいろな変化を見つけたよ。どんな表現ができそうかな？</p> <p>窓辺に差し込むキラキラした光を瓶に閉じこめたい。</p> <p>木の影が映る場所に鳥をとまらせてみたらどうかな。</p> <p>花壇に風車の花を植えようかな。風が吹いたら完成だ。</p> <p>軒下に絵の具を置いてみよう。雨が降ったら絵ができるかな</p> <p>休み時間の階段の賑やかな感じを表したい。どうしたら…</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段見慣れた場所、物であっても、視点を変えることによって感じ方が変わることをとらえさせる。 ・子供たちがイメージしやすいように、美術作品等の紹介も行う。 ・様々な場所に自由にかかわって、思いを巡らす時間をたっぷりと確保する。
<p>本 時</p> <p>『この時』『この場所』でしか完成しないものをつくっていこう。</p> <p>朝 昼 夕方 晴れ 曇り 雨</p> <p>この時だから</p> <p>この場所だから</p> <p>教室の 屋上の 中庭の 階段の 玄関の</p> <p>こだわりポイント</p> <p>こんな方法で</p> <p>こんな材料で</p> <p>いろいろ試していたら なかなか思ったようには もっといいアイデア いかないな。その場所が浮かんできた。 行って、つくってみよう。</p> <p>〇〇さんの考えていることは自分と似ている。合わせたら面白そうだ。</p> <p>まだまだいろんなことができそうだ。もっとたくさん試したり、つくったりしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが思い描く様子を聴き取り、色や形などの造形的な要素として価値づけていく。 ・自分の活動場所を明らかにしてから移動するよう知らせる。 安全面に配慮する。 ・活動を躊躇する子には、悩みに寄り添い、思いついたことを共に試してみる。 ・視点の斬新さ、独自性を認め、賞賛していく。 ・他の子の工夫を紹介したりさらに発想が広がるような提案をしていく。 ・子供たちの経験にない着彩や接着の方法については、いつでも提示できるよう備えておく。

『線 で 遊ぶ』

指導者 椿野衣江



1. 扉との関連

一本の線を
引くことに
ひたる

先史古代の人々が描いた洞窟画も、小さな子供が棒切れを持って地面に何かを描こうとする行為も、すべては一本の線を引く行為から始まった。一本の線を引く行為に、それが何かに見えたり、意味を持つことを不思議に思い、興奮し、喜びを感じ、やがて自分の意思で描こうとするものを考え、さまざまな試みをくり返すようになる。そこには無心に追求する（ひたる）姿が見えるはずである。

線を引く…
基本をつくる

「思ったとおりに線が引けたら…」絵を描くことはどれほど楽しい行為となるだろう。写実的な絵に対する憧れと自信を持って線を引けないことが大きな壁と感じられる時期である。線を引くことの楽しみを知るためには、まずは「線を引く」ことである。それもたくさん経験することである。

授業は毎回一人が交代でモデルをつとめるクロッキーから始まる。同じことの単純なくり返し、しかもそのわずかな時間の中で彼らは自分に向かい自分と語りそしてモデルをみつめモデルと語る、貴重な時間の集積である。これが3年間続く。一人で100枚のクロッキーができあがるわけである。評価は毎回、人と比べず、本人の成長点だけをコメントする。安心した気持ちで自己を表現することへの自信を身につけるためである。

線で遊ぶ…
素材との出会い

この毎回の授業で取り組んでいるクロッキーをベースとした授業を設定した。日常のクロッキーと方法はあえて同じくする。そこへ新しい描画の素材を与えられた時、新鮮な発見と喜びとその抵抗感に、どのように彼らはひたり、楽しみ始めることだろう。彼らがかつて初めて喜んで絵を描いた日のように、または現代美術作家たちが新しい表現方法を模索しようと数多くの手法を試みたように。

線にひたる…
開かれた自分の姿

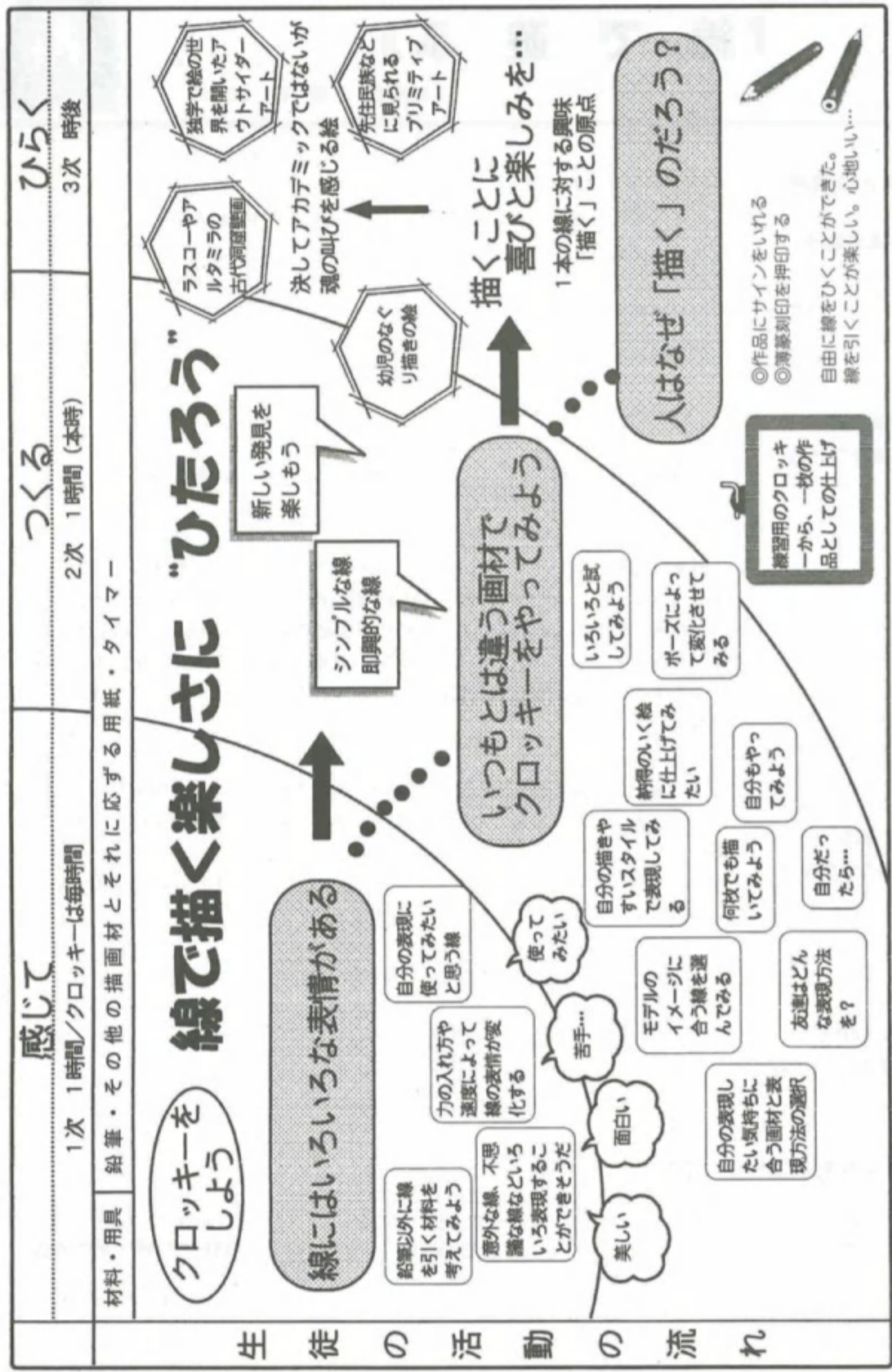
ここでは「描くことそのものに喜びを見いだせるような絵」を考えてみたい。もちろんそれは写実的な表現の絵を否定することではない。表現の能力に差はあっても、それにとらわれず、無心に自分を描く（ひたる）ことの爽快さを実感させたい。「思うように描けないから苦手」の意識の壁を作らせず、解放された自我を表現できること、表現の本質的な喜びを得ることに重点を置いて考えたい。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
・絵を描くことへの喜び、楽しみにひたる心	・本質的自我の表現 ・新たな描画材による多様な表現	・自我の自覚と個性に対する誇りと自信を持つこと ・自由自在な表現にひたることによって、表現することが好きになる。

3. 学習活動の展開

遊びと造形・悦南会場



生徒の活動の流れ

4. 本時の目標

- ・描画材の変化による線質の多様さに気づき、クロッキーを通して線の表現の面白さにひたる（喜びと楽しさを感じる）。

5. 本時の展開

主 な 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p>鉛筆以外の描画材を見つけ、試してみる</p> <p>↓</p> <p>線の表情を試行錯誤してみる</p> <p>面材の種類によってどんな線を表現できるだろう</p> <p>力の入れ方や速度による線の変化</p> <p>意外な線の表情の発見</p> <p>好みの線や好みではない線もある</p>	<p>・描画材・描画法例</p> <p>サインペン、クレヨン、筆ペン、羽ペン、割り箸、彩色筆、コンテ、雑巾、新聞紙、ストロー、指、炉ぼうき、利き手と逆の手で…など、クロッキー用紙、画用紙、段ボール紙ほか</p>
<p>本 時</p> <p>通常の鉛筆クロッキー</p> <p>いつもとははちがう画材でクロッキーを楽しもう</p> <p>・自分の表現のイメージに最も合うと思う描画材を選び描いてみる</p> <p>①スピード（時間内に描くこと） ②バランス（大きさと構図） ③プロポーション（人物の比例） ④線質 ⑤モデルの雰囲気 ⑥味のある作品づくり</p> <p>①～③の要素も大切ではあるが、ここでは④～⑥にねらいを置いて描いてみる。</p> <p>線で表された表現（ドローイング）のいろいろ</p> <p>・さまざまな表現の方法があることに気づく</p> <p>クロッキー実技</p> <p>・シンプルな線の表情の多様さと即興的な表現の面白さを楽しむ。</p> <p>気に入った一枚に署名(印)を入れてみよう</p>	<p>・クロッキーのポイントの確認の中で、本時のねらいを伝えていく。</p> <p>・鑑賞作品として</p> <p>洞窟壁画 幼児のなぐり描き プリミティブアート 作家作品 アウトサイダー アート作家作品 その他</p> <p>・作品づくりに没頭し、積極的に描くことを楽しめる雰囲気づくり</p>

6. 本時の評価

- ・線質の多様さを用いて、クロッキーをすることができたか。
- ・クロッキーを通して線を引くことを楽しめたか。

身体を使った造形活動

提言者 川原 潤



扉との関連

本来、造形活動とは、「場（空間）」、「材料（もの）」、「身体（からだ）」、「イメージ（あたま）」という四つの要素が絡み合ったものであるということがいわれている。

子供たちの砂遊び・どろんこ遊びや、大人が絵を描く行為も要素的には共通するものがあると考えられる。前者は、全身を使った「造形遊び」であるのに対して、後者は、主に視覚を使った手の操作による描画行為としての造形活動ととらえることができる。

そこで、中学校においては「造形遊び」という領域はないが、「遊び」<ひたる>という行為を通して、自分<わたし>らしさを見つけていく造形活動とは何かについて実践を通して考えていきたい。

身体について

「^{しんたい}身体」とは、どういうことなのか？ 哲学的に考えると「身体論」にまで及ぶ難しい内容であるが、ここでは「からだ」という言葉におきかえて考えていきたい。「からだ」を使って造形活動させるとき、中学校の場合、視覚以外の感覚器官を働かせる題材、繰り返しを使った単純な行為、地域素材を取り入れた題材、偶然性のある題材、行事と関連づけた共同作品づくりなどが考えられる。

中学校でも「身体」を使った教材開発がさらに進められることを期待したい。

実践について

● 「目を凝らして」～身近な自然物を描く～

- いろいろな自然物（素材）に直接触れることにより、視覚以外の感覚器官も使いより観察し、よりそのものに迫った表現をする。

[準備] にぼし、貝殻、コルクの栓、くるみ、小石、木片など

[用具] ケント紙、シャープペンシル、鉛筆、透明水彩絵の具など

[活動]

- ・野田弘志などの静物画を鑑賞し、質感表現<そのものらしさ>に気づき、自分の作品に取り入れようという意欲をもつ。
- ・いろいろな自然物に触れ、体感することを大切にしながら、細密な描写で対象をとらえる。できるだけ画面に大きく描かせることにより対象を細部までよく見させる。
- ・透明水彩絵の具を使い、淡彩で色付けをする。
- ・余白は、残してもよいとする。
- ・お互いの作品を鑑賞し合い、友達によさに気づく。



「ギャラクター」

指導者 八田博之



1. 扉との関連

楽しさを味わい、
楽しさを
感じとる

どの学習活動の中にも「楽しさ」という要素がなければ、子供たちは意欲的に活動することができない。遊びの中にある「楽しさ」という要素は、子供の心を刺激し、一人一人の思いを解放できる大切なものであると考える。そして、それを造形活動の中に位置づけることで、子供一人一人が感性を発揮し、表現する喜びを味わえるようになるはずである。そこで、子供が楽しさを味わい、かつ美しいと感じることができるとをねらい、題材を構成した。

意欲を引き出す
学習環境

① 普段の生活では味わえない体験が子供の心を刺激する。

いわゆるごっこ遊びといわれるものに子供が夢中になるのはなぜだろうか。そこには、現実と違う状況や場所に自分を置くという擬似体験や仮想体験がある。つまり、現実の世界ではできないことを体験することに子供たちは憧れを持っていると言える。だから、夢や憧れの世界の擬似・仮想体験、あるいは経験したことの無いことを体験するのは、子供の心を刺激し、夢中にさせることができる要素の一つだろう。

この題材では、作品をふわふわ浮かべられるような素材や、一瞬にして真っ暗にできる部屋を活動場所として用意した。ふだんの学校生活ではなかなか味わえない空間であり、子供たちにとって魅力あるものだと考える。その空間に浸ることによって、子供の意欲を引き出すことができるはずである。

美しさを認め、
味わうことが
できる場

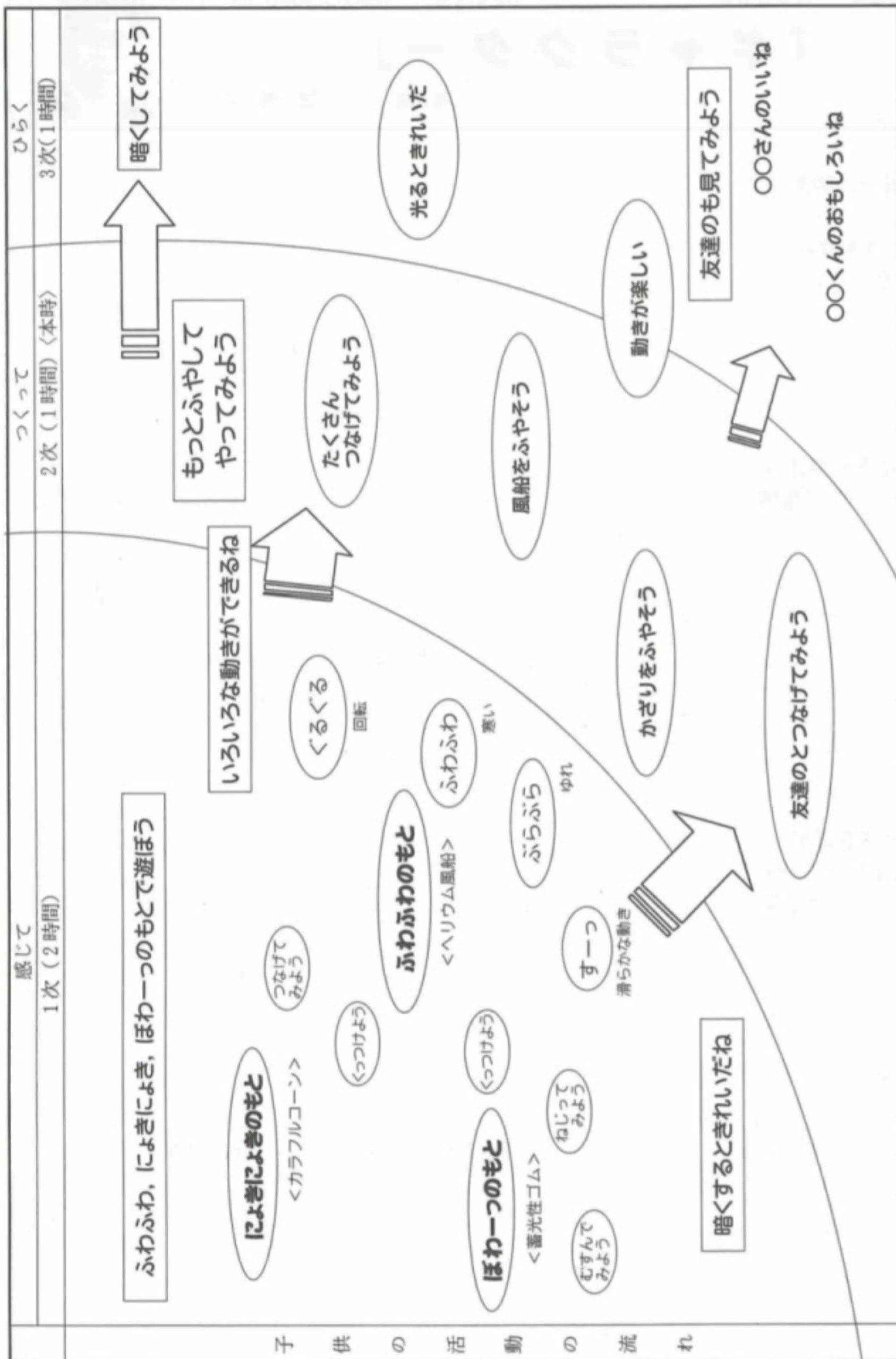
② 作品に美しさを感じられるように

浮かせたり、飛ばしたりして楽しんで終わるだけでなく、最後に自分たちの作品を鑑賞し、美しさを感じ合えるようにしたい。美しさを感じとり、素直に喜びあわすということで、子供の心はより豊かになると考えるからである。そこで、この題材では、子供たちの作品に蓄光性のゴムを使用し、活動場所を暗くできるようにしている。最後に明かりを消すことにより、『ギャラクター』たちは淡い光を発し、子供たちは美しさを感じ味わえるはずである。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
・明るい所での形や動きの楽しさ や暗い所での作品の淡い光の美 しさを	・作品の形や重さを考えながら、 空中に漂う作品を ・ゆれたり回ったりと空中でしか できない動きを工夫して	・形や色の美しさ、動きの楽しさ を味わいながら自分らしい発送 で表現する喜びと満足感を

3. 学習活動の展開



子供の活動の流れ

4. 本時の目標

- 作品の動きや空中に浮かぶ様子の楽しさに浸り、自分の作品をより楽しいものにしようとする。
- 明暗で変化する作品の美しさや楽しさを味わう。

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p style="text-align: center;">ギャラクターのもとで遊ぼう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>によきによきのもと</p> <p>〈カラフルコーン〉</p> <p>ぬらすとくっつくよ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ぼわーんのもと</p> <p>〈遮光性ゴム〉</p> <p>暗くすると光るよ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ふわふわのもと</p> <p>〈ヘリウム風船〉</p> <p>空に浮かぶよ</p> </div> </div>	<p>ギャラクターという言葉 を定義づけする</p> <p>活動場所・環境の設定</p> <p>材料の特質に浸り、 さまざまな美しさや動きの 楽しさを味わう時間を保障する。</p>
<p>本時</p> <p style="text-align: center;">もっとたくさんのもとで遊ぼう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>同じ色を集めて…</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>によき によき</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ぼわ ーん</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ねじって</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;"> <p>もっとたくさん つなげて…</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>むすんで</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>ふわふわと浮かぶように</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ふわ ふわ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ぐるぐる回るように</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;"> <p>ゆらゆらゆれるように</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>すーっとゆっくり落ちるように</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">ギャラクターの世界へようこそ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>きれいだね</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>楽しいね</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>〇〇さんのかっこいいね</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>おもしろいね</p> </div> </div>	<p>一人一人に応じた支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> • 技能面でのアドバイス • 賞賛、励ましなど • 予備の材料や道具などの準備 <p>活動する時間をできるだけ長くし、たくさん のことに気づかせたい。</p> <p>一人一人のこだわりを大切にする。</p> <p>※子供の活動は矢印の間を行ったり来たりする。</p>

「ウォータースタジオ三角山」

指導者 小林 充裕



1. 扉との関連

水にひたる
中から・・・

公園などの水のある場所で小さい子が自分の服がぬれることなど全くおかまいなしに、いつまでも夢中になって水で遊んでいる姿をよく見かける。そして、その時のその子の表情は本当に楽しそうで生き生きとしている。つまり水は『ひたる』ための魅力的な要素を多分に持っているといえる。

円山小6年生の子供たちは、都会という地域性からか、実生活において思いっきり体を使って自由に遊んできた経験が少ないようである。さらに高学年になり、周りの目を気にしながら行動する傾向が強くなってきている。そこで、この魅力的な「水」を用いて、思いっきり遊びにひたらせ、その中から規定にとらわれない自分の自由な発想の広がりを引き出して行こうと考えた。

魅力あふれる
水の特質

① 子供の好奇心を刺激する様々な要素をもった水の特質

水には子供が遊びにひたれる様々な特質を兼ね備えている。例えば、高い所から低い所へと動く性質(流動性)、物を浮かせる性質、透明な性質(光を通す、着色することも可)、また一つにまとめることもできるし、逆に散らすこともできるなど・・・しかし、水そのものに形がないという性質もある。そこで、この題材では透明な素材(ペットボトル、ビニール袋、ビニールシート、ホース等)を用いることにより、その水のもっている様々な特質が生かされると考える。

試みが保障
される場

② 水の特質を生かすための「試み」や「試行錯誤」の保障

水とさまざまな透明な素材からどんなことができるのかということの子供が試す時間を設定していく。こうした試行錯誤できる場を保障することにより、子供は自分なりに水の特質を生かしていくことができる。また、ここでは、発想がより膨らむよう、子供同士の情報交換や教師の支援を充分に行っていく。

多様な活動
を生む場所
とのかかわり

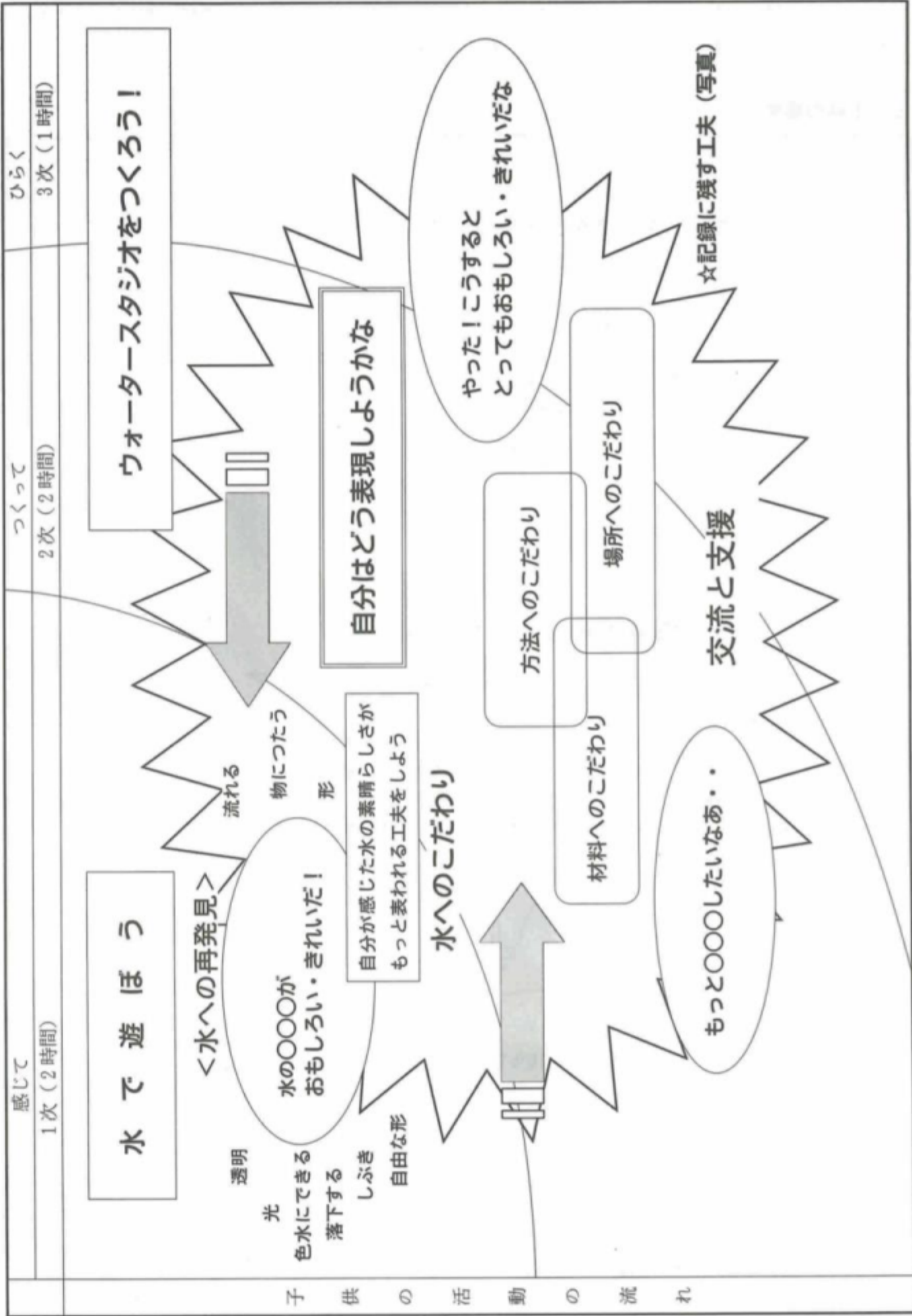
③ 自分の表現がより生かされる場所とのかかわり

様々な場所とのかかわりは子供の新たな意欲を引き起こしていく。活動場所を広い外にすることで、子供は自分が活動したい場所(斜面・壁・階段・手すり・木など)を選び、その場所とのかかわりが子供に刺激を与え、その場所故の自分なりの発想を行うことができると考える。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
・遊びにひたる中から水のおもしろさや楽しさ、美しさを	・水の美しさやおもしろさを生かすために、場所に働きかけながら自分らしい表現を試みて	・自分らしい表現の試みを通して再発見した水の美しさやおもしろさに満足して

3. 学習活動の展開



4. 本時の目標

- これまでに試みてきたことを生かして、場所にはたらきかけながら、自分なりの発想で表現しようとする。
- 自分なりの方法で水のおもしろさや楽しさ、美しさを味わう。

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> ウォータースタジオをつくろう </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">場 所 斜面 壁 階段 柵 塀 木 草 アスファルト面…</p> <p style="text-align: center;">ここなら、こんな ことができそう だぞ</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>自分の水へのこだわり</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">材 料 ペットボトル ビニールシート ビニール袋 ホース………</p> <p style="text-align: center;">これを使うと おもしろそうだ</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">方 法 並べる 吊るす 積む 流す かける 噴出する 光にかざす 色をつける……</p> <p style="text-align: center;">こうやると、水の ○○○なところが 表れるぞ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">交流</p> <p style="text-align: center;">支援</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>こうするといいいのか</p> <p>これはきれいだ!</p> <p>とてもおもしろい!</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 一番の瞬間を記録に残そう </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 予備の材料の準備 • 自分の活動場所を明らかにさせる • 安全指導を行う • その子の水へのこだわりや表現のよさを認めていく • 活動がうまく進んでいない子に対しては、他の子との交流を促したり、発想が広がるようなアドバイスを与えていく • 自分の活動を写真に撮れるように、カメラを用意しておく



フワフワアート（色わた作りと教材化）

提言者 里見 貴史

扉との関連

みんな『色』が大好きだ。「何色の服を着ていこうかな。」「何色のペンで書こうかな。」
そうやってみんな毎日『色』を楽しんでいる。

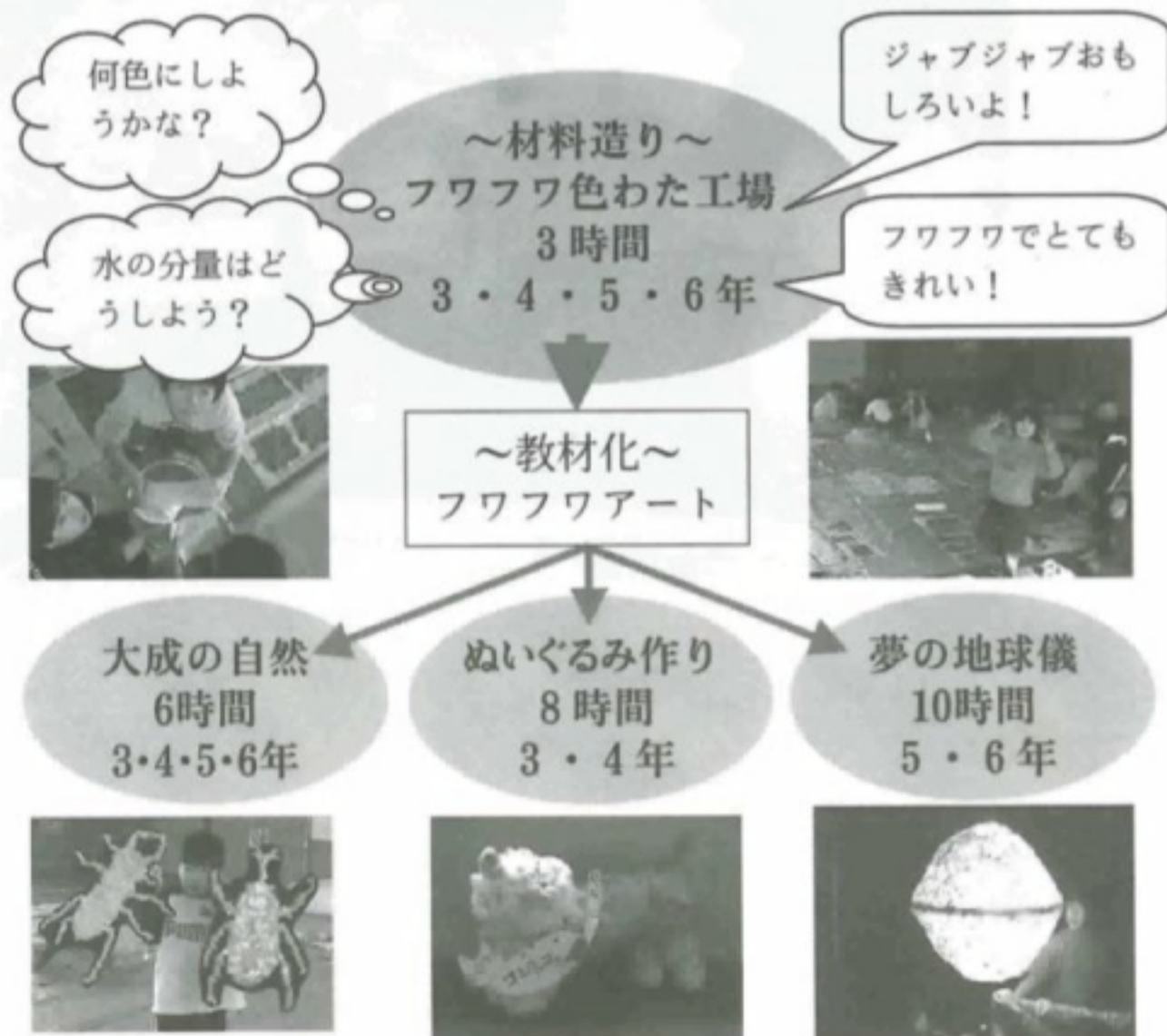
なのにみんな『色』が苦手だ。「色を塗ったら変になっちゃった。」「この色どうやったら作れるの。」授業での『色』となるとそんな声が飛び交うのだ。そんな「好きだけど苦手」の『色』そのものを楽しみながら扱い、学習できる材料はないだろうかと思っていた。

そんな時、武蔵野美術大学の今井先生を招いての、オホーツク・アートセミナーの案内文書が届いた。「ティッシュペーパーなど、さまざまな紙をアクリル絵の具を使って染めてみます。」と書いてあった。

当日は忙しくて参加できないけどこれは面白いと思って、さっそくアクリル絵の具を引っ張り出し、水の分量を変え、家中のありとあらゆるものを夢中になって染めてみた。その中で一番効果的だったのが『わた』だった。

フワフワした手触り、指先で自由に変えられる形、薄く広げたり小さく丸めれば変わる明度、何だかすごい大発見をしたみたいで嬉しくてたまらなかった。これを使ってどんな授業ができるかワクワクした。いや、これを作ることから授業をはじめようと思った。自分たちの手で『色』の材料を造る喜びを、今度は子供たちと一緒にひたりたいと思ったのだ。

実践について





（財）日本児童福祉協会

東京都港区

（財）日本児童福祉協会 イー・アール・エフ

〒105-8501 東京都港区新橋2-1-1





② 物の材料 (環境)と造形

タイム スケジュール

9:00 9:15 9:30 9:45 10:00 10:15 10:30~12:30

◎幌南小会場

小5「アルミ星の旅」 齋藤 志保

9:25~ 中1「地球環境を素材に」 豊田 ゆき

小・中
合同分科会

もの・材料(環境)と造形

札幌市立西岡北中学校 安田 仁 昭

〈わたし〉と 「もの・材料」

幼・小の造形遊びをはじめ、あらゆる造形活動において、その作品をつくり上げていくためには、当然のことながら、「もの・材料」が必要となります。

最近、技術の進歩から新しい素材が数多く開発され、私たちの身の回りには、いろいろな造形素材があります。「紙」という素材ひとつとっても、水につけると厚さが約6倍になる紙や、お湯で柔らかくなり、乾燥したら形状を保つ工作紙など、制作に使うと楽しそうだなと思わせる素材もあります。

新しい素材を用いた題材は、誰もが興味あるものだと思いますが、ともすれば、その素材を作品づくりの単なる材料として扱い、その特質に頼りすぎて、作品の幅を狭めたり、方向性を限定してしまうことも少なくはありません。

また、あらゆることにマニュアル化が進んできている現代において、作品づくりにまでマニュアルを求める子供たち（特に中・高生）がいるのも事実です。

だからこそ、今ここで大切なのは、子供の個性豊かな造形活動にかかわる「もの・材料」のあり方であり、どのようにして子供を「もの・材料」にかかわらせ、そのかわりの中で、どのような楽しみや喜びを味わわせていくか、ということです。つまり、「もの・材料」にじっくりと向き合うことが、制作を進めていく上で、まず必要なことであると思います。

幼・小の造形遊びでは、制作の前に「もの・材料」で遊ぶことからスタートします。まず、子供たちは、その素材を使っていろいろなことを試します。その素材が初めて出会うものであれば、興味はますます大きなものとなります。そして、素材にふれながらイメージを広げ、制作意欲を高めていきます。

しかし、学年が進むにつれ、その大切な出会いが少なくなっているのではないのでしょうか。

「もの・材料」には、それ自体が〈わたし〉に語りかけ、さらにその形体と特質が〈わたし〉のイメージをふくらませてくれるものもあります。そのような「もの・材料」に出会い、かかわり合い、心をこめてつくっていく中で、それが作品として生まれ変わるとき、そこで得た感動が、新しい〈わたし〉をつくっていくと考えます。

「もの・材料」に、真剣に、そして、楽しみながらかかわる子供の姿を見るのは、とてもうれしいことです。「かかわり」にはまった子供は、豊かな発想で、作品に工夫を与え、意欲的に制作を進めていきます。

そして、その「かかわり」を通して、材料の持ち味を制作に生かす力、自ら材料を選択する力、材料を効果的に組み合わせる力が身についてくるのではないのでしょうか。

そんな〈わたし〉の姿をたくさん見るためにも、我々は、子供の心をくすぐる「もの・材料」を用意していかなければならないと思います。

材料の特徴を把握することは、具体的なイメージを広げやすくします。材料のもつ形体や特性からおもしろさやイメージを湧かせたり、美しい形を見出したりすることができます。また、それが、自分の表現意図に合わせて形や材質を生かしていく工夫につながっていきます。このような材料体験を通して、材料の特徴を生かし、心をこめてつくるといった造形の方法を実感できるようになっていくと考えます。

「感じて・つくる」 「もの・材料」との 出会い

「もの・材料」との かかわりによってひ らかれた〈わたし〉

「もの・材料」 でひらくとは?

今、造形教育において、子供の個性を生かす多様な表現が大切であると言われて
います。授業で使用する材料についても、子供が創造性を発揮し、多様な展開がで
きるような工夫が必要となります。全員が同じ材料を用いるだけではなく、いくつ
かの材料から子供が選択するようにしたり、子供自身が材料を考えて準備をしたり
するなど、主題に基づいた表現材料の選択ができるようにすることが今後の課題と
なります。

しかし、まずは、一つ一つ、魅力的な「もの・材料」に出会い、かかわり、豊か
な材料体験を重ねる中で、多様な材料を生かした個性豊かな作品づくりにつながっ
ていくものと思います。そのためにも、子供にとって魅力的な「もの・材料」とは
何か、それをどう与えていくかということを考えていく必要があるのです。

豊かな材料体験が
子供の個性を生かす

どのように
「もの・材料」
とかわかるか？

【ゴムとの出会い】
性質のおもしろさを
「感じて・つくる」

『おやすみなさいよい夢を』（小学校4年生）

この題材では、子供たちが使っ
たことのない、蓄光性のゴムを
「材料に使うもの」として提示し
ました。このゴムは、明るいところ
で光を蓄め、暗くなるとそれ自
体が発光するというものです。そ
の中に針金を通すと自由に形を与
えることができるという特性をも
ち、それを利用して子供たち自身
が自分で安らげるような、落ち着
けるような作品をつくるという題材です。



題材の最初の時間では、子供たちがそのものとふれ合う場を設定しました。その
ゴムが暗いところで放つ柔らかい光に触れ、子供たちの造形への意欲もとても高い
ものになりました。また、引っ張ったり、結んだり、ぶらぶらと揺らして遊んでい
るうちに、子供たちはそれらの良さを感じ取り、自分の材料として、発想、構想し
ていくことができました。

【金属との出会い】
形のおもしろさを
「感じて・つくる」

『金属材料で生命誕生』（中学校2年生）

廃材や不要になった金属を材料として、動物の彫刻作品を制作していきます。あ
る部品を動物の姿や一部に見立てることから発想が広がってきます。

また、そのイメージした動物に
近づけるため、さらに必要な「材
料さがし」が始まります。

そして、苦勞して集めたガラク
タは、見事楽しい動物の彫刻となっ
て姿を変えることができました。

普段はあまり使うことのない
「金属」という材料にふれ、加工
や接着の苦勞を体験できました。
また、金属以外の素材も活用した
いという意欲も生まれてきました。



『アルミ星への旅』

指導者 齋藤志保



1. 扉との関連

もの・材料とのかかわりに浸らせるには

扉の貴重提案にもあるように、「もの・材料との関わり」から子供の造形活動をひらいていき、一人一人が「もの・材料」からイメージをふくらませ、豊かな造形活動が展開できるように授業づくりにあたった。

思いがふくらむ題材

①「もの・材料」への思いがふくらむ題材であること

- ・5年生の子供たちにとって、身近なものであり、触りごごちが新鮮である材料としてアルミを選んだ。紙のように切ることができ、新しい材料ではあるが今までの経験が活かされるのでどの児童にも親しみ易い。

もの・材料に浸り、新しいものとの出会い

②材料の持ち味を生かし、効果的に組み合わせる力を身につける

- ・「もの・材料」とのかかわりを通して、その材料に浸る中で、どんどんと考えが浮かんだり、他の材料との組み合わせが可能なものを考えた。さらに児童によっては初めて出会う用具もあるだろう。材料経験と共に用具経験も楽しみながら習得して欲しい。

自分や友達によさの気づき

③他者とのかかわりの中で自分や友達によさに気づき、認め合えること

- ・接合部分で一人一人がうなる場面があると思うが、友達の意見交流やもっとよくしたい所が同じもの同士で考えていけるようにしていきたい。

一人一人のイメージを大切に

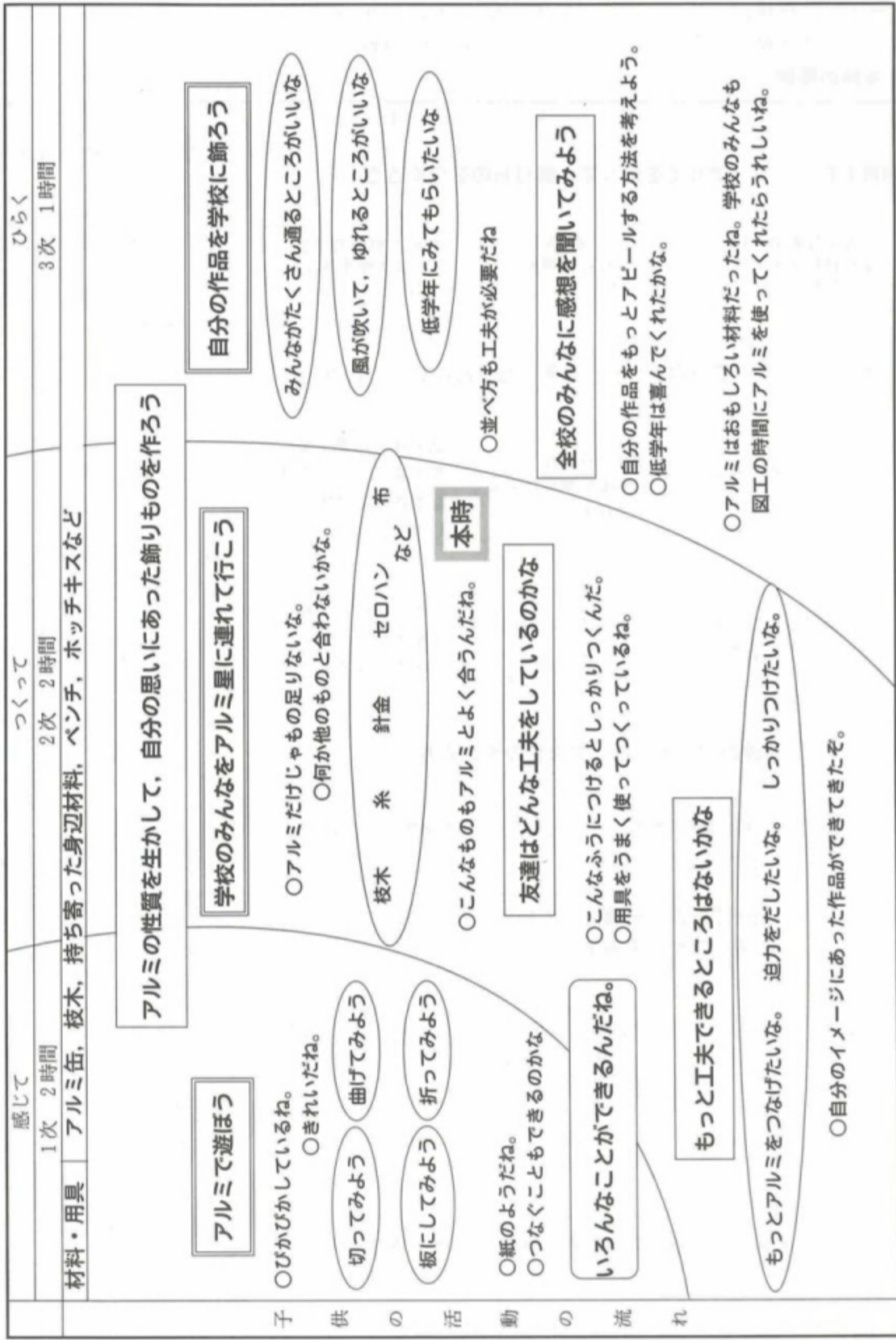
④一人一人のもつイメージを大切に、思いをつなげていけるように励ましていくこと

- ・イメージはその造形活動にとって、たまごのようなものである。一人一人のはじめの一步であるたまごを大きく成長していけるように励まし、みんなで認め合っているような授業にしたい。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的感覚》
<ul style="list-style-type: none"> ・アルミの光沢の美しさを ・材料の組み合わせのおもしろさを 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミに繰り返しはたらきかけることからそのよさを見つけ、思いをふくらませて 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の可能性を広げ表現する喜びを

3. 学習活動の展開



4. 本時の目標

- 遊びの中の体験を生かし、ものにはたらきかけ、自分なりの作品にしようとする。
- いろいろな表現の仕方を知り、イメージを広げる楽しさを味わう。

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p style="text-align: center;">アルミを使って、飾りものをつくろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 25%;"> いろいろなものとの組み合わせもできるんだね。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 25%;"> つける時にいろいろな用具を使うね。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 25%;"> 遊んだ時の方法がいくつか使えるようになったよ。 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 遊んだ時の体験を学級みんなのものとして、そこから自分に合った方法が選択できるようにする。 • 用具の安全な使い方を指導する。
<p>本 時</p> <p style="text-align: center;">自分のイメージにあった作品にしていこう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> とりが飛んでいるようにしていくのよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> きらりと光った物体を学校に出現させるぞ！ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 低学年でも見て楽しめるように、不思議な生き物の世界にしよう。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> もっとアルミを大きくするためにつなげたい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> つなげ方が分からないな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> いろいろなものともっと組み合わせたらステキになるな。 </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">友達のアイデアボックスをのぞいてみよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;"> いろいろな工夫があるんだな。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;"> やり方を直接聞いてこよう。 </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">自分で友達から教えてもらったやり方を工夫してやってみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> つなげるのがだんだん慣れて大きくなったんだか迫力がでてきたぞ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 他の材料との組み合わせもおもしろいな。自分なりに挑戦してみるぞ！ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 動くようになったら低学年の子も喜ぶな！ </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">次のイメージが湧いてきたぞ！作品もできてきたぞ！</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 作りながらイメージを広げていけるように支援する。 • (どんなところをどうしたいのか) はっきりできるようにカードに書かせる。 ※カード……学習カード <ul style="list-style-type: none"> • 黒板に自分の成功したつくり方を貼っておき、解決方法が探れるようにしておく。 • 解決の時は友達に積極的に関わられるように交流の場を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> • お互いのよさや課題を話し合うことでもっとよくしたいという意欲や、自信にもつながるように認め励ます。

地域素材を生かす〈アイロンプレスで草花アレンジ〉

指導者 豊田 ゆき



1. 扉との関連

[もの]と
[わたし]との
新しい関係

今回授業を考えるにあたり、素材へのあたらしい『発見』と素材へのかかわりの中から豊かな『発想』を引き出したいと考えた。

普段は気に留めないような身近な素材が、手を加えることによって、「もの」へと生まれ変わることの面白さ。また、「もの」とかかわる中で新しい発想が生まれていく・・・そうした活動を通して素材である「もの」への取り組みを深めていきたい。

素材の発見

「もの」の豊富な時代に生きている子供にとって、既製の材料はいつでも、どこでもお金を払えば手に入るといえる。しかし、そうして用意された材料には五感を通して得られる「実感」がないのではないだろうか。

元来、素材は身近なもののはずである。手にとり、五感を通しかかわることでそこに子供は生まれ変わった素材の新しい形を見つける。そこで初めて自分の「もの・材料」を手に入れることができるのである。

深めていく 「かかわり」

生まれ変わった素材を「材料」として、さらに新しい作品を作り上げていく。そこで「材料」の新たな魅力に気づき、「もの・材料」へのかかわりをより深めていきたい。

実践について

地域に生えている草花は生徒にとって普段は気にも留まらない身近な風景であろう。そうした身の回りの草花をあつめ、アイロンプレスによって押し花状にし、作品の素材へと変化させる。子供はその素材を使って作品づくりをすすめていく。「身の回りの草花」に手を加えることによって自分の「材料」を自分で作り出していくのである。

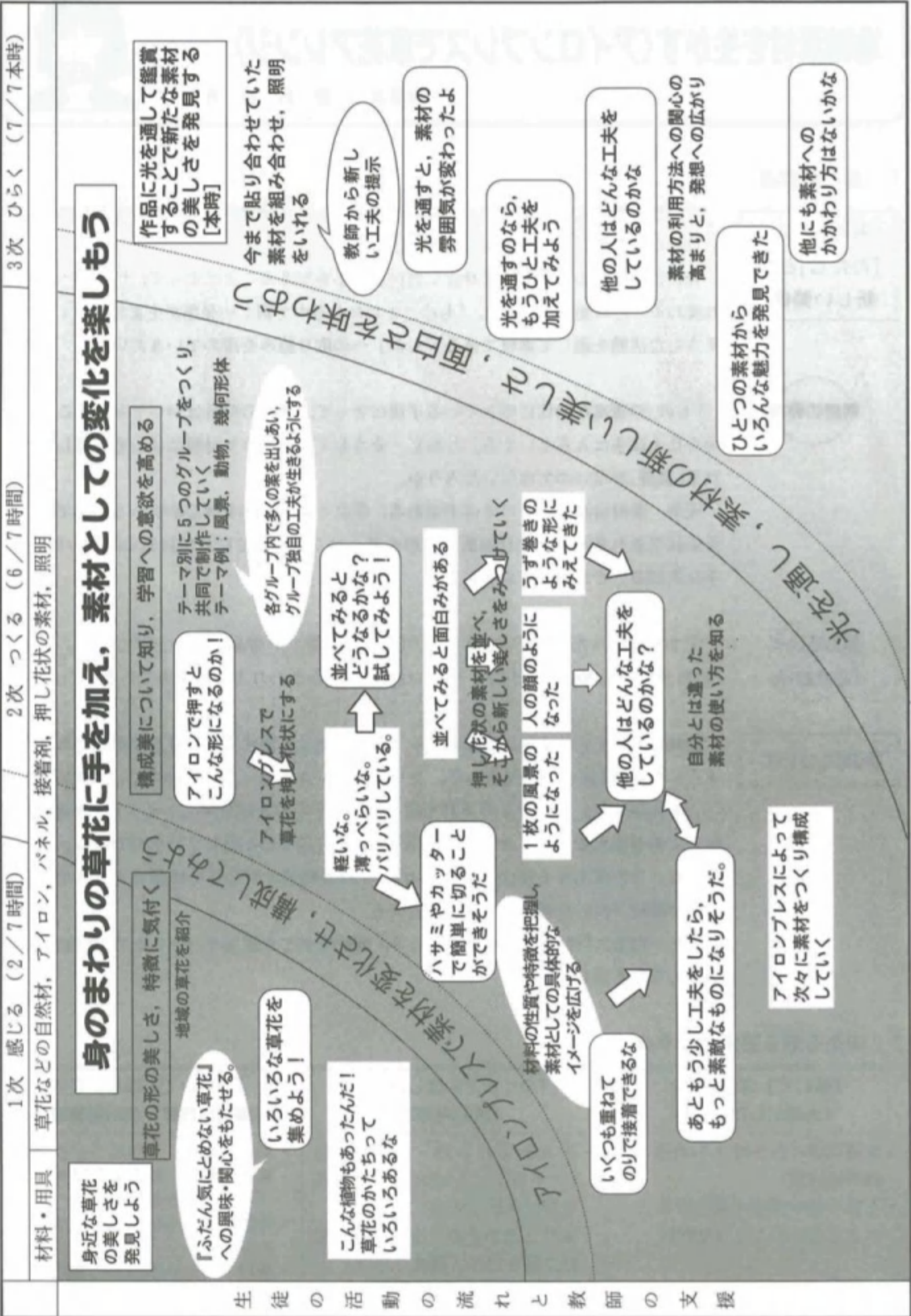
なお、今回使用する技法(アイロンプレス)は短時間で押し花を作製できるので、必要な時に随時「材料」を補充することが出来る。

また、和紙に「材料」を構成し貼り込み、照明をあてた展示を行うことで「材料」の新たな魅力を引き出したい。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値観》
<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境に目を向ける(身近な自然の再認識) ・五感を使い草花を採取することによる思いのこもった材料 	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれ変わる形・素材の発見(アイロンプレスによって草花を押し花状にする) ・素材とのかかわりを深める(和紙に貼り付け、構成していく) 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材を生かした作品づくり ・素材の新たな魅力を発見する(照明による展示) ・仲間の工夫を知り、お互いのよさを味わう ・素材とのかかわりから関心の深まり、発想の広がり。

3. 学習活動の展開



4・本時の目標

- 材料とかがわる中で素材の変化を楽しむ。
- 作品に光を通して鑑賞することで、新たな素材の美しさを発見する。
- 学習内容を確認し、意欲的に制作する。

5・本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点
<p>前時まで アイロンプレスで素材を変化させ、構成してみよう</p> <p>1枚の風景のようになってきたぞ</p> <p>人の顔に見えてきた</p> <p>渦巻きのような形に美しくできたな</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 押し花状の素材を並べ、そこから新しい美しさを見つけていく • 自分たちの取り組みをグループごとに話し合わせ、まとめておく
<p>本時 他の人はどんな工夫をしているのかな</p> <p>あの並べ方、きれいだな</p> <p>この草花を使うとこんな形になるのか</p> <p>同じ材料でも、見方によって変わってくるなあ</p> <p>新しい素材とのかかわりの提示 光を通すと、素材の雰囲気が変わる</p> <p>いろんな工夫ができそうだ。試してみよう！</p> <p>この上に重ねてみよう</p> <p>こういう形の素材を作ろう</p> <p>光を通すなら……こんな工夫をしてみたい！</p> <p>光を通して見てみよう！</p> <p>新しい発見 雰囲気が変わった 驚いた</p> <p>素材へのかかわり 手を加えることでものは変化するんだなあ</p> <p>活動を通して いろんな工夫があるな</p> <p>ひとつの素材から いろんな魅力を発見できた</p> <p>他にも素材へのかかわり方はないかな</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学習への想いを各グループごとに発表。 『いままでの材料とのかかわり・どのような発見をしたか・どんな苦勞と工夫をしたか・今日の学習への意欲・など』 • 教師から作品例の提示(新たな素材の工夫に関心が持てるように) • もう一工夫加えていくように • 各グループのパネルを組み合わせ、内側に電球を入れて、光を通した作品を鑑賞する • 新たな素材の美しさに感動できるように • 個人でレポート用紙に記入をする • 率直な感想を発表しよう

光のファンタジア

提言者 瀧本伸幸



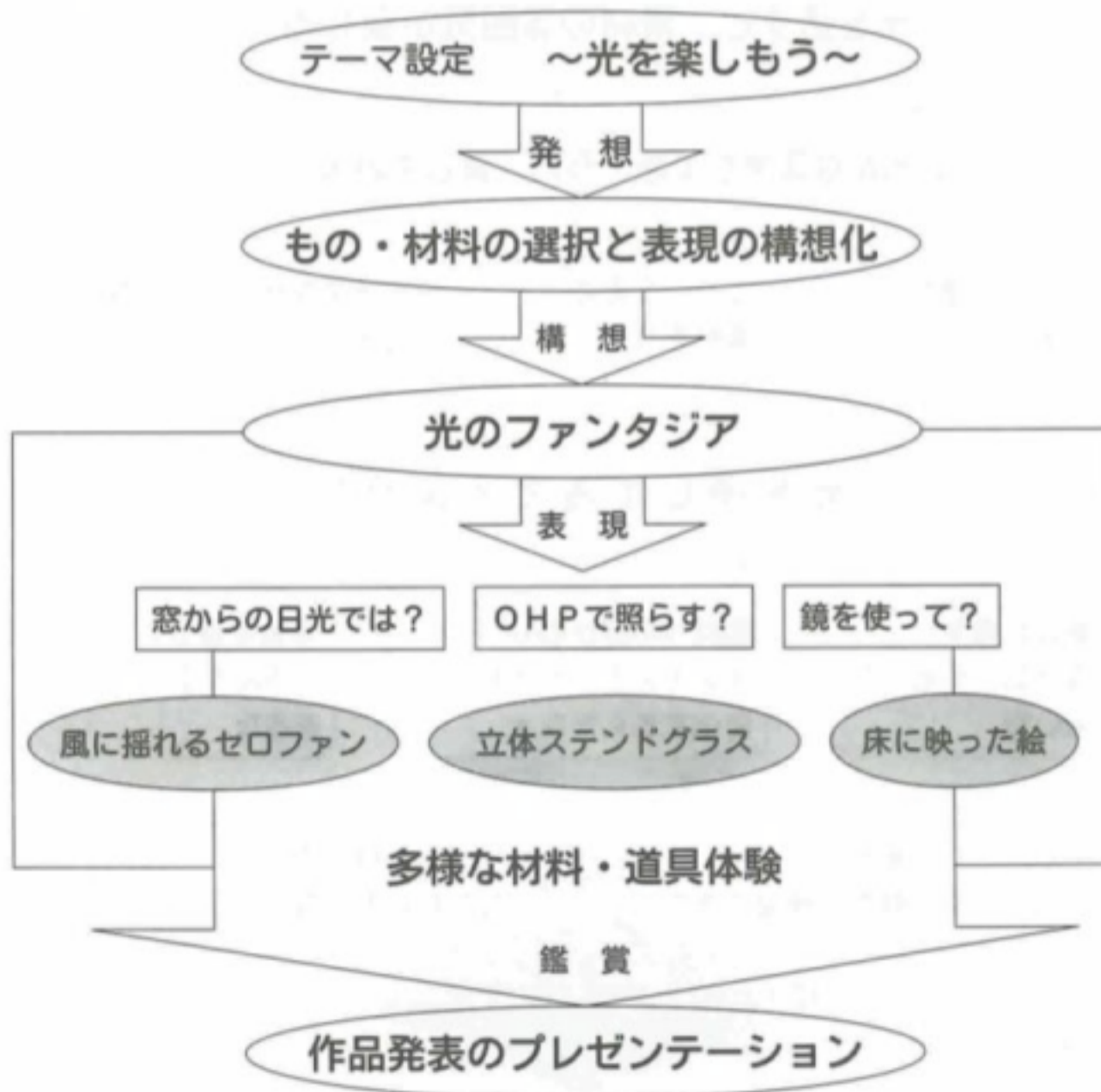
扉との関連

本校は、函館市の北東にある丘陵地帯に位置し、トラピスチヌ修道院のステンドグラスや夜景を日常的に目にすることができる等、子供たちが光を楽しむのに適した環境にあるといえる。

本題材の設定に際し、「もの・材料（環境）」というテーマについて子供たちと話しあったところ、「光」を「もの」として活用し、空間を装飾していく活動を行うことになった。具体的には、周辺で拾い集めた木の枝、イタドリ、川原の小石等を「光」の演出のために活用し、立体ステンドグラスを作ったり、風に揺れるセロファンに日光を当てる等、教室を幻想的な空間「光のファンタジア」に変貌させていくことになる。主なねらいとしては、多種多様な造形活動を通して自分の思い描いたイメージを具体化させながら表現の枠を広げていくということが挙げられる。「人」との「かわり」の中で造形活動の未来をひらくという、扉のキーワードの具現化にどこまで迫ることができるか、子供たちと共に挑戦していきたいと考えている。

実践について

◆活動計画◆





③

暮らししと造形

タイム スケジュール

9 : 00 9 : 15 9 : 30 9 : 45 10 : 00 10 : 15 10 : 30~12 : 30

◎幌南小会場

小6 「くらしメイクアップ！」 湯浅 大吾

9 : 25~

中1 「うるおう心 たのしい瞳」 西川紫菜子

小・中
合同分科会

暮らしと造形

札幌市立平岡緑中学校 大高雅子

〈わたし〉
と暮らし

フェンスアートという言葉をご存知でしょうか。例えば工事が長期にわたるとき、現場の周囲のフェンスに絵を描いたりすることです。工事に関係のない、いわば外側であるフェンス。近年、このフェンスを芸術家が制作活動のひとつとして、また企業がイメージアップを図るために活用しているのをよく見かけます。そこに美しい絵が描かれたとき、通り過ぎる人はそれまでより楽しい気分を味わえることでしょう。「うっとうしい囲い」を、「楽しい空間を演出する道具」に変身させたのです。工事とは直接関係のない、いわば外側のフェンスに絵を描くために、わざわざ大切な時間と労力を費やしたわけでは

わ うるおう
やすらぐ
し ここちよい

私たちは、実利（機能性や便利さ）が満たされていればなんら支障なく生活することができます。しかし「うるおいある生活」ならどうでしょう。ただ見ているだけで心がやすらぐ、なんとなくうきうきする、触れたとき心地よい、それは機能性ととも、人間の諸感覚に響くもの、感情そのものを豊かにふくらませてくれるものです。同じ機能をもつものでも、丸いのがいいか、四角いのがいいのか、白がいいか、クリーム色がいいのか、ほんの小さな気づきやこだわりは、〈わたし〉が「うるおう」きっかけになります。それが、21世紀を担う子供たちにひらいてほしい力のひとつなのです。教室の中、

学校の中、地域など、身近な環境を題材にした造形活動や、感性や美的感覚を沸き立たせ、ふくらませる題材への取り組みから、〈わたし〉づくりを探っていきます。

ここでひらかれた力は、子供たちの中で普遍的に生き続け、未来の〈わたし〉を豊かにする力であってほしいと考えます。〈わたし〉がめざしている姿、それは、これまでのさまざまな体験を基盤として、自分自身のこだわりを大切に、自分らしさを生かして生活することができる〈わたし〉、〈わたし〉をとりまく環境に興味・関心をもち、積極的に関わりをもつことのできる〈わたし〉なのです。人・モノ、情報があふれている社会で、個性や創造性、情報選択能力を磨き、〈わたし〉がうるおう暮らしを、〈わたし〉の力で創ることができるようになってほしい、「暮らしと造形」の扉は、そんな願いをこめてひらかれます。



暮らしの
中の造形

「暮らし」は「暮らし方」であり、「豊かに暮らすこと」は誰しも求めていることでしょう。与えられたことを待つのではなく、自ら環境に働きかけ、発信すれば、「うるおいある生活」の実現に近づくことができます。この「うるおう」という感覚が、自分の中で自然に感じとることができたときに、はじめて環境への発信・受信が行われたことができます。例えば授業で「公園の遊具をデザインする」という題材を扱ったとします。子供たちはデザインの段階で、身近な環境から情報を得ようとするでしょう。

すると、これまで気にもとめなかった近所の公園の滑り台が、まったく新しいものとして再認識されるのです。制作の段階では、機能性という新しい視点が見えてきます。快適に使用できるかどうかを予測することは使う人の心情を想像することにつながって

発信
わたし環境
生活わたし自身が
うるおう啓
環境を共有する
わたしたちが
うるおう啓環境に
働きかける
造形生活私の生活空間がもつ
感じて
と楽しくなるようにこの場所を
集う人を美しい表現で
つくって
材料の特性を
大事にして光をあびて
ひらいて
うるおうわたし

いきます。このように造形活動において「暮らし」を学ぶことが大切なのは、自分が豊かに生活していけるようになることだけが目的ではありません。環境を共有している人間同士の、直接あるいは間接的なかわり合いに気づいていく機会でもあります。造形活動において「暮らし」という学びの世界は、豊かで奥深いものなのです。



素敵なランプシェード

新しい素材に取り組む 3時間扱

【小4】

「部屋にランプを灯そう」

準備 ガーゼ、木工用ボンド、ガムテープ、ペット用両面テープ、芯材、絵の具

◆わたしの部屋が、わたしの大好きな家族が、楽しい気持ちになるようなあかりほどのようなものだろうかということを感じて、自分の表現したいイメージにあった材料を準備することにより、意欲が高まる。

制作 木工ボンドに布をひたす

◆布（ドレープ）の細かなよれが最後に面白いものになるという予感と、子供のころの泥遊びの楽しさを感じて、木工ボンドに布をひたす。あらかじめ準備して置いた容器に、布のよれやしわの感じを工夫して、楽しく貼りつける。乾燥したら容器から外し、着彩する。

鑑賞 ランプシェードに灯す

◆明るく灯されたランプの光をあびてうるおうわたし。

校舎を飾るステンドグラス

デザイン・工芸 6時間扱

【中2】

「School is Fun」～学校が楽しい～

デザイン 下描き→転写

◆美しく、明るく、温かな場所へのあこがれや、ここに集う人への想いを感じて、希望・未来・躍動をキーワードにして構成することにより、環境に合ったイメージを抽象的に表現する力をひらく。

制作 どてのせ→絵の具の流しこみ

◆透明ビニール絵の具を混色したときの美しい効果を感じて、にぎやかで楽しい配色をすることにより、全体の調和を考えて表現する力をひらく。

鑑賞 窓ガラスに貼る

◆互いの作品のよさを感じてバランスがとれた組み合わせを考えることにより、互いの作品の美しさ、生まれ変わった場所の心地よさを感じ、満足感をもつ。



「くらしメーカーアップ！」

指導者 湯浅大吾



1. 扉との関連

〈わたし〉が
「暮らし」に
“うるおい”を

〈わたし〉の好
きな色・形・大き
さ＝美的価値観

〈わたし〉の既
習体験＝素材体験

〈わたし〉の好
きな〈ここ〉
＝作品鑑賞の場

《光を生かした作品》で「暮らし」に“うるおい”を与えるという、材料や完成形を限定しない抽象的なテーマで造形活動を考えたとき、〈わたし〉の活動が多様化していくことが予想される。そこで、発想・構想の起点を以下の3点に整理して〈わたし〉を題材との出会いの場に連れていきたい。

〈わたし〉が“うるおう”ことの起点へのかかわり

- ・〈わたし〉の作品を「暮らし」に生かすというテーマを投げかけられたときに、例えば土粘土を焼成した器づくりということならば、どう使う物かというふうに関能的な面が初めに頭に浮かびそうだ。しかし、“うるおう”ということならば、醸し出す風合いといったような感性の部分で思考が始まるのではと考える。〈わたし〉が感じたイメージを大切にしたい。

〈いま〉の〈わたし〉をもとにした起点へのかかわり

- ・「光を生かす」造形活動に関連した題材として、子供たちは5年間で、和紙・セロハン・ガラスを使ったステンドグラス、氷・ろうを使ったキャンドル、ガーゼ・たこ糸など繊維を木工用ボンドで固める造形活動を経験してきている。本活動に生かしていけるよう意識付けしていきたい。

〈わたし〉の「暮らし」からという起点へのかかわり

- ・作品を〈暮らし〉の中のどの場で飾ろうか、〈わたし〉が生活する空間というものを再認識していくことにつながる。同時に飾るという行為は、〈わたし〉だけではなく他者の目に触れるということも意識され、よりよくつくろうとする意欲につながると考える。

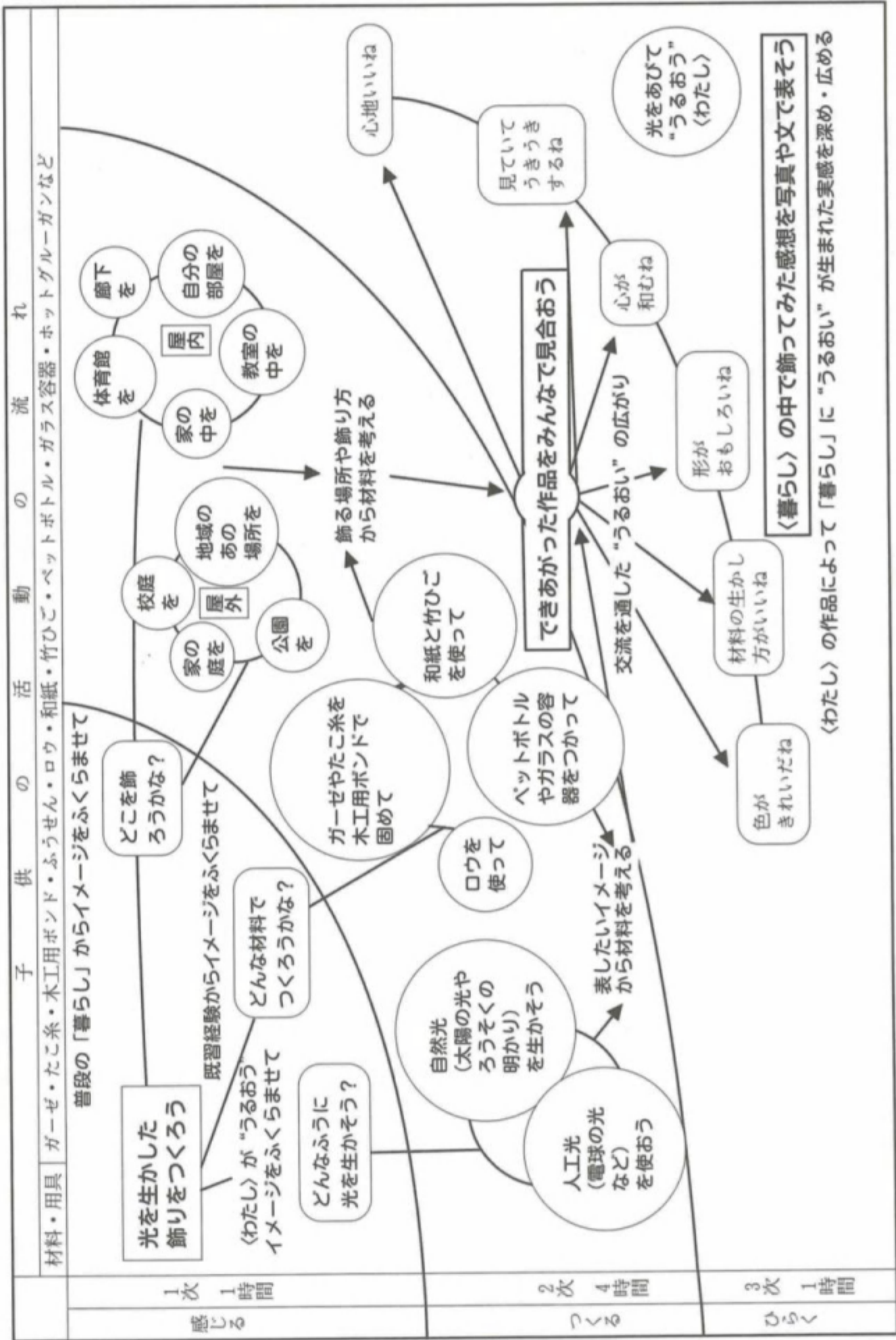
以上の3点はそれぞれ遊離しているのではなく、常に有機的に関係し合って〈わたし〉の中で醸造され、その結晶が〈わたし〉らしい作品になっていくと考える。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値観》
・明かりが生活におよぼすやすらぎを	・〈わたし〉の好み〈わたし〉の空間、〈わたし〉の経験を見つめ直し、材料や表現方法を考え、〈わたし〉らしい表現を試みて	・飾るという活動を通して〈わたし〉の表現が自分だけでなく他者にも“うるおい”を与えたという喜びを味わって

3. 学習活動の展開

【〈わたし〉の「暮らし」が“うるおう”イメージを膨らませ、飾る場所や材料を考えて光を生かす飾りをつくる】



4. 本時の目標

- 既習の見直しや仲間との交流から、自分の課題解決の方法に気づいていく。
- 仲間との交流からお互いの表現のよさに気づいていく。

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p>自分にとって“うるおう”ってどんなことだろう？何の光を生かそう？光を生かす材料ってどんなものがあったろう？どこに飾ることにしよう？どんな風に飾るようにしよう？など、それぞれ色々な面から考え、表現方法や材料におおよそのイメージを持った。次に自分の表現や材料の加工、接着に必要な用具を準備した。</p> <p>制作活動を通して、表現の仕方や扱う材料・用具を試行錯誤し、修正を加え始めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どんな光をどう生かすのか。どんな材料を使うと良いのか。どこにどんな風に飾るのかなど、発想する観点を整理して表すカードを用意する。 • 普段の生活や既習経験を振り返って考えられるようにかかわる。
<p>本時</p> <p>なかなかうまくいかない。もっとよくしたい。</p> <p>表現の問題 加工・接着の問題 試行の問題 機能上の問題</p> <p>イメージ通りの感じにならないな この材料とこの材料はどうやってくっつけよう 暗い所で試してみたいのだけれど つるすようにしたいのだけれど</p> <p>仲間の表現の仕方・つくり方に目を向けてみよう</p> <p>あんな材料の使い方があったのか あの表現はやったことがあったね あの道具を貸してほしいな 一人じゃ大変そうだから手伝ってあげよう</p> <p>課題解決の交流から仲間のよさの気づきへの交流へ</p> <p>仲間の表現のよさが見えてきたぞ</p> <p>おもしろい形をしているね 色や模様がとてもきれいだね 手触りが気持ちいいね 光の感じがとても不思議だね</p> <p>受信から発信へ</p> <p>自分の表現は仲間にもどう見えているのかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> • やり直しや繰り返しができるよう、材料や用具の予備を準備しておく。 • 表現方法や材料の加工接着等の課題解決には既習を思い起こさせたり仲間との交流による気づきを促すようかかわる。 • 他の作品のよさの気づきに共感的にかかわり、他のよさ見つけを価値づける。 • 自分の表現を認め励まし、自信を持たせ次時の活動へ意欲づける。

暮らしと造形・幌南会場

『うるおう心・楽しい瞳』

指導者 西川 紫菜子



1. 扉との関連

〈わたし(たち)〉
がうるおうため
には・・・

〈わたし〉が
うるおう題材

「暮らし」に
うるおいをも
たらす工夫

相互評価によ
るうるおいの
ある暮らしへ
の気づき

〈わたし〉やわたしと生活を共有する者が、校内環境をデザインし装飾するという環境への働きかけを行うことは、中学校生活の「暮らし」をより楽しく・明るく感じるきっかけとなる。「暮らし」に働きかけ、うるおいをわかち合える感動を体験させ、環境美化への意識を高めさせたい。そこで、次のような点に留意して授業づくりを行った。

①「暮らしや環境」への意識が高まる題材であること

自分や自分を取り巻く環境をより豊かでうるおいのあるものにすることに目を向ける身近な題材として、中学校という新たな環境で生活する1年生の新鮮な思いやイメージを大切に、生かすように校内環境に働きかける題材を設定した。

②場所・テーマにふさわしい材料の工夫や用具の活用ができること

「光」を意識した教室の「窓」への装飾、「風」を意識した「天井」への装飾をテーマに材料や用具を活用したり、工夫したアイデアをグループ学習の中で互いに交流させ、発想・構想を深めさせる。

③他者や他グループとの関わりの中でうるおう「暮らし」のよさを知ることができる交流があること

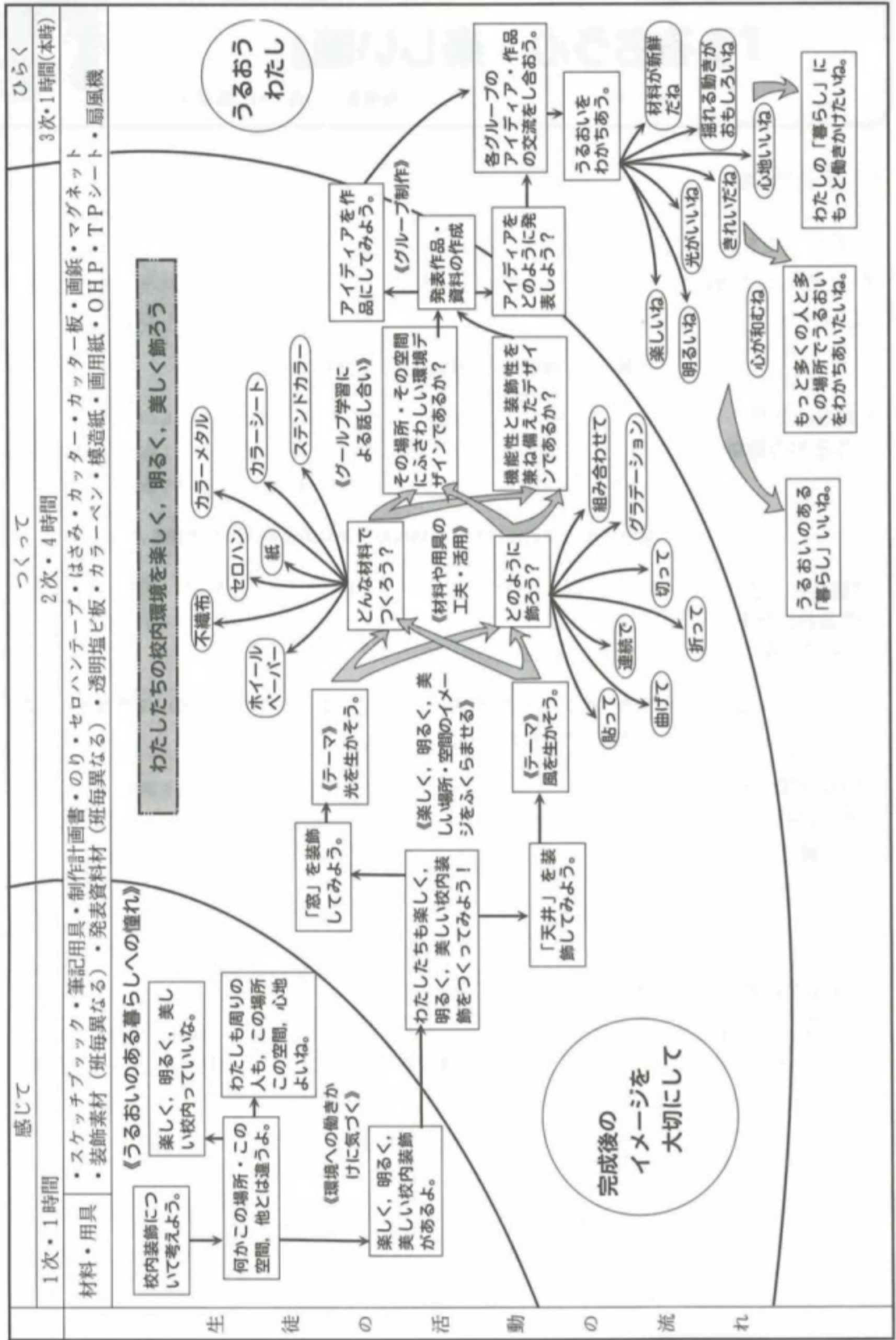
生徒同士が互いの発表を通じて、アイデアのよさや課題を評価し合い、そこから自分のグループのアイデアのよさや次の課題を把握できるような発表交流場面を設けた。このような活動場面を設けることで、自分や自分を取り巻く環境を〈わたしたち〉がより豊かでうるおうことのできるものに〈わたしたち〉の手で創るよさや楽しさに気づきやすいようにした。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
<ul style="list-style-type: none"> 自分や自分と環境を共有する者を思いやる。 楽しく、明るく、美しい生活環境（校内）への憧れを持つ。 環境の働きかけ（工夫）による、「暮らし」（学校生活）の変化を五感で感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく居心地のよい場所や空間のイメージを浮かべる。 機能性と装飾性を兼ね備えた発想や構想を行なう。 場所や目的やテーマに沿って、材料や用具を工夫したり生かして考える。 お互いのアイデアを交流し合い、そのよさや課題を認め合い、よりよい構想へと話し合いを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 身も心もうるおう感動を経験したことにより楽しく、明るく、美しい生活環境を自らの手で工夫して創り出そうとする意欲をもつ。 環境を美化しようとする意識を深める。 お互いのグループの発表や作品からうるおう感動を分かちあい、共に生きることの喜びを味わう。

3. 学習活動の展開

【わたしの「暮らし」が楽しく、明るく、美しくうるおう校内装飾をつくる】



4. 本時の目標

- ・「暮らし」にうるおいを与える校内装飾のアイデアのよさや課題を発表交流の中で感じとる。
- ・自らの手で「暮らし」に働きかけ、うるおいをわかちあうよさや感動を味わう。

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p>楽しく、明るく、美しい校内装飾をつくってみよう。</p> <p>各グループいずれかの装飾を考える。</p> <p>光を生かす窓への装飾 風を感じる天井への装飾</p> <p>どんな材料で飾ろう？ どのように飾ろう？ その場所・その空間に相応しいか？ 機能性と装飾性はあるか？</p> <p>発表作品の制作、発表資料の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアの試作品制作。 ・アイデアを発表する資料作り。 発表計画。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飾る場所やテーマ、機能性を考えて相応しい材料や用具を工夫できるように、制作計画書を利用し随時アドバイスを行なう。 ・よりうるおいを感じられるような発表の演出や資料の工夫を促す。
<p>本 時</p> <p>各グループの発表や作品を交流し合い、校内装飾のアイデアのよさや課題を感じ取ろう。</p> <p>うるおいが伝わる・感じられる発表をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表作品の仕上げ ・発表の準備 ・発表に向けて最終確認 <p>楽しく、明るく、美しい校内装飾であるためのポイント</p> <p>その場所・その空間が楽しく・明るく・美しく感じられるだろうか？ その場所・その空間に相応しい装飾だろうか？ 機能性と装飾性のある装飾だろうか？</p> <p>各グループの発表交流</p> <p>窓の装飾 (光を生かして) 天井の装飾 (風を生かして)</p> <p>五感で感じ取った印象 身も心もうるおう感動</p> <ul style="list-style-type: none"> 窓の装飾 (光を生かして) <ul style="list-style-type: none"> ・明るい ・光(色)がきれい ・隙間や色を通して見えるおもしろさ 天井の装飾 (風を生かして) <ul style="list-style-type: none"> ・揺れる動きがおもしろい ・空間に広がりがあった ・揺れて音がする <p>うるおいをわかちあう</p> <p>「暮らし」にうるおいを与える校内装飾のアイデアのよさや課題を感じ取る。 自らの手で「暮らし」に働きかけ、うるおいをわかちあうよさや感動を味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・装飾の試作品の制作は、必ず行わせる。 ・リーダーを中心にグループで協力し合い、時間の中で発表の準備を進めさせる。 ・五感で感じる作品への感動だけに留まらず、環境デザインとして大切なポイントを確認する。 ・鑑賞カードを使い、各グループのアイデアや作品のよさや課題、感じたことなどのメモを取らせる。 ・よりうるおいを感じられるような発表の演出や資料の工夫を評価する。

学校を子ども美術館に

提言者 渡辺 貞之



扉との関連

絵を描き、物を創る行為は人間だけのものであり、その行為にはある目的がある。そしてできあがったものと目的とを照らし合わせた時、その差異に気がいたら、さらに工夫して目的に近づかせようとする。そうした行為が思考と結びつき文化と芸術が生まれた。

教育においてもこの行為は同じである。子供たちは物づくりをするとき、目的が明確になっていると意欲的になる。さらにその制作過程でも積極的なアプローチをみせる。ともすると物づくりに意欲をみせなくなった現代の子供たちに、「創る」ことの原点を理解させることを視点において実践してみた。

実践について

・学校子ども美術館づくりを思い立つまでの過程

私たちの学校は、鉄筋3階建て、1学年3～4学級の一般教室があり、その他に特別教室が10数個ある管内では比較的大きな学校である。しかし、学校環境づくりはこれまで特別考えてきたわけではない。近年「特徴ある学校づくり」が提唱され、市でも学校にアイデアを呼びかけ、そのための予算措置もされることになった。かねがね子供たちが、楽しいと思える環境づくりをと考えていた矢先でもありアイデアとして「学校子ども美術館」づくりを思い立った。

・環境づくりを子供たちが主体的になって

学校環境は子供たちのためにある。そうであれば子供たち自身のアイデアを重視し子供たちの力で創り出すことの方が望ましいと考えた。

・学校をどうしたら楽しくなるかというテーマで子供たちからアイデアを募った。

実現できる、できないということではなしに思いっくままのアイデアを考えてもらった。

例 クーラー。エレベーターかエスカレーター。小川。池。三階からすべりだい。

月見小屋。でっかい樹の上にいえを造る。教室の看板。窓がステンドグラス。

水族館。ギャラリー。寝るところ。まんがコーナー。などなど

・その中で自分たちで作れるものは何かを考えた。

・できるだけお金をかけないで作る。

なんでも自由というほうが創作するとき、考えがなかなか浮かばない。むしろ何かの制約があるとそれをどのようにしてクリアするかと考えているうちに、いい考えが浮かんでくる場合がある。

例えば版画で使った板を洗ってちょうや鳥や魚の形に切り抜いて色を塗ると素敵な壁飾りができる。

- ・中庭作り。
- ・教室に看板を。職員室にも看板を。
- ・一年間の自分のギャラリー。
- ・玄関の柱を飾ろう。
- ・窓にきれいなステンドグラス。
- ・階段におもしろい絵。

子供から アイデアを

材料の工夫

実践例



④ コミュニケーション と造形

タイム スケジュール

9 : 00 9 : 15 9 : 30 9 : 45 10 : 00 10 : 15 10 : 30~12 : 30

◎三角山小会場

小5「ぼくのわたしの ウルトラか〜かし」
藤森 久美

中1「ようこそ先輩 アニメーションで交流を」
佐藤 真史 高橋久美子

(10 : 05)

小学校分科会

中学校分科会

コミュニケーションと造形

札幌市立手稲中学校 石川 早苗

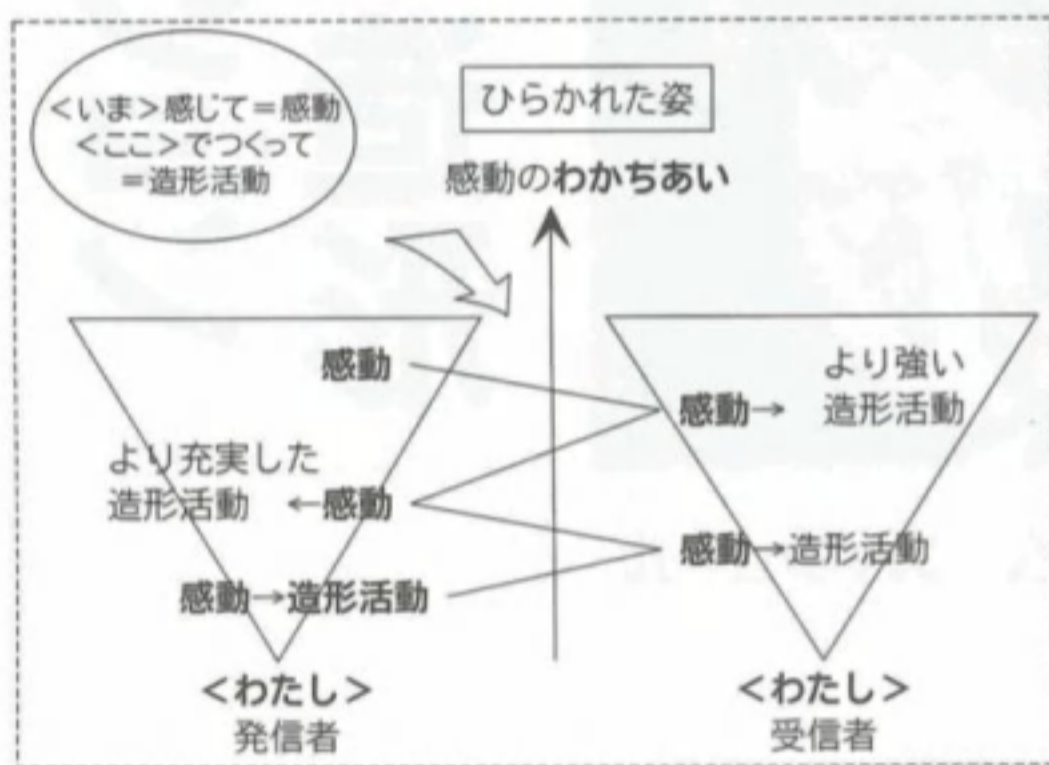
<わたし>が 主役

現在の社会において、コミュニケーションの手段は数多く、特に、ここ数年コンピューターを媒介としたインターネットでは瞬時にして世界中とコミュニケーションをとることができるようになりました。しかし、どんなに科学技術が発達しても、何かを伝えようとする側と、それを受けようとする側での心のつながりがあるからこそ本当のコミュニケーションが成立するはずで、どうしても科学的な技術面ばかりとりあげられがちですが、技術は手段であってコミュニケーションの主体であるのは、伝える<わたし>の心と、受け取る側<わたし>の心なのです。

壁のないコミュニ ケーション

日常生活において言葉だけでは相手に伝わらない場合、絵や図を描いて伝えたい内容を表現することがよくあります。言葉（言語）は決してすべての人が同じ条件で理解してもらえないものではなく、特に、国際的な視野でものを考える場合にはコミュニケーションの手段として万能では無いことは、よく理解されていると思います。言葉を共有することでのコミュニケーションは、このように難しい点がありますが、造形表現を通して心を共有することでのコミュニケーションには壁は感じられないはずで、そこにはひとつの共通言語としての造形活動があります。

共通言語として の造形活動



造形活動において表現をすることは<わたし>である自分の感情や思い、個性を作品に込め、見る者へ外に向けて発信することと同じです。そして、その発信を受けた者はなんらかの感動を持つこととなり、ここに造形活動によるコミュニケーションが成立します。このコミュニケーションは造形活動が続く限り何度でも発信受信を繰り返していきます。それは、作品制作だけではなく作品鑑賞の場合でも同じです。ひとつの作品を鑑賞した時、人により感じ方は異なります。しかし、ひとりの<わたし>ともうひとりの<わたし>が感動を持ったことは確かなことであり、ひとりひとりが

同じ体験をすることで感動をわかちあうことができます。その互いの感動を作品制作や鑑賞といった造形活動をする者の間でキャッチボールをすることにより、コミュニケーションはスムーズに運び高まっていきます。また、キャッチボールの回数が多くなるほど互いの感動に広がりあらわれてくるはずで、

感動の キャッチボール

発信者の<わたし>は、受信者の<わたし>がどのように感じたのかをみて再度、違ったかたちで発信する機会が多く、それは自分の造形活動をより良い物にしていきたいという欲求が受信者がいることで高まるからです。そこにはよりひらかれた<わたし>の姿があります。このように受信者と発信者は互いに理解し合い、認め合うことでこのような感動のキャッチボールがおこなわれることとなり、より新しい感動をお互いにわかちあうことができるのではないのでしょうか。また、造形活動におけるコミュニケーショ

心のわがちあい

ンはあらゆる場面で起こります。それは実践において強く感じられることであり、そこには言葉はいりません。あるのは感動する心と思いを受け取る心だけです。この心のわがちあいこそコミュニケーションの根本なのだということを、私達は忘れてはならないと思います。

共同制作的造形活動は、活動者であるひとりひとりが同じ体験をすることで感動を共有することができるという点で感動のキャッチボールがおこなわれやすいと思います。それは、たとえひとりひとりの感じ方が異なっても、共同、協力が必要な造形活動が前提ですから、自然に相手に対する理解が生まれてきます。

人形劇工房その弐 「大きな森々物語」 (小学5年)

つくりながら
表現しながら
わがちあい



- 身近な材料を利用して人形をつくり表現してみよう！
- 仕組み工房
 - ・人形の仕組みを学習しよう
 - ・ビデオ（人形劇の鑑賞）
 - ・プリント（人形の仕組み）
 - ↓
 - 材料工房
 - ・材料について考えよう
 - ・材料体験をしてみよう
 - ・集めよう
 - ↓
 - 物語工房
 - ・大きな森々物語を考えよう（イメージ画、文）
 - ↓
 - 人形工房（共同制作も可）
 - <設計> 仕組み、材料装飾を考えよう
 - <製作> 大きな森々物語の人形をつくろう
 - <発表> 森の舞台上で発表しよう



＊一人ではちょっと大変、二人で組んで大きな人形づくり。



＊つくってみて、みんなの前で動かしてみても、また改良。

＊鳥型人形チームが集まってワイワイガヤガヤ。（写真）



旅立ちによせて～ 羽ばたかせよう 私の「鳥」を… (中学1年)

わたしの『鳥』の制作

- ・制作材料は自由に考え設定。
- ・卒業式の体育館装飾だと知らせる。

制作した『鳥』の発表・鑑賞

- ・自分の思いの発表。
- ・みんなの思いを感想を発表することで知る。

全員の『鳥』を壁画として構成

- ・構成について話し合う。
- ・共同で貼り付け作業をする。

壁画の完成・鑑賞

- ・ひとりひとりの作品がもうひとつの大きな作品をつくることを知る。
- ・共同制作の意味を知る。

卒業生への発信

<わたし>探し

- ・卒業生に対する感謝の気持ちを込める。
- ・作品を見る人達の気持ちを考えさせる。

<わたし>の発信・受信

コミュニケーションの発生

認められた<わたし>

- ・活動に意欲がみられる。

コミュニケーションの発展

認め合う

心をわがちあう

- ・制作者相互
- ・制作者と卒業生



『ぼくのわたしのウルトラか～かし』

～みんなでももろう みんなの田んぼ～

指導者 藤森久美



1. 扉との関連

思いを
「わかちあう」
造形活動

みんなの思いを
一つに

情報を生かして

ウルトラでレベ
ルアップ

制作・鑑賞での
交流

教師とのコミュ
ニケーション

展示を工夫して

扉の主張にもあるように造形活動は、思いの発信の活動である。本題材では、その「コミュニケーション」を一人一人の思いを「わかちあう」ことととらえ、以下のような重点をおきながら活動の展開を考えた。

①一人一人の思いが集まり共感しあう製作

・田んぼを守ろうとする気持ちから、それぞれの造形活動が出発し、一人一人の作品が完成し、集まることでみんなの気持ちがこもった「ウルトラか～かし」が完成する。

②目的のための情報収集と交流

・本題材では、田んぼによってくる鳥を追い払うという実用的な面をもつ。そのため、鳥についての情報や知識が非常に大切になる。情報をお互いに交流し、案山子作りのアイデアに関連させ、制作に取りかからせる。

③もっとよりよいものへのチャレンジ

・鳥は逃げるし、人は喜ぶと言う相反する機能をもつことから、「ウルトラ」がついている意味を意識させ、実用的かつ美的な案山子を自分なりの工夫をしながらの制作活動が始まる。

④作品のよさを感じる心

・案山子を作っている時、またはウルトラか～かしが完成した時、その作品のよさを感じ取る気持ちを大切にしていきたい。友達のよさがわかってこそ、自分の作品のよさを感じ取ることができる。

⑤よさを広げのばしていく教師と子供たちとのかかわり

・教師は子供たちにかかわり、時には見守り、時にはよさを賞賛し、時には相談にのるなど、子供の制作活動をサポートしていく。

⑥展示空間と地域との融合

・できあがった「ウルトラか～かし」を実際に水田やグラウンドに設置し、田んぼはもとより学校に鳥が近づかない空間を作り上げる。「おやなんだろう」と地域の人も見て楽しんでもらう。

2. 未来を創る造形ボックス

『かんじて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
・大切な田んぼを鳥から守るとい う思いを	・材料の特性を生かし、実用かつ 美的な案山子を	・作品のすばらしさや実際に役立つ 喜びを

【自分の思い・願いをかかしのこめながら製作し、お互いの作品のよさを交流し、感じ合う。】

3. 学習活動の展開

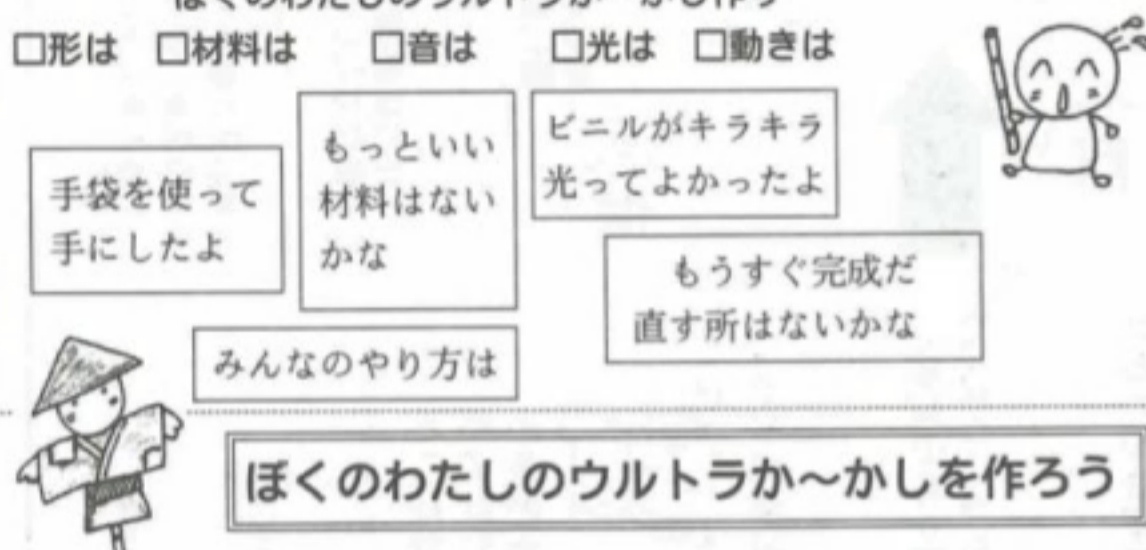
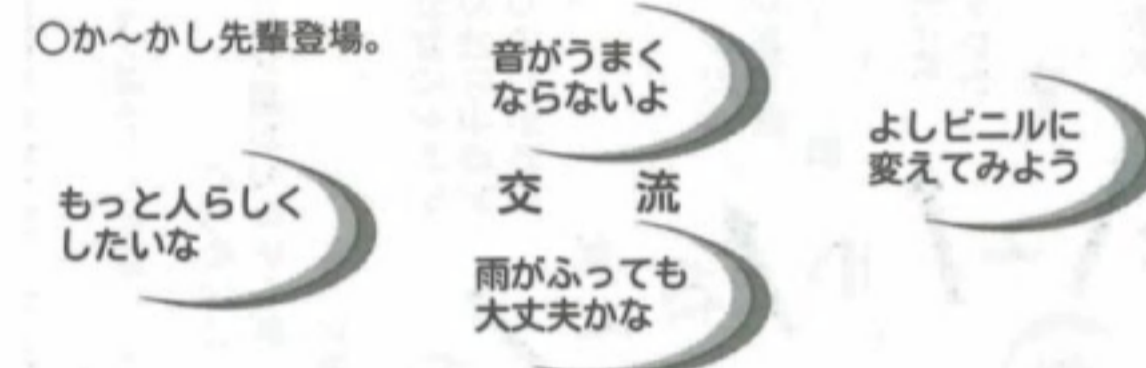
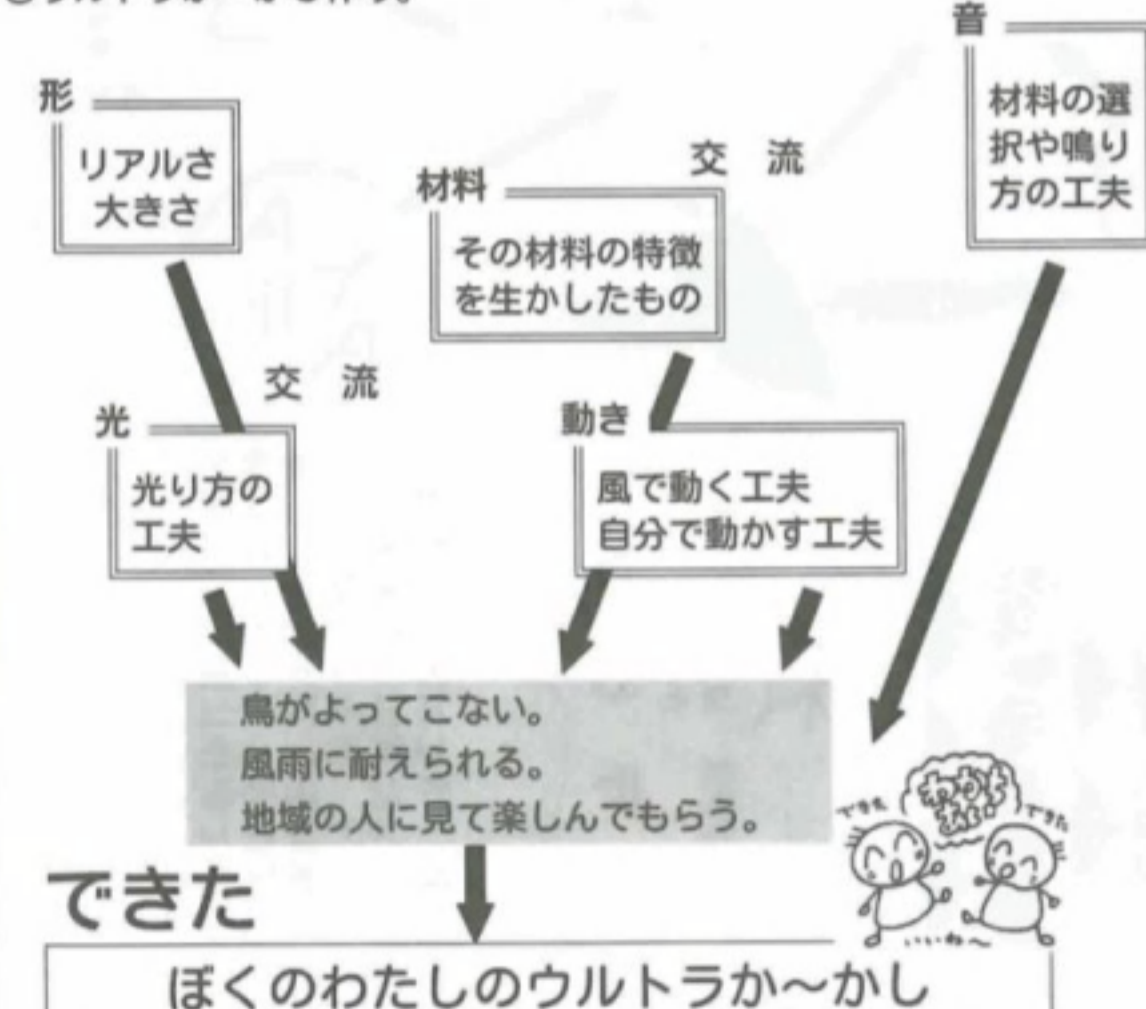


子どもの活動の流れと教師の支援

4. 本時の目標

- 自分の思い・願いを大切にしながら、作ろうとする。
- 自分や友達作品を交流しながら、お互いのよさに気づこうとする。

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点			
<p>前時まで</p> <p>ぼくのわたしのウルトラか~かし作り</p> <p>□形は □材料は □音は □光は □動きは</p> <p>手袋を使って手にしたよ</p> <p>もっといい材料はないかな</p> <p>ビニルがキラキラ光ってよかったよ</p> <p>もうすぐ完成だ直す所はないかな</p> <p>みんなのやり方は</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○収集した情報を有効に活用することを意識させる。 ○案山子作りは、 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥がよってこないように ・風雨に耐えられるように ・地域の人に楽しんでもらうことを基本とする。 			
<p>ぼくのわたしのウルトラか~かしを作ろう</p> <p>○か~かし先輩登場。</p> <p>音がうまくならないよ</p> <p>よしビニルに変えてみよう</p> <p>もっと人らしくしたいな</p> <p>雨がふっても大丈夫かな</p> <p>交 流</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストティーチャーの紹介。 <table border="1" data-bbox="1386 1216 1890 1484"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・形 ・材料 ・音 ・光 ・動き </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">交 流</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・案山子の基本から ・ウルトラか~かしとして ・お互いのよさ </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・形 ・材料 ・音 ・光 ・動き 	交 流	<ul style="list-style-type: none"> ・案山子の基本から ・ウルトラか~かしとして ・お互いのよさ
<ul style="list-style-type: none"> ・形 ・材料 ・音 ・光 ・動き 	交 流	<ul style="list-style-type: none"> ・案山子の基本から ・ウルトラか~かしとして ・お互いのよさ 		
<p>○ウルトラか~かし作り。</p> <p>形</p> <p>リアルさ 大きさ</p> <p>光</p> <p>光り方の工夫</p> <p>材料</p> <p>その材料の特徴を生かしたもの</p> <p>音</p> <p>材料の選択や鳴り方の工夫</p> <p>動き</p> <p>風で動く工夫 自分で動かす工夫</p> <p>交 流</p> <p>鳥がよってこない。風雨に耐えられる。地域の人に見て楽しんでもらう。</p> <p>できた</p> <p>ぼくのわたしのウルトラか~かし</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や友達作品を交流しながら、お互いのよさに気づいたり、課題を話し合う。 ○一人一人の思い・願いを大切にしながら、発想を広げるように関わる。 ○案山子の基本を意識させ、自分なりのウルトラか~かしを作ることができるように支援する。 <table border="1" data-bbox="1386 2077 1890 2374"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・形 ・材料 ・音 ・光 ・動き </td> <td style="text-align: center;">→</td> <td> <p>ぼくのわたしのウルトラかかし</p> <p>みんなでまもろう</p> <p>みんなの田んぼ</p> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ぼくのわたしのウルトラか~かしを一斉に展示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形 ・材料 ・音 ・光 ・動き 	→	<p>ぼくのわたしのウルトラかかし</p> <p>みんなでまもろう</p> <p>みんなの田んぼ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・形 ・材料 ・音 ・光 ・動き 	→	<p>ぼくのわたしのウルトラかかし</p> <p>みんなでまもろう</p> <p>みんなの田んぼ</p>		

コミュニケーションと造形・三角山会場



わかちあい、一体感ができる作品交流を

提言者 福島 由紀子

扉との関連

造形活動は一人一人が思いをもち発信していく活動です。そして、その思いをとて大切にしておられるのが造形活動のよさだと私は考えます。

「コミュニケーション」を一人一人の思いを「わかちあう」とし、とらえて一体感ができる作品交流の場の設定について考えていきたいと思ひます。

実践について

図画工作科の活動の展開を考える上で、私が一番頭を悩ますのは交流をどうしたらよいかというところだ。自然な交流というのは小さな範囲の中ではじまっているものの、みんなと一緒に思いをわかちあうような一体感をあじわわせたいと考えると、教師側の場の設定なしには考えられないからだ。

暗くなる一瞬

発光する素材を使ったり、ブラックライトを使ったりする授業では、制作途中でも完成後でも、暗くなる一瞬が子供たちにとってはどきどきする瞬間だ。最初は自分のつくった作品を見つめ振り返り、次に近くの友だちの作品に目がいき、そして最後に全体の様子が見えてきます。

5年生の実践、「雪の夜・・・桑園の森に・・・」では制作の途中に何度か暗くする場を設定しました。発光する素材がぼうっとやわらかく光る様子に子供自身がうっとりするのか、ため息のような小さな声がいくつも聞こえてきました。

みんなで作った世界に入り込む一瞬

地域の歴史を調べ、もしも自分がその時代にタイムスリップしたら、いったい何をしていたら・・・と想像してジオラマ作りをしました。6年生の実践「C424遺跡 もしもわたしが・・・」です。総合の学習で調べた桑園地域の縄文時代の情報を交流しながら、その時代の自分をそれぞれがつくっていき、さらに共同で家や動物や森や川などをつくっていきました。

土器作りをしている友だちと作品を並べたり、最初から、二人組で漁をしている様子をつくったり、狩りの動物を共同でつくったりと、共同制作ならではのコミュニケーションがみられました。

カードのコミュニケーション

日常的には、制作中も一定の場所に作品をおき、カードで交流できるようにしています。付箋やカードを図工の時間以外にも使って感想やアドバイスを交流するのです。図工の時間は自分の作品に没頭している子もこの方法だとすんなりと双方向のコミュニケーションになっていくようです。



二人組で漁をしている様子を表現



『ようこそ先輩～アニメでコミュニケーション～』

指導者 佐藤 真史
高橋 久美子

1. 扉との関連

思いを
わかちあう
造形活動

これからの表現の基礎・基本のひとつは、デジタル技術を活用した映像表現に代表される時間と空間の表現である。今回はエッシャーという作家紹介のCMづくりを通じて、伝える喜びや共同でつくる喜びをわかちあうことをめざし、活動の展開を考えた。

鑑賞と表現

①エッシャーの作品鑑賞を通して、彼の表現の特徴を学び、学んだことを「エッシャーの紹介ビデオづくり」という形で発信する。エッシャーの作品シリーズには動画の原理があり、再現や編集という作業を通じて、その世界観を体験し、学ぶのには最適な素材と言える。

共同製作
わかちあう姿

②CMの制作にあたって、実際のCMづくりがそうであるように、班をつくり共同制作であたることにした。

シナリオづくり→絵コンテづくり→素材づくり（静止画・動画）→編集→発表
それぞれの場面で映像表現の基礎・基本を学び、お互いの作業をアドバイスしあいながら進めていくことにする。

マルチメディア

③動画については、GIFアニメーションはパソコンを使用した白黒のもの、ムービーについては立体ゾートローブを使用したクレイアニメーションをデジタルビデオで撮影するといった、あえて原始的ともいえるアニメーションの原理をたどれるような技法を利用する。デジタルビデオの編集による効果は最小限におさえ、それぞれの素材をただつないだ表現の面白さをめざす。

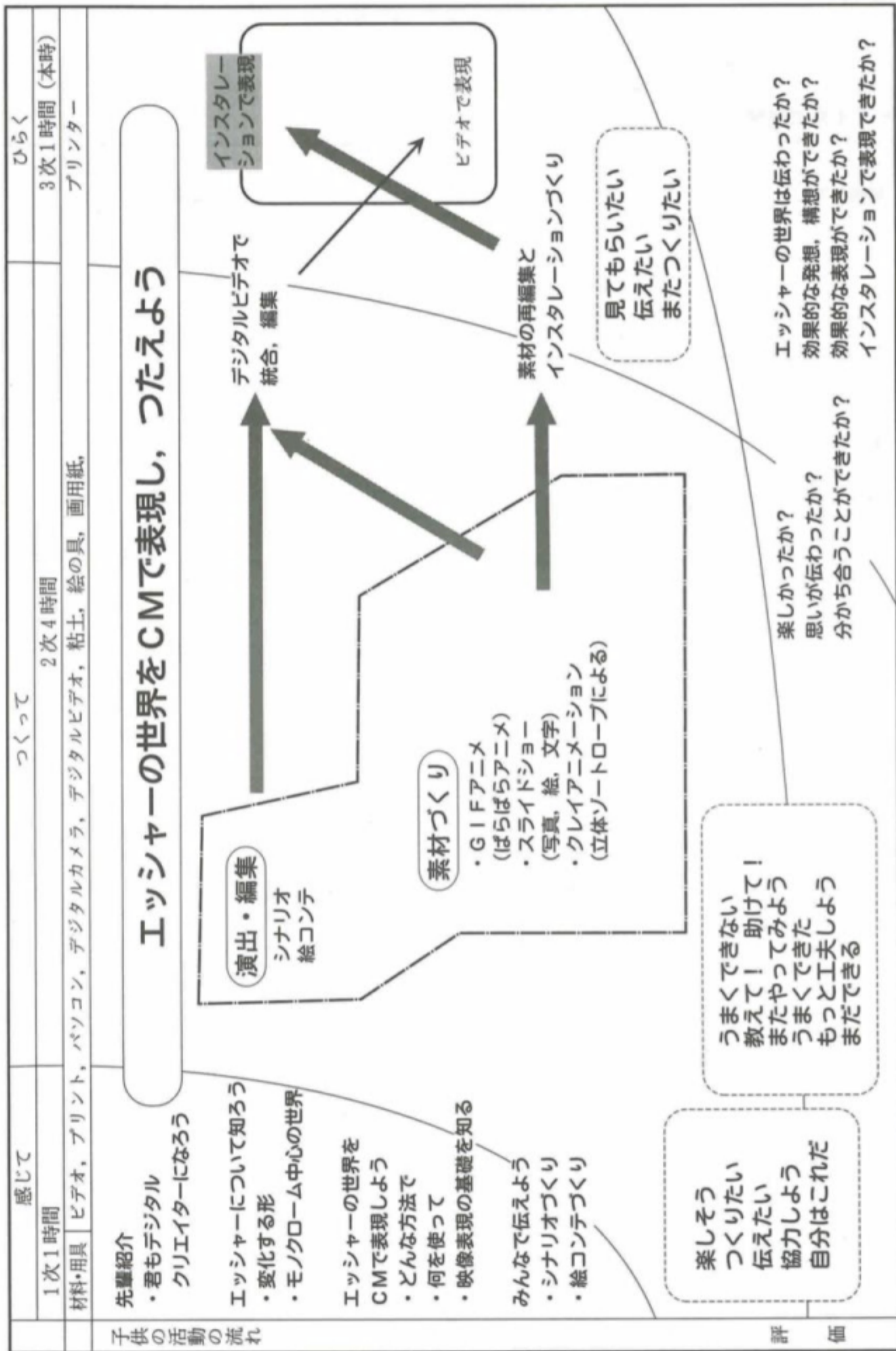
作品交流
わかちあう姿

④最終的な発信の形は二つ。ひとつはTVCMにみられるようなデジタルムービーとして、もうひとつはそのムービー制作にいたる流れや素材自体を利用して、デジタル屋台とでもいうようなインスタレーションに再編集し、発表することにする。このことによってほんの数秒のCMであっても背後にある膨大な努力の蓄積があることを知ってもらい、見る側とも感動をわかちあうきっかけとしたい。

2. 未来を創る造形ボックス

わ か ち あ う	『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
	<ul style="list-style-type: none"> エッシャーはすごい エッシャーの世界を自分達なりに伝えよう 平面と立体のアニメーション表現は面白い みんなでやろうなど鑑賞や共同でつくることへの喜びをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオづくり、絵コンテづくり、素材づくり、編集作業などを、協力して行う。 インスタレーションをすることによって、おもしろさや感動の発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> マルチメディアクリエイターとして自尊感情をもつ。 アニメーションのおもしろさ、作品の交流により感動をわかち合い、表現をすることが好きになる。

3. 学習活動の展開



4. 本時の目標

- ビデオ発表を中心にした効果的なインスタレーションを制作する。
- 班ごとに発表し、感想を交流、分かち合う。

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点	評 価
<p>前時まで エッシャーの世界をCMで伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> • エッシャーはすごい • エッシャーの世界を自分達なりに伝えよう • 平面と立体のアニメーション表現は面白い • みんなでやろう 	班編成、分担、仕事に過剰な偏りがいないか	エッシャーのすごさを感じ取れたか 伝える意欲がわいたか
<p>本 時 エッシャーの世界をビデオでプレゼンテーションし、ビデオを中心にしたインスタレーションをつくる</p> <p><感じて> ビデオを中心にすえて、インスタレーションを構成する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 流れや内容が見た人に伝わるか • 工夫が伝わるか <p><つくって> 班内で構成の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> • 美しく表現されているか • 一目で伝わるか <p>全体で交流</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビデオ上映会 • プレゼンテーション • 見た人の感想を聞く <p><ひらく> 自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワークシートに記入 	良さをみとる努力を認める 短い時間の作品の裏にある労力を感じ取れるように 思いが分かち合えるように	効果的なインスタレーション、プレゼンテーションができたか エッシャーの世界は伝わったか つくる喜びを分かちあえたか

わあ、すごい
ここはこんなふうに

いいものができた

伝わるかな

かっこいい
すごい
わかる

またつくりたい
もっとつくりたい

6. 本時の評価

- 効果的なインスタレーション、プレゼンテーションができたか
- エッシャーの世界は伝わったか
- つくる喜びを分かちあえたか

コミュニケーションと造形・三角山会場



ホームページ作りと心のふれあい

提言者 中川原 信 生
白 崎 博

<いま>

今、日本の子供たちの行動に大きな変化が起きています。不登校、ひきこもり、無関心など、数え切れない所見が報告されています。心ない態度や言葉などから互いに傷つき、人間相互の理解を深める楽しさや豊かさを見失ってきています。コミュニケーションのつまずきは、心を臆病にし、幸福な社会生活を営む妨げにもなっています。個性化が叫ばれている昨今、個性化が孤立化となってしまっは意味が無いことです。

造形とコミュニケーション

美術・造形活動の起こりは、自然に祈るところから始まりました。自分と崇高な自然の神との交信のために、五穀豊穡を願い、絵を描き、場所を清めて飾る。やがて、人と人との情報交換の手段として絵から文字が生まれ、記録のためや生活の利便性のため、環境を整備するもの等々、発達・発展を続けてきました。その歴史を見れば、美術活動は、心や生活の根底を築くものとして、今も大切な学習として、位置づけされなければならないものでしょう。自己の心の表現を作品化して他に情報を発信する。その相互行為によって、造形としてのコミュニケーションが成り立ち、文化としての発展に寄与してきました。

<ここ>

『わかちあう』姿

<わたし>
ひらく姿

相手に確実に情報を受信してもらうには、発信する自分の表現が適切でなければなりません。精度を高める理論や技法等の練習は、観察の力・描写の力のように、基礎的・基本的な学習として捉えられます。〈わたし〉の表現意図やイメージを発信し、相手に〈わたし〉と同様のイメージを受信してもらえるか。美術活動における情報交換の仕組みの学習と美術作品を通して対話を弾ませ、発信情報の内容を高め発展させる活動の進め方の学習等にこの扉のねらいをおくことができます。このように、「場のふれあい」の中から〈わたし〉は、仲間を意識し信頼し互いの個を尊重しあう心を育み、以後の制作へ、意欲・関心・創造へと〈ひらかれて〉いく力を発達させる期待がもてるでしょう。

再度<いま>

『わかちあう』姿
ひらいている姿

<いま>世界の情報を考えるとき、情報のネット化は避けられません。この孤立する機械の前で、無機質化しそうな自己の表現を避け、心あるコミュニケーションを表現するために、美術教科にコンピュータが入ってきた意義を強く感じます。

学習の展開例として、「ホームページ作り」に取り組んでみました。広

く、そして多くの人々に適切に伝えるためのインデックスページと、制作の段階での交流を通し、「友」と語り、補い合い、質の向上や的確さを求め合うコミュニケーションから、個が「ひらく」姿。そんな思いで、実践例を紹介したいと思います。



2001年12月号
第12号
第12号

水戸大学
水戸大学
水戸大学

水戸大学の心と情を伝える

水戸大学
水戸大学
水戸大学





⑤

個性と造形

タイム スケジュール

9:00	9:15	9:30	9:45	10:00	10:15	10:30~12:30
◎幌南小会場						小・中 合同分科会
小2「のっけてって くっつけてってって」 能登谷治恵		9:25~ 中2「自分の知らない自分の発見」 宮崎 亨				
(授業会場) 札幌彫刻美術館にて						
◎三角山小会場						中学校分科会
高美「抽象彫刻～見えないものが見えてくる～」				本田 勝哉		高等学校分科会

個性と造形

札幌市立幌西小学校 櫻田 悟

〈わたし〉
と
個性本来の
〈わたし〉今の
〈わたし〉これからの
〈わたし〉〈わたし〉
探しの旅へ〈わたし〉
とむきあう
ために

ある晴れた日に、雲がぼっかり浮かんでいる。そんな大きな空を見て、「あっソフトクリームみたい!」「怪獣に見えるよ」「ぼくは飛行機だ!かっこいいな!」と見立て遊びを始める子供たち。〈わたし〉の気持ちを素直に表現しているこの姿。とってもほほえましい光景です。

赤ちゃんを見ていると人間のすごさにあらためて感心します。あの自分をアピールする姿～泣いたり、笑ったり、怒ったり～。話すことはできません。でも、自分のできる限りのことで、今の自分を伝えようとしているのです。生まれ持つての人間としての本来の姿なのでしょう。この出発点から〈わたし〉がはじまっています。

いつからか〈わたし〉よりも他の人が気になり始め、〈わたし〉の存在が本来の〈わたし〉ではなくなってしまう時があります。周りを意識して、誰かに気に入られるよう、また、〇〇だから〇△しなくては…と、〈わたし〉を素直に表現しようとする気持ちが薄れていってしまっているような気がします。日本人特有のみんなに同調する横並びの考えから



〈わたし〉を隠そうとしてしまい、殻にこもってしまうのです。また、周りから受身で育ってしまった子供たちには、『何を どう 表現すればよいのか』という術がなく、結局本来の〈わたし〉からは遠ざかってしまうのでしょうか。

そんな〈わたし〉に本来の〈わたし〉を気づいてもらいたく、そして、〈わたし〉を表現することの楽しさを味わってもらおうというのがこの扉の開かれた願いであります。今までの〈わたし〉、今の〈わたし〉、そしてこれからの〈わたし〉。造形活動をひとつの旅として例えるならば〈わたし〉を探す旅に出かけることが今こそ必要なのです。

そのためにはまず、〈わたし〉としっかりと「むきあう」ことが大切です。素晴らしい自分もそうですが、ダメな自分も素直に受け止め、『自分っていいな』と思うことからスタートします。しかし、一人でそう考えることは難しい…では、やはり周りの目が必要でしょう。友だち・教師・保護者・そして地域など自分を取り巻くたくさんの目に認められたり、励まされたりすることで、しっかりと自分と「むきあう」ことができるのです。

〈わたし〉探しの旅をはじめるとして大切なことは、『思い』をしっかりと持たせることです。自分なりのこだわりを持った『思い』があってこそその造形活動の中にく自分らしさ〉がでてきます。そのこだわりは、題材との出会いの中で生まれ、また活動を通してさらに高まっていきます。その高まりをいかに保障してあげるかが教師、つまり我々の役目であります。

また、造形活動を通して大前提となるものは、できた作品の良し悪しではなく、〈自分らしさ〉を出しながら、どう〈わたし〉を〈わたし〉の手でつくりあげていくのが大切なのです。

実りある旅に
するために…

<わたし>探しの旅を実りあるものにするためには、いくつかの場と<わたし>を取り巻く環境が大切となってきます。

集団の中での<わたし>
<わたし>のアイテム
<わたし>の喜び

高めるために

時間と場所の保障
教師のかかわり

認められる
から
<わたし>の
発見へ

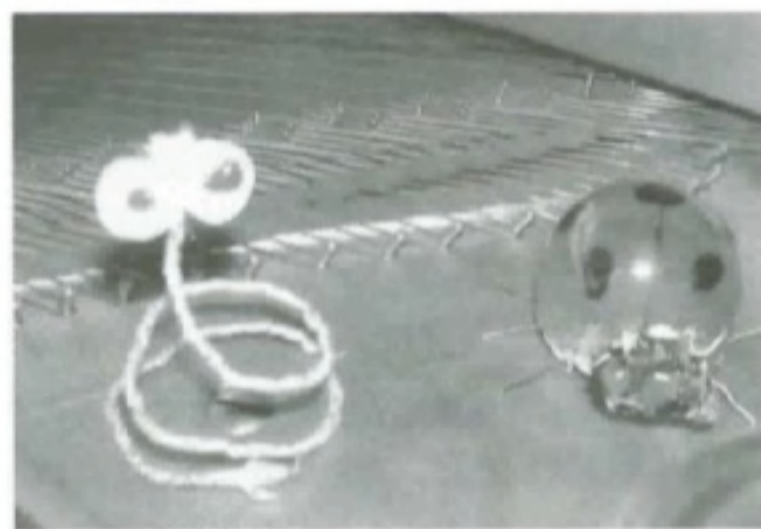
ここでいうアイテムとは、技術・技能とともに〇〇に向かう発想能力などのことです。何かを表現したい時に、<わたし>の中に表現技法や考え方に選択の余地があることが、造形活動へのエネルギーとなります。そして、表現する楽しさ・喜びを味わうことへとつながっていきます。



「やってよかった」「みんな喜んでくれた」「〇〇がすごいねって言われたよ」という意識がより一層<わたし>を表現しようとする意欲に拍車がかかります。そして、温かい集団があり、<わたし>がその中で一員だという自覚があってこそ<わたし>を表現してみようという気持ちになります。

<わたし>探しの旅を通して、本来の<わたし>、そして新しい<わたし>を見つけていくことが、21世紀を担う子供たちには大切なのです。

『わくわく昆虫ワールド』（小学4年）



学校をより楽しいものへという思いのもと、「もし冬に虫が楽しく動き回っているとしたら…」という、投げかけから題材がスタートします。

自分のお気に入りの場所、お気に入りの昆虫を考え、つくる中から、一人一人のこだわり、そして思いを高めていきました。材料は集めてきた身近材です。実際に置いて見て、デジカメで写真をとって、みんなで楽しく鑑賞会!!

『「自分」がいるボックスアートをつくろう』（中学2年）

自分の夢、自分の趣味、自分の好きなこと、自分の心…箱の中に表そう!!

箱というひとつのテーマの中で、自分らしさを表現していきます。自分をその中に粘土でどんどん表現していく子。夢や願いを生き生きと表現できる子。また、なかなか表現できずに困っている子には、できるだけ声かけしながら自分を表現することの楽しさを味わわせていきます。

制作を通して自分としっかりむきあうことにより、『自分』というものをいっぱい好きになっていきます。



『のっけてってくっつけてってって』

指導者 能登谷 治 恵



1. 扉との関連

自分の思いを
のびやかにふくら
ませるためには

自分なりの
こだわりを
持てる題材

造形的行為を
楽しみながら
思いをもてる
紙・接着剤

自分らしさを
探すことのできる
環境構成

よさを認める
教師のかかわり

①自分なりのこだわりを生かせる題材であること

・今回は紙を使い、自分のこだわりや『思い』で造形遊びをする題材を設定した。紙は普段、子供たちがよく触れる素材であり、扱いやすく抵抗がない。しかし紙にはいろいろな種類があり、活動次第では様々な形に変化する可能性を持っている。このような紙の特性や面白さに気づきながら、自分の思いを自由に膨らませて造形活動を楽しんでほしいと願っている。

②素材に触れる行為を楽しみながら『思い』を持てること

・今回は子供に、紙を貼り合わせる、重ねる、くっつける題材であることを話し、使いたい紙類をそれぞれに集めてもらった。また、柔らかな素材や手軽に貼ることのできる様々なタイプの紙、スプレータイプの水糊等も用意した。子供たちは素材に触れる中で思いを膨らませ、「はる」「くっつける」という行為を楽しんでおこなっていく。その中から貼り方・重ね方の多様性を引き出し、表現への思いをそれぞれがしっかりと持てるようにしたい。

③自分らしさをだしながら、友だちの活動の楽しさも味わう環境であること

・子供たちは、友だちの活動に面白さを見つけだしたりしながら、自分の発想をさらに豊かなものにする。そのため、座席に固定されるのではなく、自由に動き回って活動の中で交流する。このような環境や場の設定、そして活動を通して、自分とむきあうことになる。

④子供一人一人の発想のよさを認める教師のかかわりであること

・技能の上手さ、丁寧さと同時に、発想の楽しさ、こだわりの面白さを認めていきたい。自分らしさをどう出しながら、どのように自分のこだわりを持って、表現しようとしているのかを大切にしておかかわっていく。そして、その発想がどう生かされているのか、意識して周りに広めていきたい。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
<ul style="list-style-type: none"> 様々な紙の持つ特徴に触れながら、貼る・つけるという行為を楽しんで 自分の思いで自由に表現することができる喜びを 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いやこだわりを生かして いろいろな素材に興味を持ち、感触を味わうなどしながら造形的楽しさを見い出して 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いをふくらませ、様々な接着方法で造形活動を楽しんで 自分の行為を認められる中で、自分のよさに気づいて

3. 学習活動の展開

感じて	つくる	ひらく
<p>1次1時間</p> <p>材料・用具 紙、紙類、糊、木工用ボンド、水糊スプレー、はさみなど</p> <p>紙・かみ・糊・ノリ… いろいろ集めてみたよ</p> <p>紙で遊ぼう！ 紙っていろいろあるんだね</p> <p>のりにもいろいろあるんだ！</p> <p>○お花紙、折り紙など 数種の紙を用意 ○スプレー水糊、 ボンドなどを用意 ○色々な種類がある ことに気づき、興味 が持てるようにする。</p>	<p>2次4時間（本時2/4）</p> <p>紙とのりをたくさん使えたら、 どんなことができるかな？</p> <p>切りたい 折りたい 丸めたい 描きたい 貼りたい つなげたい やぶきたい</p> <p>いろいろな紙を貼ったり、くっつけたり、重ねたり… のっけてくっつけてみよう！どんなさくせんがあるかな…?!</p> <p>・身近にある紙だが、実はいろいろなことができることに気づき、興味を持てるようにする。</p> <p>くっつけさくせん つなぎ合わせたい ・ロボットだ</p> <p>色イロさくせん 全部の色を使うよ ・きれいな紙でお洋服</p> <p>貼るっておもしろいな</p> <p>こんなことができたよ！すごいでしょ。 みんなに見てもらいたいな。</p> <p>紙って、貼ったりくっつけたり重ねたりするだけで、いろいろなことができて楽しいね。</p> <p>ころべたさくせん 丸めて貼りたいよ キャンディみたいお人形ができそう とんとん重ねたよ 模様ができきたよ</p> <p>でかデカさくせん 大きくなってきたよ ・恐竜をつくろう！</p> <p>重ねるって楽しいな</p> <p>友だちのもの、いろいろ見てみたいな。</p>	<p>3次1時間</p> <p>・やってみよう！自由 に考えられるように</p> <p>・つくりたいものへの思いを それぞれがもてるように</p> <p>・何をしたいのかを聞き取り、 自信をもってできるよ返す。</p> <p>・その子らしい表現や 発見を認め、広げて いく言葉がけをする。</p> <p>他のさくせんもやりたいな！ みんなのいいところをもらおうよ。いろいろなさくせん チャレンジしちゃおう!!</p>

子どもの活動の流れ

4. 本時の目標

- 自分の発想を自由にふくらませて、思いのままに表現することができる。
- 素材に豊かにかかわる中で、自分の活動や思いに自信をもち、表現する喜びを味わう。

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p>いろいろな紙をたくさん集めたよ！どんなことしたいかな？</p> <p>はりたいな 重ねたい 丸めたり,おったり 切ったり描いたり</p> <p>使いたい紙を使って, 貼ったり重ねたりくっつけたりしよう</p> <p>画用紙をたくさん使いたいな 大きく！</p> <p>この紙, やわらかくて透けてる！重ねて</p> <p>丸めてくっつけて ふわふわ気持ちいい</p> <p>小さな色紙をたくさんはりたいな</p> <p>つなげてくっつけて 何かができそう……?!</p> <p>自分の使いたい紙を使って, 自分のさくせんで, のつけてくっつけてみよう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な紙や, その用い方を考えられるように言葉をかける。 • 貼り方によって, 接着するための糊が違うことに気づくように対話する。 • 興味を持って活動に取りかかれるように, それぞれの紙やのりのよさを紹介する。
<p>本時</p> <p>楽しいさくせん, 見つけてみよう！</p> <p>色にこだわってたくさんはってみて…</p> <p>形にこだわって丸めたり折ったり…</p> <p>大きさにこだわってつなげてつなげて重ねて重ねて…</p> <p>色イロカラフルさくせん ころころおにぎりさくせん でかデカさくせん</p> <p>〇〇さくせん △△さくせん…</p> <p>いいこと かんがえた！</p> <p>紙って, いろいろなことがたくさんできて楽しいね。</p> <p>重ねてかさねてカサネテ 貼ってはってハッテ…</p> <p>ひろーくくっつけてって</p> <p>のせてってまるめてって</p> <p>ながーくつないでって</p> <p>おふとんだ おすしみたい キャンディだ にじ色の〇〇</p> <p>紙と糊って, いろいろなことができて楽しいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 子供から出てくる「こんなことしたい！」という思いを大切に。 • 「何を」「どのようにしたいのか」を明確にしてあげるようなかわり。 • 子供同士で自由に動き回って活動できるような環境づくり。 • うまい, 下手ではなく, それぞれのしたいことを聞き取って, その子らしさを認め, 実現に向けてアドバイスしたり, 励ましていく。 • 楽しい発見を周りの子に広められるような紹介するなどしてかかわる。 • それぞれの表現が見合えるような展示の工夫



自画像「自分の知らない自分の発見」

指導者 宮崎 亨

1. 扉との関連

地道な取組み



「個性」という言葉は、ありふれているのに実にとらえ所がない。「人とは違う、自分ならではのもの」というのが一般的な認識の様に思う。これでは、人と違うことが即個性的ということになりかねない。人との違いは評価する側として確かにわかりやすい。しかし、違うことが目的になるとしたら、それは「個」の「性」とのズレにつながりかねないのではないか。

多くの生徒が美術を不得意に感じ、自信を持ってないでいる。潜在能力は決して低くないのに、失敗を恐れるあまりに手が縮み、実力を発揮できない。しかし、これは美術に限ったことではない。人間関係でも、自分の将来に対しても自信が持てず、失敗を恐れ、恥をかくことを恐れ、結果として同じような行き詰まりを見せている様に見える。

しかし、突然自信が持てるような特効薬はない。結果を得るためには、小さな努力の積み重ねが必要となる。始めはできなかったことが、繰り返しの練習の中で少しずつできるようになる。そんな中にわずかでも喜びを感じられれば、自己を肯定し、さらに先へ進む力となるのではないだろうか。

自分と向き合う



「個性」についても、自分の事を深く知ろうという努力無しには見えてこない。自分の考える「自分らしさ」が本当の自分らしさであるという保証はない。他人に教えられて初めて気付くことも多い。また、個性は始めから備わっている部分と、そこを基盤に後から形作られる部分がある様に思う。始めから備わっているものを土台とし、試行錯誤を繰り返し、時間をかけて形作られる「個性」こそ、重視すべきと考える。

今回の題材では、日頃のクロッキーが基礎として欠かせない。視聴覚機器を利用した鑑賞の要素を取り入れ、視覚に訴えることで自分と向き合うきっかけをつくりたい。この題材で得られるものも、結果というよりは一つの経過としてとらえたい。

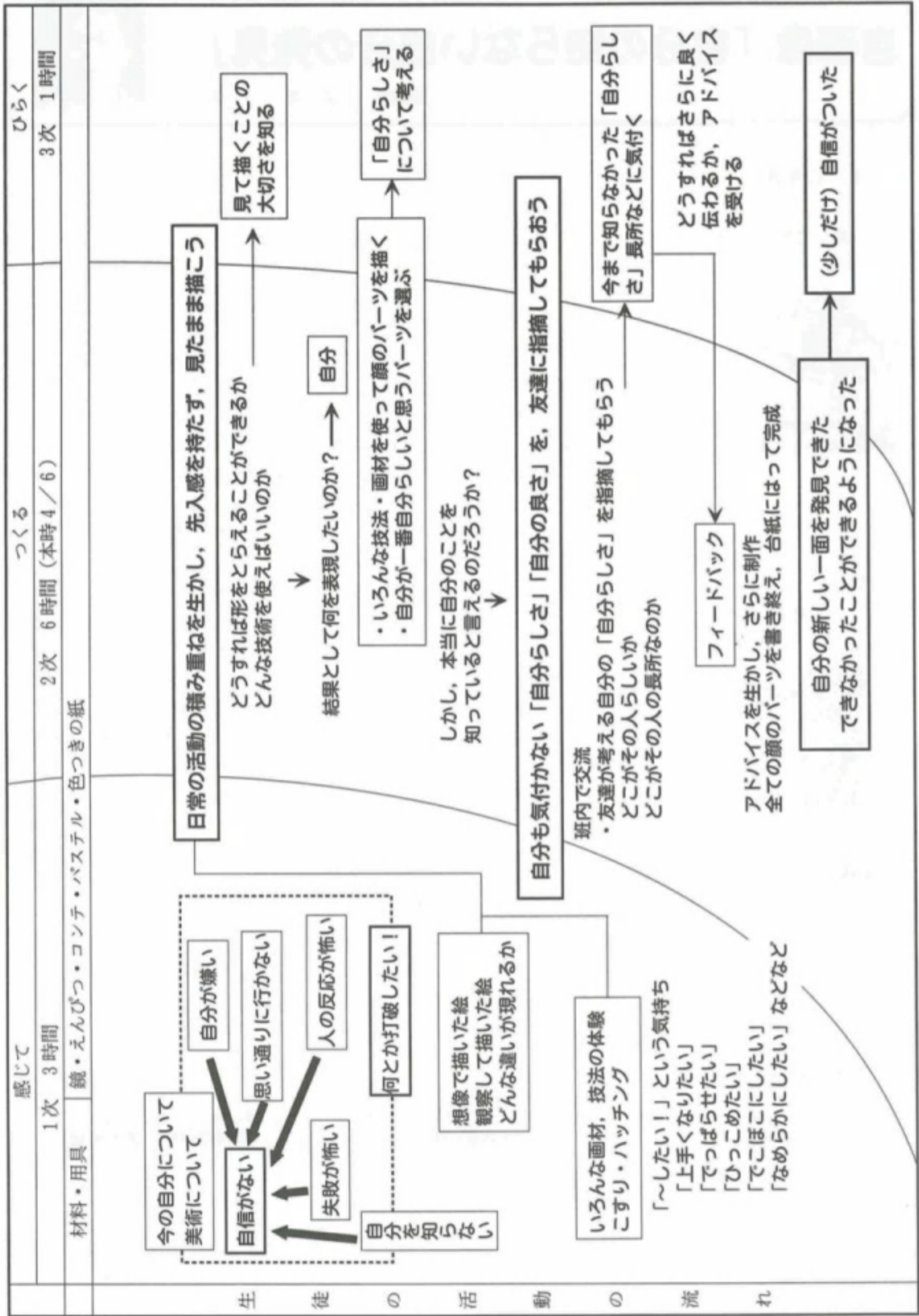
実践について

- ・日頃見ているようで見ていない自分の顔をじっくり観察し、自分を見つめ直す。
- ・自分でも気付かない「自分らしさ」を、友達に指摘してもらって把握する。
- ・先入観を捨て、観察して分かった形だけを大きく描く。
- ・顔の一部を描写する。どこを描くかを選ばせる。
- ・今までに習った技法、画材の特性を生かし、自分なりに選択して表現する。
- ・部分を描写したものを台紙に貼り付け、一つの作品として完成させる。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさに気づき、描きたいと思う。 ・「うまくなりたい!」という野心。 ・日常のクロッキーで、あるがままに、先入観無しに見る目の大切さを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形をよく観察し、思いをこめて表現する。 ・努力の積み重ねで、自己実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物を見る目。今まで何げなく見ていたものが、よく観察すると実は人によって全然違うことに気づく。 ・地道な取組みが、上達につながる。 ・自己実現により、自分の個性やよさに気づき自尊感情をもつ。

3. 学習活動の展開



4. 本時の目標

- ・自分の知らない自分らしさ、良いところに気づくことができたか。
- ・アドバイスにそって、さらに作品を仕上げる。

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;">先入観の打破 技法の手引き</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> 実験 想像で描いた絵 観察して描いた絵 どんな違いが現れるか </div> <div style="width: 55%;">まずは何も見せないで描かせ、 次に見方を説明して描かせる</div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> 実験 いろいろな画材、技法の体験 こすり・ハッチング </div> <p>「～したい！」という気持ちを実際にタッチで表現してみる 「でっばらせたい」 「ひっこめたい」 「でこぼこにしたい」 「なめらかにしたい」 などなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顔全体を描くのではなく、パーツごとに分けて描写していく。 ・実験ごとに顔のパーツを描写していく。その際、どのパーツを選ぶかは生徒に任せる。
<p>本時</p> <p>班内で交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が考える自分の「自分らしさ」を指摘してもらう どこがその人らしいか どこがその人の長所なのか <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 自分の思う「自分らしさ」 友達の思う「自分らしさ」 </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 今まで知らなかった「自分らしさ」 長所などに気付く </div> <p>どうすればさらに良く伝わるか、 アドバイスを受ける</p> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <p>アドバイスを生かし、さらに制作 始めに描いたパーツに描き加えるか 新たなパーツを描き始めるか 同じパーツを、アングルを変えて描くか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 自分の新しい一面を発見できた </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じパーツを、アングルを変えて描くこともあり。 ・ただ単に「その人らしさ」だけではなく、内面の特徴がどう外見に反映しているかも観察する。 ・なるべくその人の長所を探し出す。

顔のある造形活動

提言者 藁島裕二



扉との関連

ゆたが

わたしの顔

むきあう

実践について

金メダル

わくわく

ほく・わたし

小学校1、2年生を担当し、教室で子供たちの顔を見ているとまったく飽きません。ちょっとしたことに驚き、目を丸くしてこちらを覗きこむ顔。けんかをしてべそをかき、ぐしゃぐしゃになった顔。休み時間に元気いっぱい遊ぶ楽しそうな笑い顔。一人一人の表情の豊かさと飾らない笑顔には、いつもほっとさせられます。

不思議なことにみんな同じように目や鼻がついているのに、ちょっとした配置の違いで全く別の顔になってしまいます。人は、生まれながらそれぞれ違った顔を持ち、それぞれ異なった人格を形成していきます。そして、より豊かな個性を育てていきます。顔は、その個性の違いを最もはっきり表した部分であり、人間にとって自分を表現した看板のようなものです。

この「顔」を題材として造形活動に取り入れることは、児童たちにとってより身近なことであり、新しい自分を発見するには好都合であると考えました。また、他人の顔を描いたつもりがいつしか自画像になり、自分の顔を描いたはずが他人のことを意識してしまう、そんな「顔」の魅力に触れさせることにより、「わたし」と真剣に「むきあう」場面をつくることができると考えました。そして、この題材を通して、自分の「思い」を大切に、人の考えや表現に共感できる子供たちが増えることを願って、この扉をノックすることにしました。そして、新しい表現方法を学ぶ喜びとともに、「わたし」を素直に表す充実感を一人一人に体験させ、生き生きと造形活動に熱中し、いつまでも表情の豊かなく顔で生活できるよう次の実践を考えました。

『かおオリンピック』（小学校1年）

オリンピックの映像を見て、世界にはいろいろな顔の人たちがいることを発見しました。みんなで、さまざまな人たちの顔を水彩絵の具でたくさん描いてみよう！一生懸命に描いたら、金メダルをつけましょう。



『わくわくあさがおランド』（小学校1年）

大切に育てたアサガオのお世話をする自分の絵を描きました。アサガオとの関わりを思い出しながら、絵の具を混ぜる体験もしました。完成後の鑑賞会では、おうちの人前で発表もしました。



『ぼく（わたし）2年生！』（小学校2年生）

学級掲示用の目標に自分の顔とめあてを書きました。「～の好きなわたし」という自分をアピールする内容を盛り込み完成しました。

『わくわく彫刻パンフレット』

指導者 小澤香子



(授業は札幌彫刻美術館で行います)

1. 扉との関連

「自分らしさ」を
追求するためには

自分なりのこだわり
が表現できる題材

「個性」＝「自分らしさ」ととらえ、様々な発見と感動を通して「自分らしさ」を追求していけるように留意して授業づくりを行った。

美術において、ものを見る目・感動する心は表現の原動力ともなる重要な事柄と考え、あえて鑑賞題材を設定した。今回はまとめ方を工夫し、自分なりの思いがいっぱい詰まったパンフレット形式にした。これは、自分の感動を自分自身が確認するための道具であり、また、他の人にもその感動を発信するためのものである。自由なまとめ方によって、自分なりのこだわりをさらに膨らませてもらいたい。

新鮮な感動を

味わえる

美術館利用

「本物」と直接向き合うことで得られる感動を味わわせたいと思い、鑑賞学習の締めくくりとして美術館を利用した。この美術館は、札幌出身の彫刻家、本郷新の作品を中心に展示されており、対象を絞って鑑賞を深めることができる。また、北海道内にはこの作家の作品が数多くあり、子供たちは知らず知らずのうちに作品を見ている。北海道を代表するこの作家について一度は触れさせたいという思いから彫刻美術館を選んだ。

自分らしさを

深められる

授業展開

「個性」＝「自分らしさ」と捉えたときに、「自分らしさ」とは、自分一人で深めていくものと、他との関わりの中でさらに育っていくものがあると考え、2つの深まりが得られる展開を工夫した。

他者の感性にも

素直にむきあえる

環境づくり

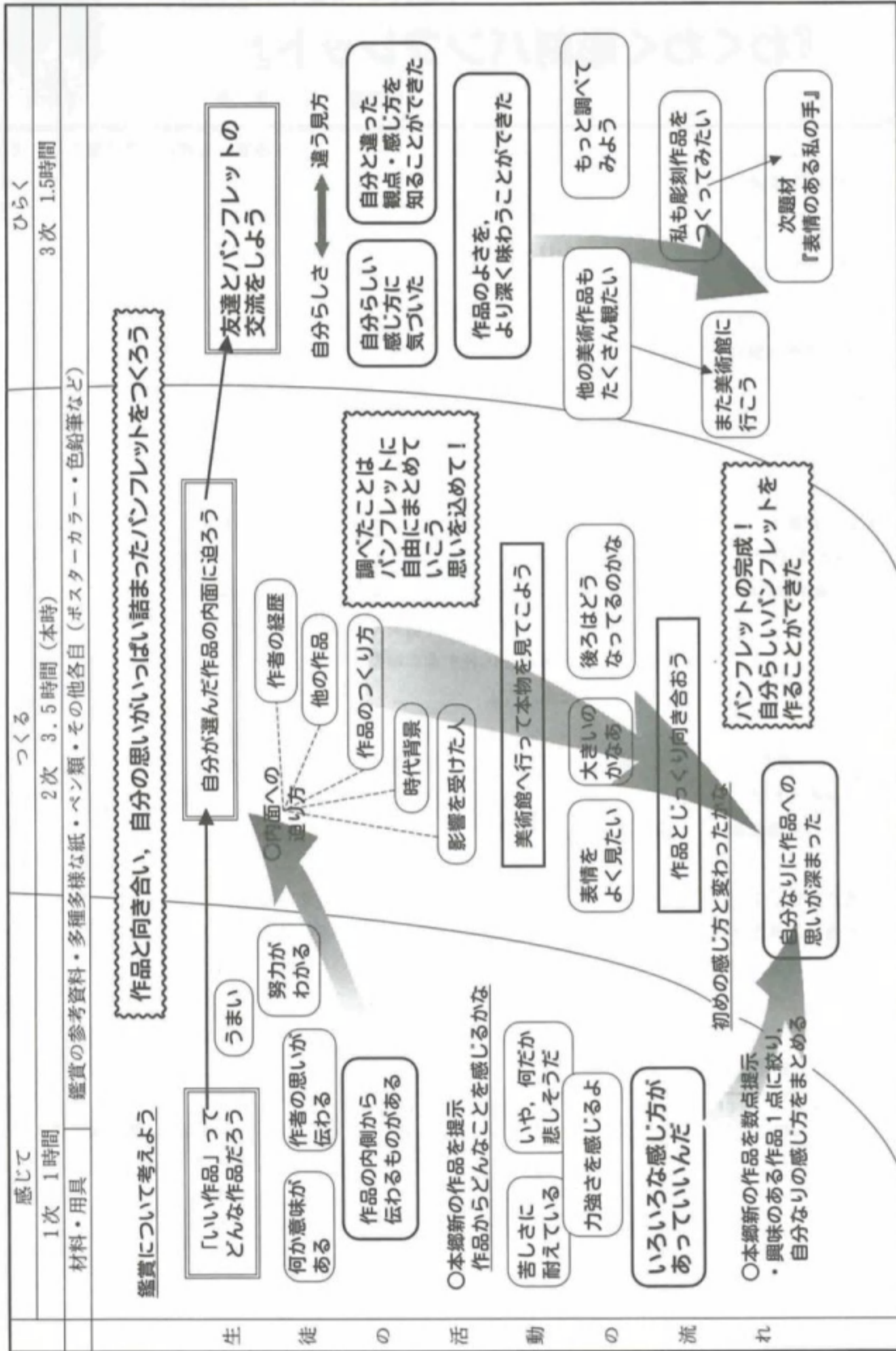
毎時間、小さな発見・小さな感動を発表する機会をつくり、気軽に「自分らしさ」を出せる環境づくりをしてきた。他者の感じ方との「違い」に関心を持ち、「違い」を認めあう雰囲気大切にしたい。

2. 未来を創る造形ボックス

『感じて』ほしいこと 《大切にしたい心》	『つくって』ほしいこと 《活動内容》	『ひらいて』ほしいこと 《題材の目標・美的価値》
<ul style="list-style-type: none"> 作品の技術的な素晴らしさだけでなく、その内面性にも迫り、作品から伝わってくる作者の思いを受けとろうとする心。 	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットのまとめ方や発表の仕方を工夫し、自分らしい伝え方を追求する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品と向き合うことで、自分らしさに気づき、美術作品を味わう楽しさを知る。 感動を心の糧として自尊感情をもつ

3. 学習活動の展開

「自分の思いをパンフレットとしてまとめ、作品をより深く味わう」



4. 本時の目標

- 自分なりの観点で作品をじっくりと鑑賞し、パンフレットを完成させる。
- グループ交流を通して、互いの個性を認め合う。
- 様々な発見や感動を通して、作品をより深く味わうことができる。



札幌彫刻美術館

5. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	留 意 点
<p>前時まで</p> <p>美術館に行って本物を見てこよう。</p> <p>手の表現はどんな感じだろう。</p> <p>表情をもっとよく見たい。</p> <p>後ろはどうなっているのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 鑑賞する作品に対する自分の思いを、より一層深めるために、自分なりの具体的な観点をはっきりとさせる。
<p>本 時</p> <p>見たかったところをじっくりと見て、作品と向き合おう。</p> <p>思っていたより、力強い表現だ。</p> <p>思っていたとおり悲しそうな表情だ。</p> <p>またイメージが変わったなあ。</p> <p>パンフレットに命を吹き込もう！完成！</p> <p>実際に本物を見て考えが深まったかな？</p> <p>友達とパンフレットの交流をしよう。</p> <p>自分の感じ取ったことを自信をもって伝えよう。</p> <p>あの人の感じ方面面白！</p> <p>そんな詳しく見ていたなんてすごい。</p> <p>なるほど、気持ちが伝わってくるなあ。</p> <p>自分なりの見方</p> <p>友達の見方</p> <p>自分らしい感じ方に気づいた。</p> <p>作品を見る様々な観点、考え方を知ることができた。</p> <p>他のグループの発表を聞きながら作品を鑑賞しよう。</p> <p>友達の発表を聞き、作品のよさを味わうことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分で考えてきた鑑賞の観点を中心に、じっくりと作品と向き合う。 • 感じ取ったことは、すぐパンフレットにまとめていく。 • 同じ作品を鑑賞していた友達同士でグループになり、自分なりの鑑賞のまとめを交流し合う。 • 自分と異なった感じ方に気づくことで、鑑賞の見方の幅も広がり、自分らしさにも気づく。 <p>作品と向き合う ↓ <わたし>と向き合う ↓ 他の感性に触れる。 ↓ また <わたし>と向き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最後に、各グループを代表して数名に発表してもらい、違うグループの作品と一緒に鑑賞する。

「自分という人間の存在証明」

提言者 山崎 正 明



扉との関連

生徒が本気で自分と「むきあい」、自分自身のことを主体的に表現していく。その中で自分を大切にしたり、新たな自分に気がついたりする。「個性と造形」の扉で提案されていることを、義務教育最後の題材の中でストレートに実践した。

生徒への提案

「自分という人間が、今、この世に確かに存在しているということを、自分を深く見つめながら、作品をつくることを通して証明してみよう。できあがった作品は自分自身が今を生きているという証となる。そして義務教育を終えるという記念すべき日に、全員の作品を飾ろう。自分とは何だろうと深く見つめることは、よりよく生きていくことにつながっていくに違いない。自分を似せるのが最終目的ではない。表面的な仕事をするのではない。君たち一人一人の個性の違い、生き方や考え方の違いがすべての出発点となる。」

実践について

本題材では、生徒個々の主題や興味・関心に応じ、生徒自らが絵画・彫刻など表現方法を選択し、制作を進めていく。ひとつの教室の中で絵画に取り組んだり、彫刻に取り組んだりする生徒が混在するという授業になる。このように選択意志決定場面を豊富に用意されているので、あらゆる活動場面で生徒自身が常に自分で考え、判断するようになる。それは「自分は何を、どう表現したいのか」その意図を常に問い直す作業の連続と言ってよいだろう。表現活動や鑑賞活動を通して「自己を見つめ、自己を表現する」ことは、美術教育の中でもっとも大切にされるべきことである。それは「表現とは何か」という問いに答える本質的な活動でもある。



学習の流れ

	学 習 内 容	時間
1	・練習として描いてみよう（自分の目鼻など部分を描いてみる）	1
2	・表現とは何だろう（画家・彫刻家・生徒作品をスライドで鑑賞）	1
3	・自分を見つめよう（自分を客観的に知る。文章に表してみる）	1
4	・様々な表現方法、学習の進め方、発想の仕方、タイプ別制作の進め方	1
5	・発想（主題と表現方法の決定）	1
6	・構想（自分の表現したいイメージを簡単に絵で表してみる）	1
7	・表現（自分の計画に従って制作を進める）	10
8	・鑑賞（卒業作品展）（表現を終えて自己評価）	0

研究の視点「いま」「ここ」「わたし」を軸に授業をつくった。中学校3年間の授業の中で生徒自身がもっとも強く「個性」を認識したのがこの実践である。ただし、この実践は単独では成立しない。これまでの基礎・基本が大切になってくる。

《わたし》と『むきあう』授業めざして

提言者 平野 まなみ



《わたし》と『むきあう』

美術の授業で、「自分らしさ（個性）を大切にすること」、「生徒が自らの個性をより明確に表す」ことであり、《わたし》と『むきあう』ことが大変重要であると考えます。私自身「このような授業を生徒と共につくるためにできることは何なのか。」そんなことを考えて、日々授業づくりをしています。

個性を 発揮できる 授業

生徒が個性を安心して発揮できる授業をつくるためには、美術教育における基礎・基本を今一度考え、学習する時期についても検討する必要があると考えます。そして、基礎・基本を学ぶためのアイテムの検討も自校だけではなく、もう少し広い範囲で行うことが大切であると思うのです。

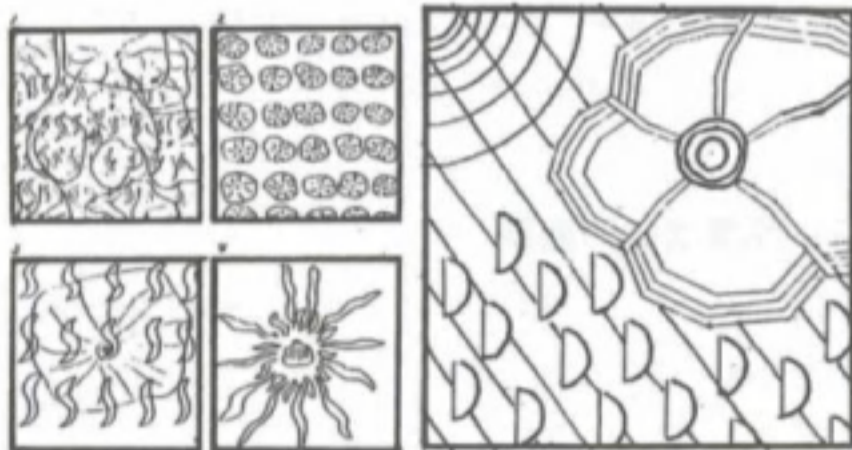
極端な言い方をすると、どんな子も必ず自らの個性に気づき、発揮したことに満足できる授業をつくるために、生徒の《いま》を見取り《わたし》らしさへつなげる教師の関わり方を考えることが必要だといえるでしょう。

生徒の意識を 探る

基礎・基本を考える手段のひとつとして、またもう少し広く多くの目で子供たちを見るために、区内中学校の協力を得て、昨年度末美術に関するアンケートを実施しました。その結果からも、生徒が美術科に求めるもの、自ら望んでいる姿、またどんな時に満足感を得るのかが、見えてきたように思えます。

基礎・基本を ふまえた 振り返りの 観点

「形をさがす」（1年生；デザイン）という題材では、気に入った所のある野菜か果物のデッサンから始めます。次にデザインの学習に入り、何点かの作品を見せ、そのちがいを感じ、そこから構成美の要素につなげて学習します。その後すぐに、4点のアイディアスケッチをします。その段階では、《わたし》と『むきあう』ことが不十分な生徒も、教師が基礎・基本をふまえた振り返りの観点を提示することで、右のようなデザインに変わりました。アイディアスケッチでは引き出されていなかった個性が、徐々に現れてきたものと思われます。今後着彩も予定され、これからの変容が期待されます。



《わたし》が 『ひらく』

生徒が、制作過程の節目において、作品を振り返り、基礎・基本をふまえた観点を教師から受け取り、試行錯誤していく。その結果、題材を通して、《わたし》は、何を表現したいのかが明確になり、その表現方法を身につけようと努力してより個性を発揮することができるはずです。できなかったことができるようになることで、子供の『ひらく』姿が生まれるのではないのでしょうか。

『抽象彫刻』

～見えないもの
が見えてくる』

指導者 札幌丘珠高校 本田 勝哉

授業協力者 石川 雅昭（東海四）

澤田 範明（清田） 本庄 隆志（南陵）

松井 茂樹（月寒） 坂東 宏哉（手稲）

鉢呂 彰敏（平岸） 齋藤 周（開成）



1. 題材設定の理由

- ① 20世紀現代彫刻は、今世紀初頭の遺跡発掘ブームや科学の発達によって、それまでとは違った視覚的な変革があった。本題材では抽象彫刻の源泉となるものを紹介し、生徒に現代抽象彫刻についての理解を深めさせたい。
- ② 作品制作に当たっては、検査用ゴム手袋に石膏を流し込み、石膏の化学反応によって熱を発生し固化するのを肌で感じながら成形させるもので、造形の新鮮な驚きと適度な緊張感があり制作に向かう真剣な取り組みが期待できる。
- ③ 石膏は扱いやすいうえに美しい素材でもあり、ゴムの張力によって偶然できる量塊や曲面に触発されながらナイフや水研ぎペーパー等で成形することが可能である。
- ④ でき上がった作品のプレゼンテーションによって、単体あるいは複合体としてさまざまなイメージを膨らますことができ、教材としての発展性や転化が期待できる。

2. 指導目標

- ① 量感をとらえて、生命感豊かに表現できるようにすると共に、単体から複合体へと発展させることにより作品全体の「調和や動き」について考える。
- ② 新しい表現としての「石膏」の材料体験をする中で、より独創的な作品をめざしてのアイデアや工夫に努め、計画的な制作に取り組む。
- ③ 作品の鑑賞を通して、彫刻（立体）の表現要素や、それぞれのテーマなどに関する意見・感想を持ち、今後の美的表現活動に活かす。

3. 学習活動の展開

- | | | |
|------|---|-------|
| ① 導入 | 抽象彫刻についての理解・制作過程について | 1時間 |
| ② 構想 | アイデアスケッチとモデリングによるエスキース | 1時間 |
| ③ 制作 | 石膏による成形(1)単体としての表現 | 1.5時間 |
| ④ 鑑賞 | ディスカッションによる作品鑑賞と
次時での成形へのアプローチ（ラフデッサン） | 0.5時間 |
| ⑤ 制作 | 石膏による成形(2)複合体としての表現（本時） | 1.5時間 |
| ⑥ 鑑賞 | ディスカッションによる作品鑑賞 | 0.5時間 |

4. 本時の目標

- ① デッサン（前時）のイメージをもとに、作品化するためのアイデア・工夫をする。
- ② 石膏の流し込み作業を協力して行い、成形する。
- ③ でき上がった作品を鑑賞しあい、抽象彫刻の美しさを感じとる。

5. 本時の展開

学習内容	時間	生徒の活動	指導上の留意点
(導入) ・作品化のための アイデア・工夫	5分 10分	・授業準備 ・前時の確認（単体とデッサン） ・本時の作業計画・目標の確認	・座席、作業分担の確認。 ・参考作品の提示と、成形の方法の確認。
(展開) ・石膏の流し込み 作業を協力して 行い成形する。	35分	・作業プロセスを理解する。 ・アイデアに合わせての準備。 ・2人1組になり交代で流し込み、作業を行う。 ・成形に入る。（押し当てる形、巻つける形などを利用して固化させる） ・作品テーマの考察	・石膏の流し込み作業の再確認。 ・成形を補助する材料の準備。 ・机間巡視による個別アドバイス。 ・特にゴム手袋の亀裂や細部の損傷など不備な生徒への援助。 ・固化の時間を利用して題名を考えてみよう。
	10分	・固化した石膏の補修と削り出し、研磨。	・バケツ等の水の中での作業指示。 水研ぎペーパー バケツ ナイフ
(まとめ) ・でき上がった作 品を鑑賞し抽象 彫刻の美しさ を感じとる。	15分	・作品のプレゼンテーション ・ディスカッションによる作品鑑賞 ・感想カードの記入 ・後片付け	・指定した場所に作品を展示させ、ディスカッションの援助をする。 ・ディスカッションを通して感じた事をまとめさせる。

6. 評価

- ① ラフデッサン（前時）のイメージをもとに、作品化するためのアイデア・工夫ができたか。
- ② 石膏の流し込み作業を協力して行い、成形することができたか。
- ③ でき上がった作品を鑑賞しあい、抽象彫刻の美しさを感じとることができたか。

さっぽろ雪まつりでの造形交流活動の実践

提言者 吉岡 隆



扉との関連

新教育課程の中で最も難しいと感じる点は、総単位数減の流れの中でいかにして教科としての美術の必要性を訴えていくことではないかと考えています。

つまり、生徒が楽しく表現鑑賞活動に親しみ、そこを通して感性と美的体験を豊かにし、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする心情を育てるために、『多様な表現方法を選択でき、自分の個性を生かす表現を追求できる場（機会）』をどのように作っていくかに注目し、今日急速に普及してきたインターネットなどの通信や映像メディアを活用して、他との交流の中から生徒が自分自身をみつめ、表現活動に取り組んでいくかを考えてみたいと思います。

実践について

「さっぽろ雪まつりでの造形交流活動の実践」

本校の美術部では、学校創立以来、毎年「さっぽろ雪まつりの市民雪像」を部員たちが共同制作してきました。数年前にインターネットのホームページでその様子を紹介し、全国の児童・生徒と電子メールで雪像のアイデアやテーマをやり取りして共同制作することを呼びかけてみたところ、小学生から高校生まですさまざまな校種、異なる学年の児童・生徒たちがアイデアを寄せてくれました。子供たちのアイデアは、ひとりひとりのメッセージや夢がテーマにこめられた作品ばかりで画用紙に絵の具で描かれたもの、粘土で作られたもの、パソコンで描かれたものとさまざまな表現があり、パソコン上でデジタル化されたイメージとしてインターネットの電子会議室システムに作品の説明とともにアップロードされ、全国どこからでも見ることができます。

電子会議室での意見交換を行いながら、共通するアイデアやテーマについてより深く話し合いをするためにテレビ会議システムを使ったプレゼンテーション交流を横浜、福井、沖縄の児童・生徒たちと行いました。

こうして話し合われたアイデアをもとに市民雪像の講習会に、本校の生徒たちが参加し、雪像制作指導員からアドバイスを受けて最終的な粘土模型を完成させました。また、交流した全国の児童・生徒たちとも大通公園での雪像共同制作を行なうことができました。



力合わせ雪像作り

札幌新川美術部と全国の小中学生

雪像作りに汗を流す福井や沖縄の小中学生



「HEART AND CREATION」

北海道音威子府高等学校の工芸教育について

提言者 平田昌也(工芸科)



はじめに

本校は、かつては定時制課程の普通高等学校であり、地域の教育機関として機能していました。しかし、過疎化による人口の減少や、高等学校進学者の全日制高校志望者の増大から、入学者の著しい減少を招き、一時は募集停止寸前の危機的な状況を迎えました。この状況を打開するため、昭和59年、全日制に転換するとともに、地域の資源である木材に注目し、「木材工芸」を取り入れた特色ある教育課程を編成した新しい学校として再スタートし、17年間を経過しました。現在では、全道・全国から応募者が増え、北海道唯一の全日制課程・工芸科の私立高等学校として注目を集めています。

本校工芸科の
教育課程

教育課程は、「基礎演習」「デザインと制作」「理論と鑑賞」の科目集団に分類され、学年の進行に従って基礎から応用へと系統化しています。(別紙資料4)

「基礎演習」は、「工芸基礎」「基礎工作」で編成され、木材加工用手工具の調整、木工機械操作法等、制作活動において必須であり基礎となる内容を学びます。特に、鉋、鑿、鋸などの基本的な手工具の仕込みとその利用に関しては、十分に時間をかけ、高い技術を習得させています。

工芸科の中心的な内容にあたる「デザインと制作」は、身近な工芸をテーマにした「生活工芸(工芸制作Ⅰ)」を学び、次に規格品を正確に制作する「生産工芸(工芸制作Ⅱ)」を学習します。さらに環境に寄与する工芸のあり方を「環境工芸(工芸制作Ⅲ)」として学び、最後に、これまでの学習をもとに、自分で主題を設定し作品を創作する「総合工芸(工芸制作Ⅳ)」を学び卒業します。

「理論と鑑賞」では、「工芸概論」や「工芸史」の学習を通して、鑑賞と創造の能力を習得させています。また、未来社会における造形文化に関する人間の生き方と工芸制作のあり方を考えるよう指導しています。

音威子府高校
が目指すもの

本校は、単なる工芸技術の習得を目的としているのではなく、生徒の「創造力」の育成を目指しています。この創造力を伸ばすために、特に評価法の工夫に力を入れています。観点として、[①何を参考にしたのか?][②自分なりの工夫(特長)は何か?][③最も苦労したのはどの点か?][④成成感はあったか?][⑤自分で気がついたことや分かったことは何か?][作品のイメージと題名(作品名)の命名]。以上の点をレポートに書かせ、評価に組み入れ、単なる完成度の判断に終わらないようにしています。このような評価を取り入れた結果、生徒は意欲的な学習活動を行っています。

また、「ものづくり」などの体験的学習を通して、生徒に成就感や自信を持たせ、勤労観や職業観の育成にもつなげています。

HEART AND
CREATION

昨年、創立50周年を機に校訓「HEART AND CREATION 創造・自主・飛翔」を制定しました。「HEART」は、木の温もりを肌で感じながら「ものづくり」を通して豊かな心を創り出す精神を、「CREATION」は、造形教育の求めている「豊かな発想と創造力」を意味しています。このような校訓のもと、音威子府高校は「ものづくり」を通して、生徒の創造力を育て、個性を伸ばさせる教育実践を重ねています。是非、本校の施設・設備や生徒の作品を見に来てください。

THEART AND CREATION
アートの創造性



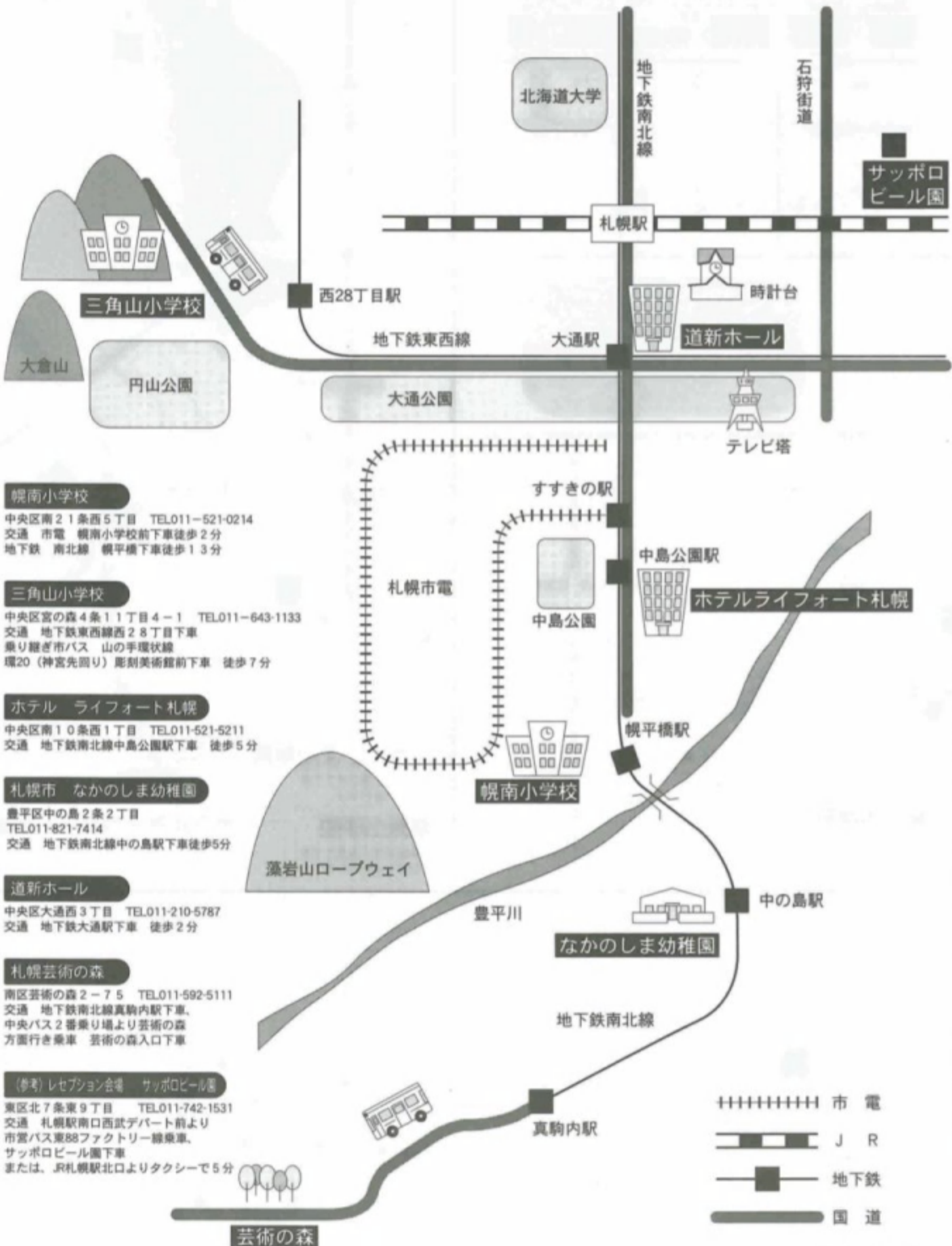
会場案内図 会場校紹介

連盟大会のあゆみ
連盟名簿
全国大会組織図



会場案内

札幌の交通機関について



幌南小学校

中央区南2条西5丁目 TEL.011-521-0214
 交通 市電 幌南小学校前下車徒歩2分
 地下鉄 南北線 幌平橋下車徒歩13分

三角山小学校

中央区宮の森4条1丁目4-1 TEL.011-643-1133
 交通 地下鉄東西線西28丁目下車
 乗り継ぎ市バス 山の手環状線
 環20(神宮先回り)彫刻美術館前下車 徒歩7分

ホテル ライフォート札幌

中央区南10条西1丁目 TEL.011-521-5211
 交通 地下鉄南北線中島公園駅下車 徒歩5分

札幌市 なかのしま幼稚園

豊平区中の島2条2丁目
 TEL.011-821-7414
 交通 地下鉄南北線中の島駅下車徒歩5分

道新ホール

中央区大通西3丁目 TEL.011-210-5787
 交通 地下鉄大通駅下車 徒歩2分

札幌芸術の森

南区芸術の森2-75 TEL.011-592-5111
 交通 地下鉄南北線真駒内駅下車、
 中央バス2番乗り場より芸術の森
 方面行き乗車 芸術の森入口下車

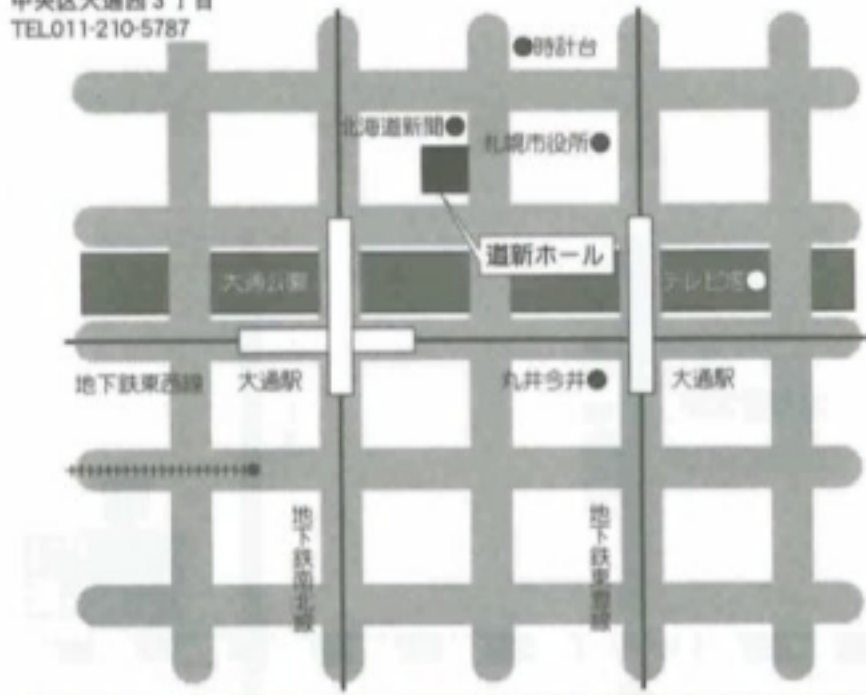
(参考) レセプション会場 サッポロビール園

東区北7条東9丁目 TEL.011-742-1531
 交通 札幌駅南口西武デパート前より
 市営バス東88ファクトリー線乗車、
 サッポロビール園下車
 または、JR札幌駅北口よりタクシーで5分

- +++++ 市電
- JR
- 地下鉄
- 国道

道新ホール

中央区大通西3丁目
TEL.011-210-5787



各会場案内



三角山小学校
中央区宮の森4条1丁目4-1
TEL.011-643-1133



なかのしま幼稚園
豊平区中の島2条2丁目
TEL.011-821-7414

幌南小学校
中央区南21条西5丁目
TEL.011-521-0214

ホテルライフオート札幌
中央区南10条西1丁目
TEL.011-521-5211



札幌芸術の森
南区芸術の森2-75
TEL.011-592-5111

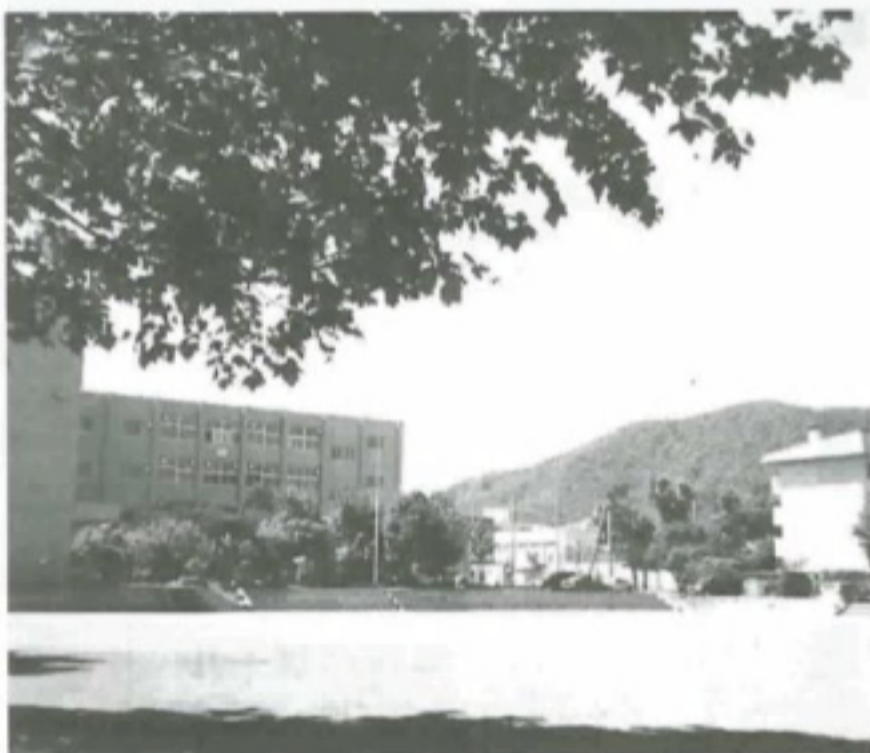
会場校紹介

聖徳学園なかのしま幼稚園

札幌市豊平区中の島2条2丁目

TEL 011-821-7414

昭和30年の開園当時から「すべての子供に平等な教育を」をかけた、一人一人の違いを大切にしながら、集団生活を通して友達と仲良くしていくための表現方法やコミュニケーションを身につけていく場になることを願い、あゆんでいます。



札幌市立幌南小学校

札幌市中央区南21条西5丁目

TEL 011-521-0214

開校のお祝いに植樹された2本の神樹が校門前に高くそびえ立ち、本校の子供たちを見守っています。

「共に学び、自ら高めていく子」「心豊かで主体的な子」を育もうと地域・学校・家庭が手を取りあい、創意と熱意あふれる学校づくりには、65年の伝統が生き続けています。

札幌市立三角山小学校

札幌市中央区宮の森4条11丁目

TEL 011-643-1133

札幌の南西、三角山の麓にある本校は、校舎から広々と広がる札幌の街並みを見渡すことができます。豊かな自然に恵まれた教育風土の中、『いい顔・いい声・いい動き』の子供を目指して、「わたし・いま・ここ・そして未来へ」の思いを実現できる実践に力を注いでいます。



札幌芸術の森

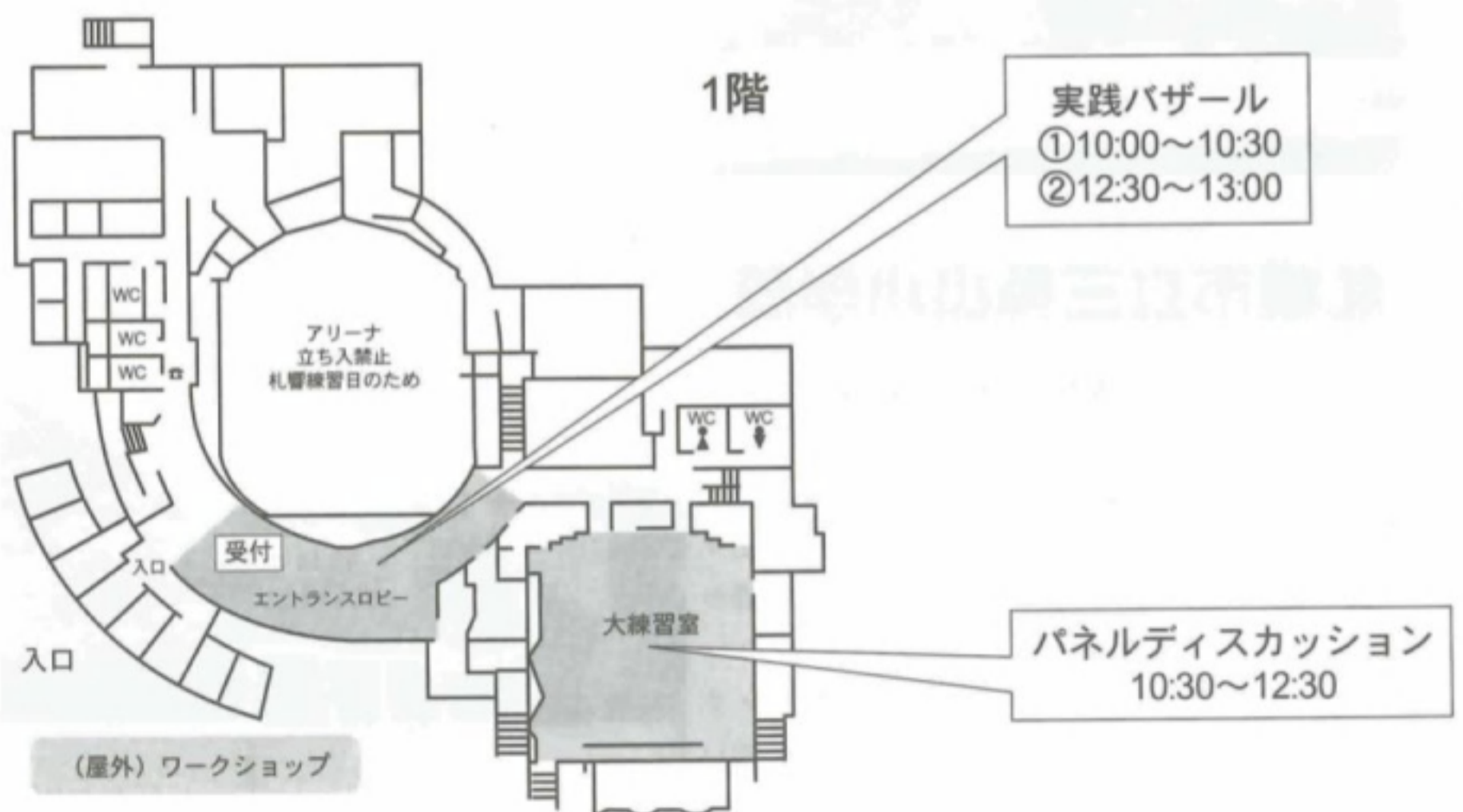
札幌芸術の森は、21世紀へ向けた芸術文化都市札幌のシンボルとして昭和61（1986）年7月に一部オープンしました。この芸術の森は、恵まれた自然環境の中で芸術家による芸術活動の高まり、市民による芸術活動の参加、さらには、札幌独自の文化へ発信することを目指しています。そして、20世紀に培われた札幌の文化を次世代へ伝える目的の下に3期15年計画で建設が進められ、平成11（1999）年7月に野外美術館のダニ・カラヴァンの彫刻作品《隠された庭への道》の完成をもって、建設・整備が完了いたしました。

芸術の森は、札幌市の南にある自然環境豊かな丘陵地に位置しています。広さ40haにおよぶその敷地には、鑑賞、発表、製作、研修、情報交流の機能を備えた各種芸術施設が点在しており、札幌の複合芸術文化施設として北方の芸術文化を創造・発信していく役割を担っています。

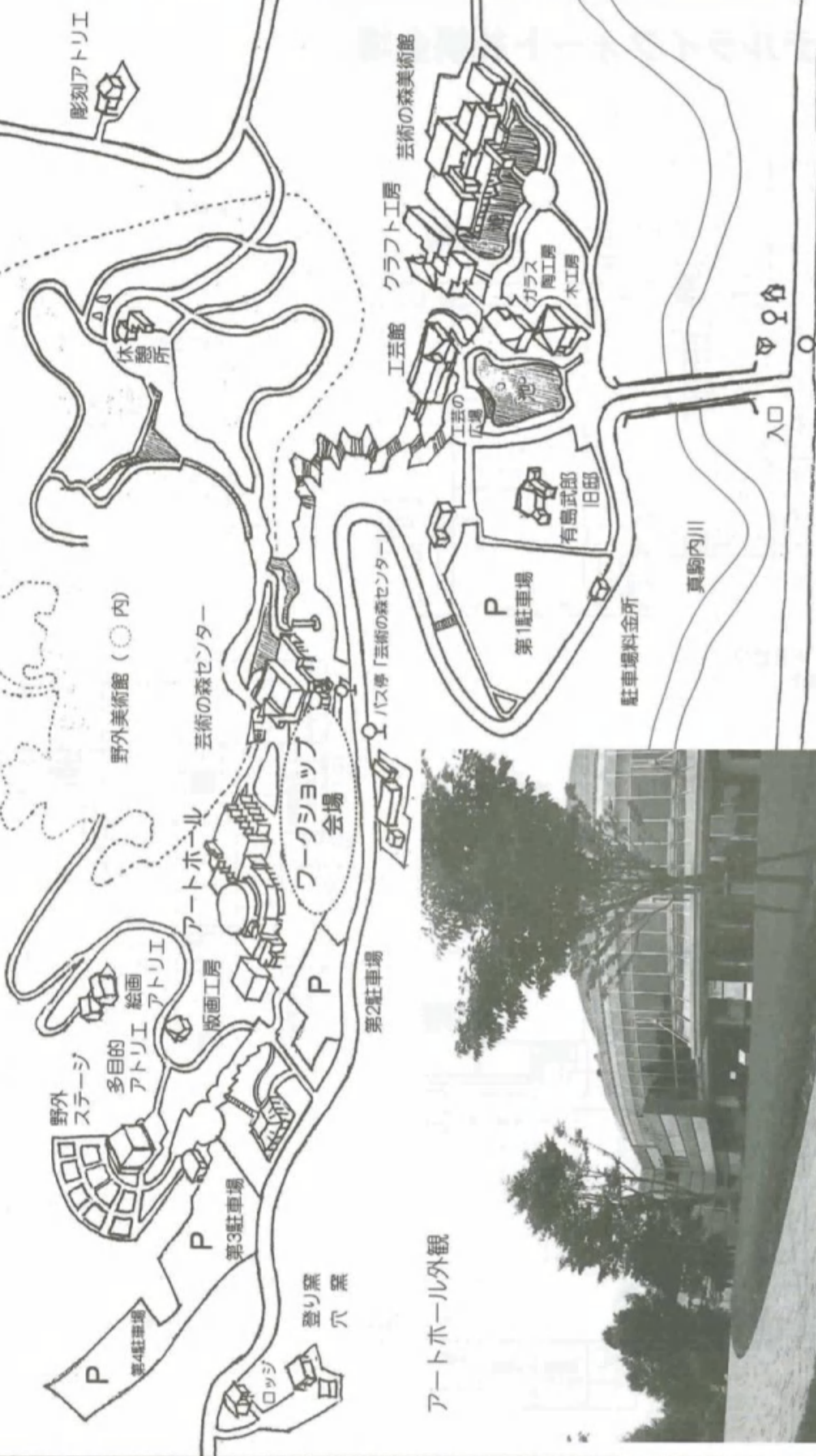


会場案内図

芸術の森 アートホール会場



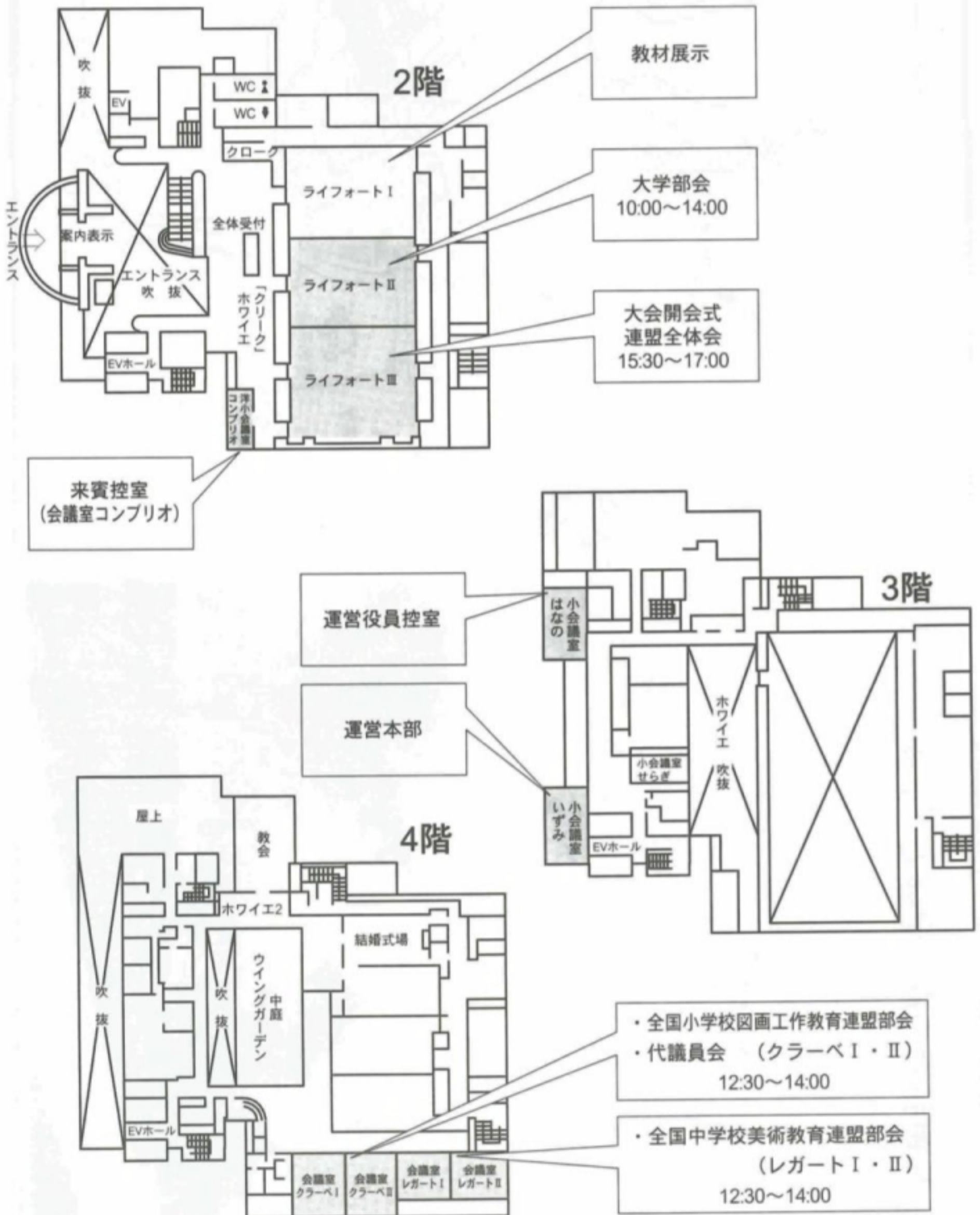
札幌芸術の森 全体ガイド図



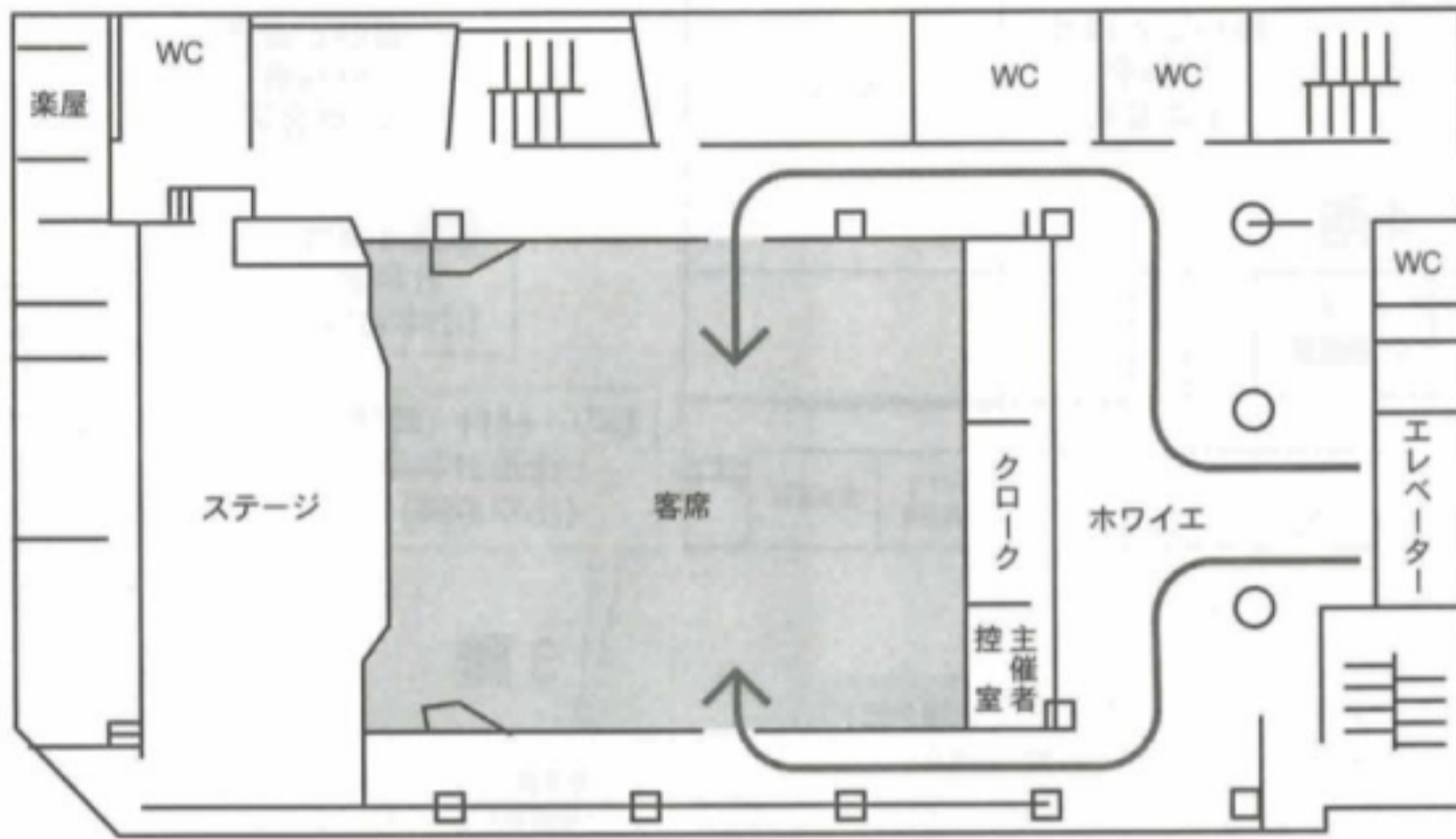
アートホール外観



ホテルライフオート札幌会場



道新ホール会場 (8階)



なかのしま幼稚園会場



幌南小学校会場



三角山小学校会場

公開授業（中学2年）
個性と造形
「わくわく彫刻パンフレット」

（札幌彫刻美術館にて）

公開授業（小学5年）
遊びと造形
「ギャラクター」

公開授業（小学6年）
遊びと造形
「ウォータースタジオ三角山」

公開授業（高校美術部）
個性と造形

「抽象彫刻
～見えないものが見えてくる～」

個性と造形
中学校分科会

個性と造形
高等学校分科会

2階

公開授業（小学5年）
コミュニケーションと造形
「ぼくのわたしの
ウルトラか～かし」

公開授業（中学1年）
コミュニケーションと造形
「ようこそ先輩
アニメーションで交流を」

4階

3階

1階

コミュニケーションと造形
小学校分科会

コミュニケーションと造形
中学校分科会

遊びと造形
小学校分科会

〜 児童作品展示場所を示す



全国造形教育研究大会のあゆみ

回数	期 日	開 催 地	大 会 主 題
1	昭23. 10	一宮市	図画工作教育の根本理念の討議と解明
2	24. 10	京都市	図画工作教育振興の具体案如何の協議
3	25. 9	広島市	図画工作における評価の実際
4	26. 10	福岡市	鑑賞教育、全国児童図画工作展
5	27. 10	金沢市	生活と美術、全国児童生徒図画工作・作品展
6	28. 11	大阪市	指導要領の検討
7	29. 8	仙台市	指導要領ならびに指導内容の検討
8	30. 11	東京都	現下の図画工作教育を阻むものは何か、改善策
9	31. 8	札幌市	造形教育において、つくりだす力を養うにはどうすればよいのか
10	32. 10	松山市	現代日本の図画工作教育の反省と今後の方向
11	33. 10	長野市	図画工作科の本質を再検討し今後の対策をたてる
12	34. 10	神戸市	図画教育の実情を明らかにし、その新しい建設へ
13	35. 8	箱根町	生きる喜びの基をつくり出す造形教育
14	36. 11	別府市	いきいきとした生活をつくり出す造形教育
15	37. 10	富山市	人間づくりの造形教育を確立するために
16	38. 8	東京都	科学と美術教育、伝統と美術教育、原理と方法
17	39. 11	宇都宮市	造形教育の実践をとおして、豊かな個性を育てる
18	40. 8	東京都	第17回国際美術教育会議東京大会の内容に包含されておこなわれた
19	41. 10	盛岡市	たくましい創造力を育てる造形教育の実践
20	42. 10	新潟市	人間形成をめざす造形教育の現実的課題と解決策
21	43. 8	高知市	造形教育の今日的課題を究明し、ゆたかな感性とたくましい表現力を育てよう
22	44. 8	那覇市	造形教育を風土の中でどのようにいかすか
23	45. 10	秋田市	ほんとうの美しさをつくり出す授業をもとめて
24	46. 10	静岡市	たくましい創造力を育てる造形教育
25	47. 11	東京都	未来を指向する美術教育は何か
26	48. 10	京都市	わが国の造形教育の今日的課題は何か
27	49. 10	和歌山市	子供と共にあゆむ造形—豊かな発想を求めて—
28	50. 10	山形市	ゆたかな心情とたくましい創造力を育てる造形教育
29	51. 6	東京都	緊迫した教育課程改訂にどう対処するか
30	52. 7	札幌市	みずみずしい中身でしなやかな子供を育てる造形実践
31	53. 10	浦和市	造形教育の本質にせまる実践はどうあるべきか
32	54. 10	仙台市	豊かな創造力を育てる造形活動を求めて
33	55. 7	名古屋市	自らつくりだす喜びを育てる造形教育
34	56. 6	長岡市	生きているあかしの表現
35	57. 11	武雄市	創り出すよろこびを求めて—日々の実践の中で、今日的課題を探る—
36	58. 11	東京都	独自性を見なおす—国際的視野に立った発展する美術教育の今日的課題—
37	59. 10	上山田町	心おどらせてとりくむ造形
38	60. 10	奈良市	明日に生きる創造力の開発をめざして
39	61. 8	旭川市	子供の心をゆり動かす造形教育—つくる心の広がりや深まりを求めて—
40	62. 10	千葉市	子供の心を掘り起こす造形教育
41	63. 11	松山市	心ときめき、ひびきあう美術教育
42	平元. 8	青森市	子供の心に創るよろこびをひきおこす造形教育—豊かな感性と、うるおいのある表現活動を求めて—
43	2. 11	熊本市	よろこび・いきいき造形教育—自己表現に心ふるわせる子供を求めて—
44	3. 7	東京都	審美教育と英知
45	4. 11	京都市	新たな時代をきり拓く造形教育
46	5. 8	那覇市	21世紀に向けての造形教育
47	6. 11	横浜市	いま、さらに 豊かな感性・創造のよろこびを
48	7. 11	飯田市	いのちにふれる造形活動—つくるよろこび自分らしさの表現を求めて—
49	8. 10	東京都	人間・表現・環境
50	9. 7	東京都	造形美術教育の再創造
51	10. 8	東京都	人間・造形美術・教育—造形美術教育の再創造—
52	11. 8	大宮市・浦和市	自分“彩”発見—「自分さがしの旅」をしつづける子供の造形活動—
53	12. 8	富士市	開く造形教育に—生き生き交流—
54	13. 9	札幌市	〈いま〉〈ここ〉〈わたし〉を基軸にして造形の未来を創る

全国造形教育連盟規約

- 1 (名称) 本連盟は、全国造形教育連盟と称する。
- 2 (目的) 本連盟は、全国造形教育の振興をはかる。
- 3 (事業) 本連盟は、上の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 4 (組織)
 - イ 各加盟団体及び各学校種別会間の研究の交流、その連絡を行う。
 - ロ 毎年1回大会を開き、研究ならびに必要な決議を行う。
 - ハ 目的を同じくする他の国際的機関および国内的機関団体等との研究の交換、その他の連絡を行う。
 - ニ その他本連盟の目的達成に必要な事業を推進する。
- 5 (機関) 本連盟は、各都道府県の造形教育団体をもって組織する。
 - イ 決議機関として代議員会
 - ロ 執行機関として本部役員会
- 6 (代議員会) 代議員会は本部役員ならびに代議員を以て構成し、毎年1回委員長の招集により大会期間中に行う。代議員は各都道府県の代表7名とする。
- 7 (本部役員会) 本部役員会は、委員長1名、副委員長2名、事務局長1名、学校種別部長各1名を以て構成し、必要に応じて委員長が招集する。
- 8 (役員の仕事) 委員長は本連盟を代表し会務を執行する。副委員長は委員長を補佐する。各部長は学校種別に必要な事業を推進する。監査役員は2名とし、会計の監査にあたる。
- 9 (役員の出任任期) 委員長、副委員長、監査委員は代議員の互選により選出し、任期は2ケ年とする。
- 10 (事務局) 委員長のもとに事務局をおく。事務局の所在地は東京とし、その規定は別に定める。
- 11 (経費) 本連盟の経費は、加入団体の負担金ならびに事業収入、その他寄付金をもってまかなう。大会会費は、その都度決定し参加者の負担とする。部会の経費は必要に応じ、別に徴収することができる。
- 12 (規約の発効) この規約は昭和49年10月30日より発効する。

《申し合わせ事項》

- 1 各都道府県団体を代表する代議員の7名は原則として、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、指導主事、それぞれから選出し、毎年5月末までに連盟本部に連絡する。代議員は単なる代議員会構成員であるだけでなく、連盟本部を通じて全国諸団体との日常的な研究、交流、運動等の情報交換を行う。(1992年11月18日、京都大会において代議員5名を7名に変更)
- 2 当分の間、都道府県の実績によっては、当該都道府県団体の希望があれば、県内地域、あるいは学校種別団体の全造連への直接加盟を認める。この場合は加盟団体毎に負担金を納入し、代議員は学校種数の人数を選出する。
- 3 加盟団体の負担金は、年額1都道府県 8,000円(1都道府県内に2名以上の加盟団体をつくる時は1団体 4,000円)とする。(1998年8月19日、東京大会において負担金額改正)

全道造形教育研究大会の開催地と研究一覧

- 第1回（札幌）1950
情操教育の一貫として本道図工教育の進展を図るため
- 第2回（札幌）1952
美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について
- 第3回（旭川）1953
美術教育の指導とは何か
- 第4回（函館）1954
図画工作教育実践上の諸問題について
- 第5回（釧路）1955
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明
- 第6回（札幌）1956
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか
- 第7回（室蘭）1957
のぞましい造形教育における具体的諸問題について
- 第8回（小樽）1958
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか
- 第9回（帯広）1959
新段階における造形教育のあり方
- 第10回（網走）1960
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう
- 第11回（滝川）1961
子供たちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか
- 第12回（名寄）1962
子供が生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
- 第13回（余市）1963
子供が生活を見つめ造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
- 第14回（札幌）1964
子供の創造能力とは何か
- 第15回（稚内）1965
子供の創造能力とは何か
- 第16回（室蘭）1966
子供の造形能力とは何か
- 第17回（函館）1967
指導の構築を具体化する
- 第18回（苫小牧）1968
指導の構築を具体化する
- 第19回（札幌）1969
造形能力は、そのような指導によって育てられるか
- 第20回（旭川）1970
ゆたかに生きる子供の造形能力をどう育てるか
- 第21回（札幌）1971
造形能力は、どのような指導によって育てられるか
- 第22回（帯広）1972
未来に生きる子供の造形教育（生活に根ざした造形教育をどう高めるか）
- 第23回（室蘭）1973
未来に生きる子供の造形教育（たしかな表現力をどのように育てるか）
- 第24回（美幌）1974
未来に生きる子供の造形教育（ひとりひとりの

子供の表現力をどう高めるか)

- 第25回 (江別) 1975
未来に生きる子供の造形教育 (自ら創り出す力をどう育てるか)
- 第26回 (岩見沢) 1976
未来に生きる子供の造形教育 (すべての子供に造形による喜びを)
- 第27回 (札幌) 1977
(第30回全国造形教育研究大会とかねる)
みずみずしい中味でしなやかな子供を育てる造形実践
- 第28回 (函館) 1978
みずみずしい中味でしなやかな子供を育てる造形実践 (すべての子供が生き生きととりくむ学習)
- 第29回 (旭川) 1979
生き生きとしたゆとりのある子供を育てる図工美術教育のあり方
- 第30回 (苫小牧) 1980
ひろがりや深まりの造形教育を求めて
- 第31回 (釧路) 1981
創りだす心をよびおこす造形教育
- 第32回 (室蘭) 1982
見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを
- 第33回 (留萌) 1983
生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動
- 第34回 (札幌) 1984
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (わきたつ発想・たしかな表現・つくり出す喜び)
- 第35回 (函館) 1985
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (心をこめてつくりだす子供を育てる)
- 第36回 (旭川) 1986
(第39回全国造形教育研究大会とかねる)
子供の心をゆり動かす造形教育 (つくる心のひろがり求めて)
- 第37回 (紋別) 1987
子供の心をゆり動かす造形教育 (表現の喜びにひたる子供を育てる)
- 第38回 (滝川) 1988
子供の心をゆり動かす造形教育 (ひたむきに創る心を育てる)
- 第39回 (帯広) 1989
子供の個性的表現に授ける造形教育の充実 (君はいま創造のとりこに)
- 第40回 (苫小牧) 1990
広がり、深まり、そして感動を!
- 第41回 (札幌) 1991
子供の個性的表現を授ける造形教育 (子供のつくる喜びをひろく)
- 第42回 (函館) 1992
子供の個性的表現を授ける造形教育の充実 (感動、そして創造する喜びを)
- 第43回 (旭川) 1993
思いをあたため心はずませる創る喜びを
- 第44回 (釧路) 1994
心ときめく、創造の喜びを求めて
- 第45回 (千歳) 1995
豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を
- 第46回 (札幌) 1996
自らの心を拓く造形学習の在り方
～造形=愛情美遊創 in 札幌～
- 第47回 (根室) 1997
感性から発し躍動する力を育む造形学習を!
- 第48回 (留萌) 1998
楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し寄り添う指導
- 第49回 (オホーツク) 1999
オホーツク発
思・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～
- 第50回 (函館) 2000
20世紀から21世紀へ
～心の風景 (ビジョン) の発信を!～
豊かな自分づくりを生かす想創活動
- 第51回 (札幌) 2001
心豊かに未来に生きる造形教育

全道造形教育連盟規約

1. 名称と目的 本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の進行を図るをもって目的とする。
2. 事業 本連盟は目的を達成するため次の事業を行う。
 - ①研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
 - ②造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
 - ③機関誌の刊行
 - ④他の造形教育団体との連絡提携
 - ⑤その他造形教育振興上必要な事項
3. 会員 正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの
4. 組織 サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する
本部 本連盟の本部は札幌に置く
5. 構成及び任務
 - ①役員
委員長 1名 本連盟を代表する
副委員長 若干名 委員長を補佐する
会計監査 2名 会計の監査をする
 - ②委員
地区委員 地区1名 地区サークルを代表する
常任委員 若干名 本連盟の運営に当たる
顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる
6. 選任 *委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する
*地区委員は地区サークルで選出する
*常任委員は委員長の委嘱による
*顧問は委員長総会において委嘱する
7. 任期 役員及び委員の任期は1カ年とする。但し重任を妨げない
8. 会議 *総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する
*委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する
役員の選出、予算、決算及び年間計画等につき審議する
*常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する
9. 会計 本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する
会費 正会員は、1人年額2,000円を納入するものとする
サークルは、年額10,000円を本部に納入するものとする
10. 事務局 *事務局は事務局長在勤の学校に置く
*事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する
*事務局には必要に応じて各部を設け業務の分担をする
11. 年度 本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる
12. 規約の改廃 本規約の改廃は委員総会の議決による

(平成6年4月29日改訂)

(平成9年4月29日改訂)

平成13年度 全国造形教育連盟本部役員

役 職	氏 名	勤 務 校 ・ 所 在 地	TEL FAX
委員長	矢 木 武	豊島区立豊成小学校 170-0012 東京都豊島区上池袋1-18-24	03-3940-5166 (直通TEL・FAX)
副委員長	芝 木 秀 昭	北海道札幌市立幌南小学校 064-0921 札幌市中央区南21条西5丁目	011-521-0214 531-6754
副委員長	神 山 泰 治	琉球大学教育学部 903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1	098-895-2221
会計監査	三 澤 文 人	埼玉県杉戸町立杉戸小学校 345-0035 埼玉県北葛飾郡杉戸町内田2-9-28	0480-32-0042 32-0067
会計監査	小 林 篤	静岡県沼津市立金岡中学校 410-0042 沼津市神田町4-1	0559-21-1558 21-1990

■ 学校種別部長・事務局長

幼稚園 保育園	木 村 量 好	桃陵乳児保育園 612-8104 京都市伏見区西奉行町1丁目	075-611-3307 612-1421
小学校 (部長)	矢 木 武	豊島区豊成小学校 170-0012 東京都豊島区上池袋1-18-24	03-3940-5166 (直通 TEL・FAX)
小学校 (事務局)	永 井 和 貴	中野区立丸山小学校 165-0021 東京都中野区丸山1-17-1	03-3387-7330 (直通 TEL・FAX)
中学校 (部長)	谷 山 育	大阪市立文の里中学校 545-0003 大阪市阿倍野区美章園1-5-52	06-6621-0790 6621-6729
中学校 (事務局)	今 村 忠 志	大阪市立大和川中学校 558-0032 大阪市住吉区遠里小野2-11-4	06-6694-0005 6694-1573
高等学校 (部長)	佐 藤 清 親	都立北豊島工業高等学校 174-0062 東京都板橋区富士見町28-1	03-3963-4331 3963-4454
高等学校 (事務局)	越 前 和 代	都立小石川高等学校 113-0021 東京都文京区本駒込2-29-29	03-3946-7171 3946-7397
大 学 (部長)	仲 瀬 律 久	聖徳大学人文学部 271-8555 千葉県松戸市岩瀬550	047-365-1111 363-1401
大 学 (事務局)	小 泉 卓	聖徳大学人文学部 271-8555 千葉県松戸市岩瀬550	047-365-1111 363-1401
心 障 (部長)	金 崎 満	都立七生養護学校 191-0042 東京都日野市程久保843	042-591-1095 593-5537
心 障 (事務局)	石 丸 良 成	都立七生養護学校 191-0042 東京都日野市程久保843	042-591-1095 593-5537
国 際 局	大 坪 圭 輔	東京大学教育学部附属中等教育学校 164-8654 東京都中野区南台1-15-1	03-5351-9627 (直通 TEL・FAX)
事 務 局	伊 藤 元 一	渋谷区立上原小学校 151-0064 東京都渋谷区上原3-13-20	03-5454-2235 (直通 TEL・FAX)

平成13年度 北海道造形教育連盟名簿

役員

役名	氏名	勤務校	役名	氏名	勤務校
委員長	芝木 秀昭	札幌市立幌南小長	研究部長	櫻田 豊	札幌市立北園小
副委員長	及川 輝夫	旭川市立東鷹栖中長	副部長	森 美由紀	いなづみ幼
〃	繪面 和子	函館市立大森小長	〃	川島 正夫	南の沢小
〃	吉田 英夫	千歳市立青葉中長	〃	合田 典史	前田北中
〃	斉藤 隆博	池田町立池田中長	〃	澤田 範明	清田高
〃	江川 佳徳	札幌市立札幌中長	次長	柏木 順	たいへいみなみ幼
監査	若竹 隆邦	熊石町立雲石小長	〃	細川 依子	丘珠幼副
〃	内田 暢一	美唄市立中央小長	〃	加藤 雅子	札幌市立開成小
事務局次長	藤井 正治	札幌市立上野幌東小長	〃	野切 卓	教育大札幌附属小
〃	板木 武	〃 もみじ台南小長	〃	堀口 基一	札幌市立三角山小
〃	角力山 旭	〃 常磐中長	〃	山 薫	〃 澄川南小
〃	石川 雅昭	東海大学第四高等学校	〃	湯浅 大吾	〃 新陽小
会計部長	富田 泰	札幌市立八軒小長	〃	櫻田 悟	〃 幌西小
副部長	篠原 寛	〃 福井野小	〃	田中 潤	〃 屯田中央中
〃	植木 則子	〃 平岸小	〃	阿部 時彦	〃 中央中
〃	元茂 章子	〃 澄川南小	〃	伊藤 尚	〃 米里中
庶務部長	池田 悦子	〃 円山小	〃	小野 泰裕	〃 藻岩中
副部長	益村 豊	〃 真駒内緑小	〃	高橋久美子	〃 宮の森中
〃	古谷 壽朗	〃 屯田西小	〃	安田 仁昭	〃 西岡北中
次長	今谷 孝	〃 平和小	〃	岡澤 邦彦	〃 前田中
〃	氏家 珠実	〃 西小	〃	館内 徹	〃 月寒中
〃	谷山 圭子	〃 白楊小	〃	石川 早苗	〃 手稲中
〃	高向 修子	〃 中央小	〃	水野 一英	教育大札幌附属中
〃	小林 充裕	〃 円山小	〃	向井 正樹	札幌市立あいの里東中
〃	椿野 衣江	〃 新陵中	〃	齋藤 周	〃 開成高
〃	寺田 実	〃 柏中	〃	本庄 隆志	北海道立札幌南陵高
事業部長	田口 和男	〃 白石小	〃	松井 茂樹	〃 月寒高
副部長	稲實 順	〃 創成小	〃	本田 勝哉	〃 丘珠高
〃	白井 真澄	〃 西宮の沢小	〃	坂東 宏哉	〃 手稲高
〃	土井 善範	〃 伏見小	事務局顧問	芝木 捷子	なかのしま幼長
〃	安木 尚博	〃 幌南小	幼保部	斎藤 三佳	札幌市立白楊幼
〃	大村 憲一	〃 簾舞小	小学部	窪田 恵子	〃 三角山小長
〃	小林 知広	〃 手稲鉄北小	〃	赤石 芳郎	〃 すみかわみなみ幼長
〃	福島由紀子	〃 桑園小	〃	佐藤 靖	〃 栄南小頭
〃	小野 正二	〃 伏古北小	〃	廣瀬 恵子	〃 苗穂小頭
〃	毛利 聡	〃 藻岩南小	〃	毛馬内國夫	〃 琴似小頭
〃	松本 和彦	〃 元町小	〃	今 裕子	〃 豊水小頭
〃	池田 武彦	〃 月寒小	〃	富所 玲	〃 南小
〃	八田 博之	〃 発寒小	〃	花田 正雄	〃 藤野南小
〃	田中かおる	〃 美しが丘緑小	〃	熊谷 悦代	〃 八軒北小
〃	平井 歩	〃 厚別北中	〃	小林万咲彦	〃 石山南小
〃	大高 雅子	〃 平岡緑中	〃	板田 恭侑	〃 藤野南小
〃	八子 正人	〃 発寒中	〃	小柳 雄嗣	〃 手稲東小
〃	箭内 浩之	モスクワ日本人学校	中学部	三輪 望	〃 新陵中長
広報部長	中居 正光	札幌市立月寒東小	〃	中尾 孝典	〃 東月寒中長
副部長	土肥 宏充	〃 清田南小	〃	石谷 正美	〃 もみじ台南中頭
〃	加藤 正幸	〃 新川中央小	〃	寺島 文憲	〃 真栄中頭
次長	小泉 誠	〃 東光小	〃	小泉 信嗣	〃 宮の丘中頭
〃	東 尚典	〃 大谷地東小	〃	近藤 暢男	〃 新川高頭
〃	山室ゆかり	〃 西岡南小	高校部	阿部 宏行	札幌市教育委員会
〃	太田寿栄子	〃 東園小	他	菅原 清貴	札幌市教育センター
〃	富田 賢司	〃 美香保中	個人会員	横山 猛	様似町立様似中長
〃	中山 龍男	〃 手稲西中	〃	高野 亮	利尻町立杓形小長

北海道造形教育連盟地区委員

サークル名	氏名	勤務校	サークル名	氏名	勤務校
札幌市造形教育連盟	三輪 望	札幌市新陵中長	檜山管内造形教育研究会	若竹 隆邦	熊石町雲石小長
石狩造形教育連盟	桑田 正博	恵庭市恵明中頭	胆振造形教育研究会	大野 達也	室蘭市陣屋小
空知美術教育研究会	佐藤 正幸	南幌町南幌中長	室蘭市造形教育研究会	北村 哲朗	室蘭市武揚小
後志教育研究会 図工美術部会	竹生 元	小樽市忍路中央小	苫小牧市教育研究会 造形部会	佐藤 公毅	苫小牧市凌雲中
上川造形教育研究会	坂野 潤治	美瑛町字莫別小長	十勝造形サークル	下坂 正之	広尾町豊似中長
旭川市教育研究会 図工美術部会	森 清行	旭川市神居東中	帯広市教育研究会 図工美術部会	梅津 美香	帯広市第五中
留萌地方 美術教育研究会	斉藤 友昭	留萌市緑丘小頭	釧路造形教育研究会	葛西 新吾	釧路市共栄中
渡島美術教育研究会	水口 司	七飯町大中山中	オホーツク 造形教育連盟	阿部 賢一	網走市南小長
函館市美術教育研究会	鈴木 秀明	函館市湯川小	根室造形教育連盟	大井誠一郎	標津町北標津小中長

北海道造形教育連盟顧問

氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区
秋山 修世	函館市	金谷 彊	函館市	多田 紘一	札幌市	宮川 誠一	札幌市
石井 久	函館市	上條 雄也	旭川市	谷 勲	札幌市	宗廣 義彦	南幌町
石崎 義政	室蘭市	川島 信也	旭川市	田邊 康夫	函館市	村瀬 千樫	札幌市
石塚 潔	登別市	小杉 信雄	旭川市	種市誠次郎	札幌市	森川 昭夫	札幌市
伊藤 恵	札幌市	佐藤 潔	釧路市	寺本 吉明	芽室町	柳原 寿夫	旭川市
伊藤 英明	函館市	佐藤吉五郎	札幌市	出村 保	留萌市	山宮 喬也	北見市
伊藤 善彬	札幌市	重山 恵	旭川市	出村 英和	音更町	吉田 倭雄	札幌市
一ノ戸信雄	札幌市	庄 栄一	札幌市	鍋谷 尊之	岩見沢市	米谷 哲夫	札幌市
稲船 正男	釧路市	白井 罔毅	札幌市	長谷川 傳	札幌市	和田 弘	北広島市
遠藤 久男	札幌市	須貝 徹	遠軽町	畠山三代喜	札幌市		
遠藤 満男	苫小牧市	諏訪 英雄	登別市	早弓 弘行	滝川市		
奥野 郁男	札幌市	関 建治	恵庭市	船着 昭弘	札幌市		
鹿嶋 健	札幌市	高橋 栄吉	札幌市	松嶋 輝男	札幌市		
加藤 彬	函館市	高橋 鏝治	留萌市	三浦 敏勝	函館市		
金井 秀男	札幌市	滝村 虎雄	函館市	三谷 哲司	札幌市		

*北海道造形教育連盟

事務局 ☎004-0032 札幌市厚別区上野幌2条5丁目5番1号

札幌市立上野幌東小学校 (TEL 011-893-5055 FAX 011-893-3537)

事務局長 藤 井 正 治

平成13年度 地区サークル役員名簿

北海道造形教育連盟

札幌造形教育連盟 (51) 北道連を除く		
委員長	窪田 恵子	三角山小長
副委員長	佐藤 靖	栄南小頭
"	三輪 望	新陵中長
"	近藤 暢男	新川高頭
事務局長	川島 正夫	南の沢小
研究部長	野切 卓	教育大札幌附属小
会計部長	氏家 珠実	西 小
広報活動部長	八田 博之	発寒小
研修活動部長	櫻田 悟	幌西小
庶務活動部長	谷山 圭子	白楊小
幼稚園組織プロジェクト	篠原 寛	福井野小
事務局	札幌市立南の沢小学校…川島正夫	
005-0823	札幌市南区南沢3条2丁目18-1 011-571-1096	

旭川市教育研究会図工美術部会 (92)		
部長	森 清行	神居東中
副部長	渡邊 盛二	富沢小
"	品田 潤	啓北中
事務局長	菅原 良和	豊岡小
研究部長	川原 潤	光陽中
事業部長	宮寄 智	六合中
研修部長	渡辺 万紀	東明中
編集部長	森 洋	東陽中
顧問	(山理利春・氏家貞・築山尚明・鳥本捷夫・及川輝夫)	
特別委員	(加藤 隆)	
連絡先	旭川市立神居東中学校…森 清行	
070-8014	旭川市神居4条19丁目 0166-61-8298	

空知美術教育研究会 (70)		
会長	内田 暢一	美唄中央小長
副会長	佐藤 正幸	南幌町南幌中長
"	枝広 健二	浦臼町浦臼小長
"	上杉真智子	上砂川町中央小
"	鎌田 俊博	美唄中
事務局長	廣川 徹	奈井江小
次長	桔梗智恵美	深川小
会計	太田真由美	滝川市開西中
総務部長	館山 唯郎	赤平市中央中
研究部長	乙丸 聡史	岩見沢明成中
事業部長	富石 由華	岩見沢市上幌向中
広報部長	熊本有未代	赤平中
監査委員	渡辺 貞之	空美研OB
"	佐藤 祈	三笠幾生中
"	大林 誠	芦別中
事務局	奈井江町立奈井江小学校…廣川 徹	
073-0313	奈井江町字奈井江162 0125-65-2108	

渡島美術教育研究会 (38)		
会長	石原 佑一	八雲町八雲中長
副会長	橋本 紀勝	知内町湯ノ里小長
"	藤澤 建二	八雲町春日小長
総務	大島 道夫	七飯町大沼小頭
"	黒田 雅世	恵山町古武井小頭
"	竹内 良容	福島町福島小頭
"	細川敬太郎	戸井町日新小頭
幹事長	水口 司	七飯町大中山中
副幹事長	大場 育夫	七飯町七重小
会計	高橋 孝子	七飯町藤城小
研究部長	横井 真	七飯町七飯中
事業部長	安達 孝義	七飯町大中山小
庶務部長	岡島 俊	森町森中
監査	辻口 喜廣	長万部町静狩小頭
"	中村 吉秀	森町尾白内小頭
事務局	七飯町立大中山中学校…水口 司	
041-1121	七飯町大中山291-1 0138-65-2221	

石狩造形教育連盟 (68)		
委員長	吉田 英夫	千歳市青葉中長
副委員長	土井 勝典	千歳市東小長
副委員長	桑田 正博	恵庭市恵明中頭
事務局長	墓田 充泰	北広島市大曲中頭
次長	豊田 治子	恵庭市和光小
研究部長	山崎 正明	北広島市大曲中
組織部長	養島 裕二	恵庭市和光小
事業部長	西村 司	千歳市北斗中
広報部長	工藤 雅人	北広島市大曲中
監査	林 憲一	江別市野幌小長
"	住友 俊郎	当別町弁華別中
事務局	北広島市大曲中学校…墓田充泰	
061-1271	北広島市大曲中央2-4-1 011-376-2354	

留萌地方美術教育研究会 (30)		
会長	織田 達史	留萌市緑丘小長
副会長	原田 菊枝	留萌市港南中
"	伝法谷 巖	増毛町阿分小長
事務局長	斉藤 友昭	留萌市緑丘小頭
次長	工藤 臣	留萌市留萌中
会計	三上 香	留萌市留萌小
研究部長	塩田 晃	留萌市礼受小
事業部長	酒井 典子	留萌市北光中
監査	上坪 敏	小平町小平小長
"	池田 忠喜	初山別村初山別小頭
事務局	留萌市立緑丘小学校…斉藤友昭	
070-024	留萌市千鳥町3 0164-42-1294	

後志教育研究会図工美術部会		
代表	竹生 元	小樽市忍路中央小
連絡先	小樽市立忍路中央小学校…竹生 元	
048-2561	小樽市忍路1丁目171 0134-64-2301	

函館市美術教育研究会 (39)		
会長	繪面 和子	大森小長
副会長	藤川 潔	鱒川小中長
"	近藤 貢	銭亀沢中長
"	武田 誠	北日吉小頭
"	東堂 亮之	弥生小頭
幹事長(小)	鈴木 秀明	湯川小
(中)	横岸澤英二	港 中
研究部長	瀧本 伸幸	旭岡小
"	仲井 靖典	潮見中
事業部長	高石 悦郎	青柳小
"	木村 伸仁	旭岡中
庶務部長	高橋 喜子	北昭和小
"	三谷 龍司	戸倉中
経理部長	角谷 聖子	駒場小
"	岩館こずえ	大川中
事務局	函館市立湯川小学校…鈴木秀明	
042-0932	函館市湯川3丁目42-1 0138-57-1759	

上川造形教育研究会 (41)		
会長	及川 輝夫	東鷹栖中長
副会長	坂野 潤治	宇莫別小長
"	谷口 薫	上士別小頭
"	菅原 敏光	音威子府小頭
"	川合 薫	落合小中頭
事務局長	鈴木 敏春	東川中
次長	吉野 法行	上川中
"	板東 総子	和寒小
"	中井 一夫	東神楽中
研究部長	中島 圭介	布礼別中
連絡先	美瑛町立宇莫別小…坂野潤治	
071-0228	美瑛町中宇莫別第2 0166-92-3715	

帯広市教育研究会図工美術部会 (79)

部長 海富 隆 緑園中
 副部長 山口 雅子 明和小
 事務局長 梅津 美香 帯広第五中
 次長 上山 映子 西陵中
 局員 梅津 和行 稲田小
 " 佐々木 忍 明和小
 " 佐々木智穂 啓北小
 " 高島真知子 明星小
 " 澤田 佳子 帯広第一中
 " 神 史明 帯広第四中
 " 奥村美智子 帯広第五中
 " 緒方 夕子 森の里小
 " 奥野 淳一 帯広第七中
 " 佐々木芳徳 南町中
 事務局 帯広市立第五中学校…梅津 美香
 080-0029 帯広市西16条南4丁目29 0155-34-5710

オホーツク造形教育連盟 (19)

委員長 阿部 賢一 網走南小長
 副委員長 荒井 孝範 清里町光岳小長
 " 花田 光正 佐呂間町栄小長
 事務局長 光岡 光彦 網走市南小頭
 次長 里見 貴史 女満別大成小
 会計 野川 真妃 北見市高栄中
 研修部長 石橋 一郎 網走東小頭
 副部長 添田 好美 北見緑小
 組織部長 久住呂志奈子 網走市第五中
 副部長 宮武喜美子 網走市中央小
 広報部長 平岡 良一 上湧別町上湧別中
 副部長 佐々木真穂 雄武町豊丘小
 理事 神田 国昭 美幌町美幌小頭
 " 大野 忠宏 佐呂間町佐呂間中
 " 伊藤 公美 興部町興部中
 監査 進 敬 北見市上常呂中長
 " 青木 修 丸瀬布町丸瀬布中長
 連絡先 網走市立南小学校…阿部 賢一
 099-3119 網走市鱒浦79 0152-43-3398

釧路造形教育研究会 (36)

会長 中島 郁子 釧路市光陽小長
 副会長 宝輪 勝巳 釧路市昭和小長
 " 奥田 泰朗 浜中町霧多布中頭
 " 森 富輝 釧路市鳥取中頭
 事務局長 葛西 新吾 釧路市共栄中
 次長 高橋 潤 釧路市大楽毛中
 局員 中島 健朗 教育大釧路附属小
 " 古川 史実 釧路市東中
 会計 花輪 大輔 釧路市鳥取中
 監事 中村 紀雄
 " 中島 欣也
 " 渋谷 弘志 釧路市緑陵中長
 事務局 釧路市立共栄中学校…葛西新吾
 085-0038 釧路市花園町9-40 0154-23-1691

根室造形教育連盟 (17)

委員長 煤賀 克文 根室市共和小長
 事務局長 大井誠一郎 標津町北標津小中長
 次長 吉田久美子 中標津東小
 研究部長 大溝 雅之 標津町古多糠中
 副部長 小出 秀明 根室市啓雲中
 会計監査 小出 真妃 羅臼町春松小
 事務局 標津町立北標津小中学校…大井誠一郎
 086-1451 標津町川北北8線西28 01538-5-2426

檜山管内造形教育研究会(17)

会長 若竹 隆邦 熊石町雲石小長
 副会長 田中 俊一 今金町今金中長
 事務局長 谷口 光伸 乙部町乙部小
 次長 日角 朱実 江差町日明中
 研究部長 野呂 憲一 今金町今金中頭
 事業部長 茶碗谷 稔 大成町久遠小頭
 幹事 村国 壽英 厚沢部町滝野小頭
 " 山谷 佳公 奥尻町宮津小頭
 " 鈴木 修一 今金町今金小頭
 連絡先 熊石町立雲石小校長…若竹隆邦
 043-0416 熊石町雲石744 01398-2-3387

室蘭造形教育研究会 (15)

代表 北村 哲朗 武揚小
 加藤智佳子 高平小 高橋 原子 大和小
 岡本 宣子 高平小 湊 千恵子 水元小
 大野 達也 陣屋小 吉田 佳子 中島小
 登坂 千賀 八丁平小
 高倉かおり 八丁平小
 長谷川英二 北辰中 矢元 政行 室蘭中頭
 山本 弘司 北辰中 佐藤 光雄 御前水中頭
 佐藤 宏茂 鶴崎中
 黒田 孝 東明中
 連絡先 室蘭市立武揚小学校…北村哲朗
 051-0014 室蘭市栄町2丁目3-3 0143-22-1788

胆振造形教育研究会 (38)

会長 長谷川英二 室蘭市北辰中長
 副会長 渡辺 輝夫 早来町遠浅小長
 " 矢元 政行 室蘭市室蘭中頭
 " 佐藤 務 豊浦町豊浦中頭
 " 佐藤 光雄 室蘭市御前水中頭
 監査 佐藤 輝彦 登別市登別小長
 事務局長 大野 達也 室蘭市陣屋小
 理事 北村 哲朗 室蘭市武揚小
 " 常磐 欣也 社警町社警中
 " 森 康博 苫小牧市東中
 " 玉田 博 厚真町厚真中央小
 事務局 室蘭市立陣屋小学校…大野達也
 050-0067 室蘭市陣屋町3丁目18-18 0143-59-4675

苫小牧市教育研究会造形研究部会(68)

部会長 佐藤 公毅 凌雲中
 副会長 吉田 隆一 泉野小
 理事 川口 洋司 緑 小
 理事 遠藤 秀三 明倫中
 会計 吉田とし子 沼ノ端中
 幹事長 宮下 肇彰 緑 小
 連絡先 苫小牧市立凌雲中学校…佐藤公毅
 059-1263 苫小牧市青雲町2-15-3 0144-67-6142

十勝造形サークル(27)

会長 下坂 正之 広尾町豊似中長
 副会長 根岸 邦昌 芽室町芽室西中
 事務局長 小泉 佳一 浦幌町浦幌中
 次長 鎌田真奈美 足寄町足寄中
 連絡先 広尾町立豊似中学校 下坂 正之
 089-2446 広尾郡広尾町紋別18-52 01558-5-2174

第54回全国造形教育研究大会北海道大会 in 札幌
第51回北海道造形教育研究大会

組
織

大会長 芝木 秀昭
札幌市立幌南小学校長
北海道造形教育連盟委員長

実行委員会										
運営委員 会長	窪田 恵子	札幌市三角山小長	斉藤 隆博	池田町池田中長	藤井 正治	札幌市上野幌東小長	藤原 寛	札幌市福井野小	岩田 守代	札幌市明園小
運営委員 副会長	江川 佳徳	札幌市札幌中長	吉田 英夫	千歳市青葉中長	芝木 捷子	札幌なかのしま幼長	藤原 典史	札幌市前田北中	奈良岡 学	札幌市札苗北小
運営委員 委員	榎面 和子	函館市大森小長	長谷川 英二	室蘭市北辰中長	佐藤 靖	札幌市栄南小頭	藤原 尚	札幌市屯田中央中	岩田 敏光	札幌市真栄中
運営委員 委員	及川 輝夫	旭川市東鷹栖中長	北村 哲朗	室蘭市武揚小	三輪 望	札幌市新陵中長	藤原 尚	札幌市米里中		
運営委員 委員	桑田 正博	恵庭市恵明中頭	佐藤 公毅	苫小牧市凌雲中長	櫻田 豊	札幌市北園小	藤原 尚	札幌市福井野小		
運営委員 委員	佐藤 元	南幌町南幌中長	下坂 正之	広尾町豊似中長	板木 武	札幌市もみじ台南小長	藤原 尚	札幌市前田北中		
運営委員 委員	竹生 潤治	小樽市忍路中央小	山口 雅子	帯広市明和小	角力山 旭	札幌市常磐中長	藤原 尚	札幌市屯田中央中		
運営委員 委員	坂野 潤	美瑛町宇莫別小長	中島 郁子	釧路市光陽小長	石川 雅昭	札幌東海第四高	藤原 尚	札幌市米里中		
運営委員 委員	川原 達史	旭川市光陽中	花田 克文	佐呂間町栄和小長	益村 豊	札幌市真駒内緑小	藤原 尚	札幌市福井野小		
運営委員 委員	織田 佑一	留萌市緑丘小長	煤賀 内田 暢一	根室市共和小長	谷山 圭子	札幌市白楊小	藤原 尚	札幌市福井野小		
運営委員 委員	石原 潔	八雲町八雲中長			今谷 孝	札幌市平和小	藤原 尚	札幌市福井野小		
運営委員 委員	藤川 俊一	函館市鱒川小長			氏家 珠実	札幌市西小	藤原 尚	札幌市福井野小		
運営委員 委員	田中 若竹	今金町今金中長			斎藤 三佳	札幌市白楊幼	藤原 尚	札幌市福井野小		
運営委員 委員	若竹 隆邦	熊石町雲石小長			高向 修子	札幌市中央小	藤原 尚	札幌市福井野小		
監督 顧問	高橋 栄吉	道志連 六代委員長	金井 秀男	道志連 十三代委員長	阿部 俊樹	札幌市八軒西小	藤原 尚	札幌市福井野小		
監督 顧問	遠藤 久男	道志連 八代	鹿嶋 健	道志連 十四代	赤石 芳郎	札幌市手稲中央小	藤原 尚	札幌市福井野小		
監督 顧問	権市誠次郎	道志連 九代	船着 昭弘	道志連 十五代	伊藤 武司	札幌市すみかわ南幼長	藤原 尚	札幌市福井野小		
監督 顧問	森川 昭夫	道志連 十代	白井 俊雄	道志連 十六代	廣瀬 恵子	札幌市屯田西小長	藤原 尚	札幌市福井野小		
監督 顧問	松嶋 輝男	道志連 十一代	吉田 俊雄	道志連 十七代		札幌市苗穂小頭	藤原 尚	札幌市福井野小		
研究 局	川島 正夫	札幌市南の沢小			富田 泰	札幌市八軒小長	藤原 尚	札幌市福井野小		
研究 局	高橋久美子	札幌市宮の森中			今 裕子	札幌市豊水小頭	藤原 尚	札幌市福井野小		
研究 局	野切 卓	教育大札幌附属小			植木 則子	札幌市平岸小	藤原 尚	札幌市福井野小		
研究 局	山 薫	札幌市澄川南小			古谷 壽朗	札幌市屯田西小	藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	柏木 順	札幌市たいへいのみみ幼	茂泉 亜希子	札幌なかのしま幼	細川 依子	札幌市丘珠幼	藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	藤原 朋美	札幌なかのしま幼	小野 旬子	札幌なかのしま幼	池田 悦子	札幌市円山小	藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	細野 志織	札幌なかのしま幼	横山 美恵	札幌なかのしま幼	山室 ゆかり	札幌市西岡南小	藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	関口 真美	札幌なかのしま幼	鳥羽 和美	札幌なかのしま幼	久保 ふじ子	札幌市札苗緑小	藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	中本 真美子	札幌市大地太陽幼	平間 直樹	札幌なかのしま幼	富所 玲	札幌市南小	藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	斎藤 三佳	札幌市白楊幼					藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	森 美由紀	札幌市いなづみ幼					藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	田中 かのる	札幌市美しが丘緑小					藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	小林 充裕	札幌市円山小					藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	湯浅 大吾	札幌市新陽小					藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	八田 博之	札幌市免寒小					藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長	能登谷 治恵	札幌市幌南小					藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長		札幌市新陽小					藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長		札幌市山鼻南小					藤原 尚	札幌市福井野小		
幼稚園 園長		札幌市西白小					藤原 尚	札幌市福井野小		

木戸久美子	札幌市東園小	太田寿栄子	札幌市東園小	札幌市大谷地東小
押田 一郎	札幌市西野第二小	大村 惠一	札幌市西野第二小	札幌市西野第二小
佐々木 一次	札幌市栄西小	池田 武彦	札幌市月寒小	札幌市栄西小
山田 宏司	札幌市北白石小	三井 哲	札幌市本通小	札幌市北白石小
北川 珠実	札幌市東栄中	佐良 恭子	札幌市澄川南小	札幌市東栄中
六本木 祐司	札幌市栄南中	梅野 隆	札幌市共栄小	札幌市栄南中
金子 睦	札幌市藤野中	澤波 隆信	札幌市前田中央小	札幌市藤野中
木原 英俊	札幌市真栄中	堀田 珠希	札幌市北野小	札幌市真栄中
棚田 裕美	札幌真駒内養護	平松美恵子	札幌市南月寒小	札幌真駒内養護
小柳 雄嗣	札幌市手稲東小	南 かおる	札幌なかのしま幼	札幌市手稲東小
中尾 孝典	札幌市東月寒中長	花田 正雄	札幌市藤野南小	札幌市東月寒中長
局 顧問				
広 報 局				
局長 土肥 宏充 札幌市清田南小				
研究紀要部長 加藤 正幸 札幌市新川中央小				
実践事例部長 東 尚典 札幌市大谷地東小				
研究収録部長 小泉 誠 札幌市東光小				
P R 部長 小林 知広 札幌市手稲鉄北小				
局 員 水吐千穂子 札幌市光陽小				
岩崎 重明 札幌市西岡小				
石垣あけみ 札幌市桑園小				
宮田 珠世 札幌市新川中央小				
築地 政樹 札幌市宮の丘中				
ホッカカネン弘美 札幌市平岡中				
局 顧問 毛馬内國夫 札幌市琴似小頭				
イベント 局				
局長 阿部 時彦 札幌市中央中				
講演会部長 中尾 正光 札幌市月寒東小				
ワークショップ部長 田口 和男 札幌市白石小				
局 員 加藤 雅子 札幌市開成小				
隈本 一哉 札幌市東苗穂小				
田辺 詩恵 札幌市手稲東小				
八子 正人 札幌市発寒中				
山内 啓嗣 札幌市光陽中				
青山 秀樹 札幌市手稲中				

渡辺 貞之	空知美研	福島由紀子	札幌市桑園小	札幌市大谷地東小
里見 貴史	女満別町大成小	藤島 裕二	恵庭市和光小	札幌市西野第二小
中澤 孝仁	滝川市東小	蘆本 伸幸	函館市旭岡小	札幌市栄西小
宮武喜美子	網走市中央小	富樫 信博	札幌市真駒内南小	札幌市東栄中
櫻田 悟	札幌市幌西小	豊田 治子	恵庭市和光小	札幌市東栄中
豊田 ゆき	札幌市あいの里東中	菅原 良和	旭川市豊岡小	札幌市東栄中
宮崎 亨	札幌市柏丘中	毛利 聡	札幌市藻岩南小	札幌市東栄中
中川原信生	札幌市札幌北中	堀口 基一	札幌市三角山小	札幌市東栄中
川原 潤	旭川市光陽中	岡澤 邦彦	札幌市前田中	札幌市東栄中
横岸澤英二	函館市港中	椿野 衣江	札幌市新陵中	札幌市東栄中
安田 仁昭	札幌市西岡北中	小澤 香子	札幌市山鼻中	札幌市東栄中
寺田 実	札幌市柏中	西川紫菜子	札幌市北都中	札幌市東栄中
本庄 隆志	札幌南陵高	白崎 博	札幌市東栄中	札幌市東栄中
坂東 宏哉	札幌手稲高	平野まなみ	札幌市東栄中	札幌市東栄中
平田 昌也	音威子府村音威子府高	山崎 正明	札幌市北都中	札幌市東栄中
鉢呂 彰敏	札幌市平岸高	小野 泰裕	札幌市東栄中	札幌市東栄中
小林万咲彦	札幌市石山南小	小出 倫生	札幌市東栄中	札幌市東栄中
伊藤 武司	札幌市屯田西小長	石川 早苗	札幌市手稲中	札幌市東栄中
繪面 和子	函館市大森小長	大高 雅子	札幌市平岡緑中	札幌市東栄中
角力山 旭	札幌市常磐中長	水野 一英	教育大札幌附属中	札幌市東栄中
三輪 望	札幌市新陵中長	澤田 範明	札幌市清田高	札幌市東栄中
近藤 暢男	札幌市新川高頭	松井 茂樹	札幌月寒高	札幌市東栄中
伊藤 隆	札幌市音威子府高	本田 勝哉	札幌丘珠高	札幌市東栄中
吉岡 隆	札幌市開成高	吉岡 隆	札幌市新川高	札幌市東栄中
齋藤 周	札幌市開成高	石川 雅昭	札幌市開成高	札幌市東栄中
石川 雅昭	札幌市開成高	石谷 正美	札幌市開成高	札幌市東栄中
石谷 正美	札幌市開成高	板田 恭佑	札幌市開成高	札幌市東栄中
板田 恭佑	札幌市開成高	伊藤 善彬	札幌市開成高	札幌市東栄中
伊藤 善彬	札幌市開成高	内田 暢一郎	札幌市開成高	札幌市東栄中
内田 暢一郎	札幌市開成高	石橋 尚明	札幌市開成高	札幌市東栄中
石橋 尚明	札幌市開成高	築山 英夫	札幌市開成高	札幌市東栄中
築山 英夫	札幌市開成高	吉田 英夫	札幌市開成高	札幌市東栄中

香代 京子	西村 稲川	養護教諭	養護教諭	札幌市立三角山小学校
順子	寺澤 伊丹	事務職員	事務職員	札幌市立三角山小学校
好子	朴澤 伊丹	調理	調理	札幌市立三角山小学校
詠子	伊藤 美奈子	用務員	用務員	札幌市立三角山小学校
昭子	堀 中島	校務助手	校務助手	札幌市立三角山小学校
淳子	中村 高美	校長	校長	札幌市立三角山小学校
美子	久保 小川	教諭	教諭	札幌市立三角山小学校
洋一	佐藤 秀彦	教諭	教諭	札幌市立三角山小学校
浩子	佐藤 秀彦	教諭	教諭	札幌市立三角山小学校
恵子	佐藤 秀彦	教諭	教諭	札幌市立三角山小学校
香代 京子	西村 稲川	養護教諭	養護教諭	札幌市立三角山小学校
順子	寺澤 伊丹	事務職員	事務職員	札幌市立三角山小学校
好子	朴澤 伊丹	調理	調理	札幌市立三角山小学校
詠子	伊藤 美奈子	用務員	用務員	札幌市立三角山小学校
昭子	堀 中島	校務助手	校務助手	札幌市立三角山小学校
淳子	中村 高美	校長	校長	札幌市立三角山小学校
美子	久保 小川	教諭	教諭	札幌市立三角山小学校
洋一	佐藤 秀彦	教諭	教諭	札幌市立三角山小学校
浩子	佐藤 秀彦	教諭	教諭	札幌市立三角山小学校
恵子	佐藤 秀彦	教諭	教諭	札幌市立三角山小学校

会場校職員

芝木 長	札幌市立南小学校	芝木 長	札幌市立南小学校
芝木 南	札幌市立南小学校	芝木 南	札幌市立南小学校
南中 頭	札幌市立南小学校	南中 頭	札幌市立南小学校
阿中 任	札幌市立南小学校	阿中 任	札幌市立南小学校
谷 論	札幌市立南小学校	谷 論	札幌市立南小学校
田 論	札幌市立南小学校	田 論	札幌市立南小学校
千葉 中	札幌市立南小学校	千葉 中	札幌市立南小学校
横田 論	札幌市立南小学校	横田 論	札幌市立南小学校
小野 論	札幌市立南小学校	小野 論	札幌市立南小学校
茂泉 論	札幌市立南小学校	茂泉 論	札幌市立南小学校
関口 論	札幌市立南小学校	関口 論	札幌市立南小学校
鳥羽 論	札幌市立南小学校	鳥羽 論	札幌市立南小学校

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 広告掲載社・団体名 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

■
■
■ 全国造形教育連盟・北海道造形教育連盟 ■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■
■

東京書籍株式会社	☎011-562-5721
開隆堂出版株式会社	☎011-231-0403
サクラクレパス株式会社	☎011-563-5161
日本文教出版株式会社	☎011-764-1201
べんてる株式会社	☎03-3667-3333
和信ペイント株式会社	☎03-3942-9111
ターナー色彩株式会社	☎06-6308-1212
家の光協会文化センター	☎03-3266-9037
美術出版社サービスセンター	☎03-3260-2388
株式会社 バジコ	☎03-3710-3011
株式会社北海教育評論社	☎011-785-3231
小南印刷株式会社	☎011-641-5373



第54回全国造形教育研究大会北海道大会in札幌
第51回全道造形教育研究大会

最新

リサイクル工作図鑑



改訂版

黒須和清著

●A5判/200頁
本体1600円(税別)

発泡スチロールの皿、ペットボトル、
カップラーメンの容器など、廃材や身
近にある材料素材を利用した楽しいお
もちゃ工作を満載。材料費はほとんど
0円。環境にやさしいおもちゃづくり。

イタリア・ルネサンスの巨匠たち

全30巻

●A4変型判/並製/カバー付
各巻80頁/オールカラー

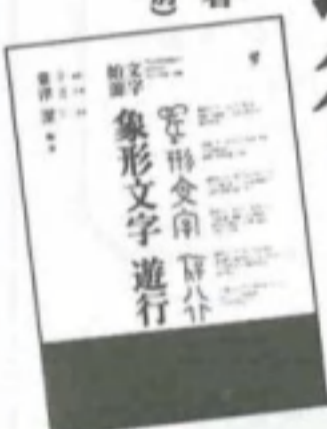
- 1 チマブーエ 2 ジョット 3 マザッチョ 4 ドゥッチョ 5 シ
- モーネ・マルティニ 6 ロレンツエッティロ 7 フルネレスキ
- 8 ドナテッロ 9 ルカ・デッラ・ロッチャとその一族 10 フラ・ア
- ンジェリコ 11 パオロ・ウッチェロ、ドメニコ・ヴェネツィアーノ、
- アンドレア・デル・カスターニョ 12 ペノツツォ・ゴツツオリ 13
- フィリッポ・リッピ 14 ポッティチエリ 15 ドメニコ・ギルラン
- ダ イオビエロ・デッラ・フランチェスカ 17 マンテーニャ 18 レオ
- ナルド・ダ・ヴィンチ 19 シニョレッリ 20 ラファエロ 21 ポント
- ルモ、ロツォ・フィオレンティーノ 22 ジョヴァンニ・ペッリーニ
- 23 カルパッチョ 24 ティツィアーノ 25 ミケランジェロ 26 アンド
- レア・デル・サルト 27 チェリーニ 28 コレージュ 29 カラヴァッ
- ジョ 30 ベルニーニ

人類史上もっとも豊かな時代、ル
ネサンス期を築いた芸術家たち
の生涯と全作品。初めて日本に紹
介される作品図版も多数収録。新
進の研究者による、新しい美術シ
リーズ。

文字
始源 象形文字遊行

現代美術・デザインにも共通する古
代表象形文字に魅せられた日本を代表
するグラフィックデザイナーの文字
と形の文化史。甲骨・金文を中心と
した古代象形文字辞典収録。

栗津 潔 編著
●A5判/192頁
本体2800円(税別)



授業に役立つ資料を満載!

東書Eネット

Tosho Educational Network

東書Eネットは、これからの社会および教育界
におけるネットワーク環境の大きな変化に対応
して、インターネットを通じて学校現場への資
料提供や情報交流活動を行うネットワークです。



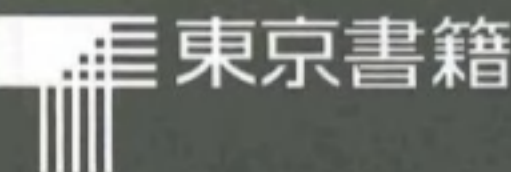
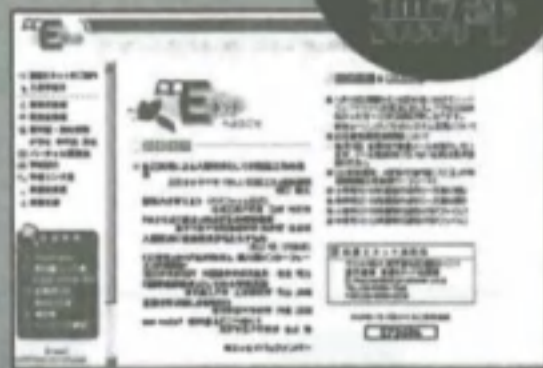
東書Eネットへの入会・照会

URL: <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

E-mail: net@tokyo-shoseki.co.jp

●申込書が必要な場合は、こちらへご連絡下さい。

(東書Eネット事務局) 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 東京書籍(株)
TEL.03-5390-7546 FAX.03-5390-6016



北海道支社: 〒064-0806 札幌市中央区南6条西14-1-5 札幌東書ビル TEL.011-562-5721 FAX.011-562-5492
函館出張所: 〒041-0813 函館市亀田本町13-10 TEL.0138-43-1764 FAX.0138-43-1798
道東出張所: 〒085-0054 釧路市映町1-2 セブンビル TEL.0154-25-1318 FAX.0154-25-0663
東京書籍ホームページ: <http://www.tokyo-shoseki.co.jp>

祝

第54回 全国造形教育研究会 北海道大会 in 札幌

第51回 全道造形教育研究大会

図画工作科から「総合的な学習の時間」への提案

図画工作科

新刊

総合的な扱いの活動事例集

◆低学年◆中学年◆高学年①◆高学年②

全4巻/A4判/64~80ページ/カラー
各巻定価 2,100円(本体 2,000円)

- 「総合的な学習の時間」に対応した教科横断的、課題追求的、体験的・総合的な造形表現活動を掲載しています。
- 題材ごとにオールカラー4ページを使い写真を多く掲載した、ビジュアル的な誌面構成で各巻16~21題材を収録しています。
- 「総合的な扱い」の観点でまとめることのできる題材を实践された全国の先生方からご提供いただきました。これから始めようとする先生方の手助けとなる題材集です。

「総合的な学習の時間」とリンクした新しいビデオシリーズ

新図画工作ビデオシリーズ

全2巻 各巻VHS約20分 指導の手引き付き
各巻定価9,900円(本体9,429円)

美術館へ行こう

- ふだんは見られない美術館の舞台裏を子どもたちの視点で探検し、美術館をさまざまな角度から楽しむことができます。
- 同じ作品を見ても一人ひとり感じ方が違うことに気付かせる構成です。

色はふしぎ

- 身近な生活の中にある「色」に焦点をあて、気付かせる内容です。自分で発見した「色」を身近な描画材で再現するヒントを見せます。
- 「色」の指導を授業で生かす楽しいアイデアを提供します。

はじめてのCG入門ソフト レタッチ、ペイント、アニメーションCGの機能をかんたん理解!

やってみようCG ~ コンピュータで描くテクニックの基礎

新刊

CD-ROM 1枚 Windows Me/98/95 対応
教師用説明書付き 定価8,400円(本体8,000円)
生徒用追加CD-ROM 定価7,350円(本体7,000円)

- コンピュータでできる機能(レタッチ、ペイント、アニメーション)についてさまざまな角度から解説します。
- これから授業にコンピュータグラフィックを取り入れてみたい学校には小学校・中学校に関わらず特にお薦めします。
- 本ソフトは大きく分けて右の3つの内容で構成しています。そのなかでそれぞれ「レタッチ」「ペイント」「アニメーション」について解説し、体験できます。

◇コンピュータの機能を知ろう!

コンピュータを使ってできるグラフィック表現のうち、レタッチ、ペイント、アニメーションについてそれぞれ代表的なテクニックを実例を見ながら紹介します。

◇どうやって作ったの?

実際にコンピュータを使って描かれた作品を題材に、それらが作られる過程を見ていきます。具体的な表現方法を知ることによって、表現意欲を高めます。

◇作ってみよう!

用意された素材を使って簡単なグラフィック表現を楽しむことができます。レタッチ、ペイント、アニメーションについてそれぞれ数種類の素材を用意しました。



開隆堂出版株式会社

ホームページでもご注文頂けます。 <http://www.kairyudo.co.jp>

本社 〒113-8606 東京都文京区向丘1-13-1 TEL03-5684-6118 FAX03-5684-6155
北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西六丁目 札幌北辰ビル8階
TEL011-231-0403 FAX011-231-0404

「サクラマット水彩」

安心して使いやすい

ラミネートチューブ入り絵の具です。



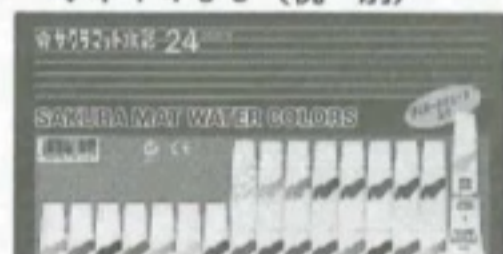
サクラマット水彩15色
ラミネートチューブ入り
▼¥850(税別)



サクラマット水彩18色
ラミネートチューブ入り
▼¥1000(税別)



サクラマット水彩24色
ラミネートチューブ入り
▼¥1400(税別)



他にも、サクラマット水彩12色
ラミネートチューブ入り¥600(税別)
サクラマット水彩15色金銀入り
ラミネートチューブ入り¥950(税別)
があります。

- 開けやすい キヤップが大きいのであけやすくなりました。
- 破れにくい アルミを樹脂でサンドイッチしているので、とても丈夫です。
- 絞り出しやすい 適度に柔らかいので絞り出しやすくなりました。

祝 第54回 全国造形教育研究大会 北海道大会in札幌 第51回 全道造形教育研究大会/2001



▲お得な600mlポリビン容器入りです。



▲小分けしやすい200mlポリチューブ入りです。

▼そのまま使える200mlポリビン容器入りです。



もっとカラフルに38色

ニューサクラカラー

ペットボトルや牛乳パックなど
いろいろなモノに描けます!

ニューサクラカラーは、造形遊び・学校行事に適した耐水性のポスターカラーです。



▲小分けしやすい420mlポリチューブ入りです。

- アクリル系樹脂を配合しているため、水で溶かして使え、乾くと耐水性になります。
 - 接着力が強く木・布・金属・プラスチックなど幅広い対象物に使用できます。
 - 不透明で隠ぺい力が強く、乾くと美しいツヤ消し状に仕上がります。
 - お得な600ml容器入りと使いやすい小容量の200ml容器入りそして、420ml・200mlポリチューブがあります。
- | | |
|------------------------------|--------------------|
| ● 600mlタイプ (全30色) |¥1,100~¥1,500 |
| ● 200mlタイプ (全12色) |¥500~¥700 |
| ● 420mlポリチューブタイプ (全30色) |¥900 |
| ● 200mlポリチューブタイプ (金銀、蛍光・全8色) |¥1500 |
- 表示価格は税別です。

祝

第54回 全国造形教育研究大会 北海道大会 in 札幌
第51回 全道造形教育研究大会



元 子
気 ども
な も
は

知
求 人
!

日本文教出版株式会社

Japan Educational Publishing co.,ltd

本 社 / 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5 TEL06-6692-1265
東京支社 / 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16 TEL03-3389-4611
北海道出張所 / 〒001-0909 札幌市北区新琴似9条12-1-1 TEL011-764-1201
URL <http://www.nichibun-g.co.jp/>

さまざまな素材に 着色できる共同用 **耐水性** 樹脂えのぐ

省資源、
ゴミの軽量化を考えた
軽量でコンパクトな
パウチ容器

金・銀
新発売

- 水で薄めて使用できる、アクリル樹脂系不透明水彩えのぐ。
- 木、段ボール、布、発泡スチロール、石、ペットボトル、空き缶など、さまざまな素材に着色できます。
- 乾燥後は耐水性に優れています。
- 美しいマット調の仕上がりです。
- 共同製作に最適なえのぐです。

単色 普通色：全24色 各¥880
金：¥1,800
銀：¥1,600

12色セット（普通色）¥10,560

※表示価格はすべて税別です。



普通色 400ml入り 金・銀 200ml入り



耐水性アクリルえのぐ

ペンてる スクールガッシュ

Pentel

地球のため そして子供たちの未来のために

再生ポリプロピレン 100%

再生ポリエチレン 100%



100%再生材使用

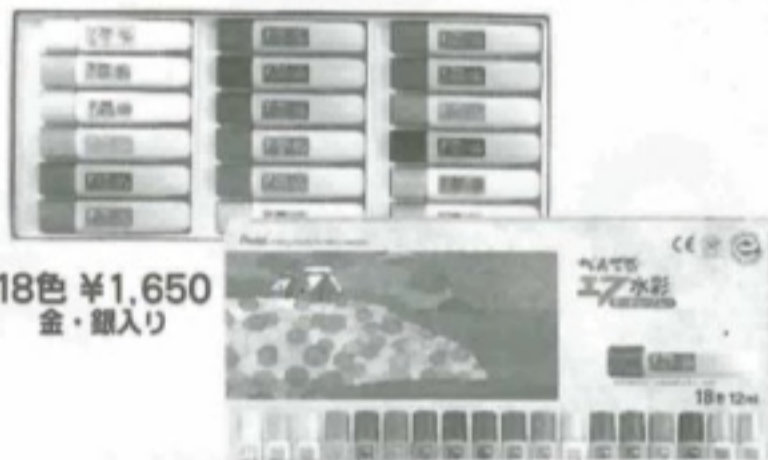
エコチューブ えのく



12色 ¥1,000



15色 ¥1,350
金・銀入り



18色 ¥1,650
金・銀入り

再生材100%仕様の、地球環境に優しいリサイクルチューブ=「エコチューブ」
力をかけずに開け閉めしやすい大型キャップ。2条ネジの採用でさらに楽々開閉。
粒子が細かく顔料が多い。だからのびがよく鮮やかな発色のエフ水彩。
わかりやすい印刷チューブ仕様。シールを貼る手間がいらず、使いやすく
いつまでもキレイ。

ぺんてる



水彩えのく

ポリチューブ入り

断然、長もち! 経済的!!

1m=20円
修正テープの常識を超えた
驚きの低コスト!

テープ距離
25m

大容量でも持ちやすい
コンパクト設計



1 残りテープが一目でわかる!
テープ残量メーター付き
(-1メモリ→約5m)

2 親指でラクラク開閉
ワンタッチスライドカバー

カバーをなくさないから
とっても便利!

3 テープのたるみ、即解決!
巻き取り
ギア付き

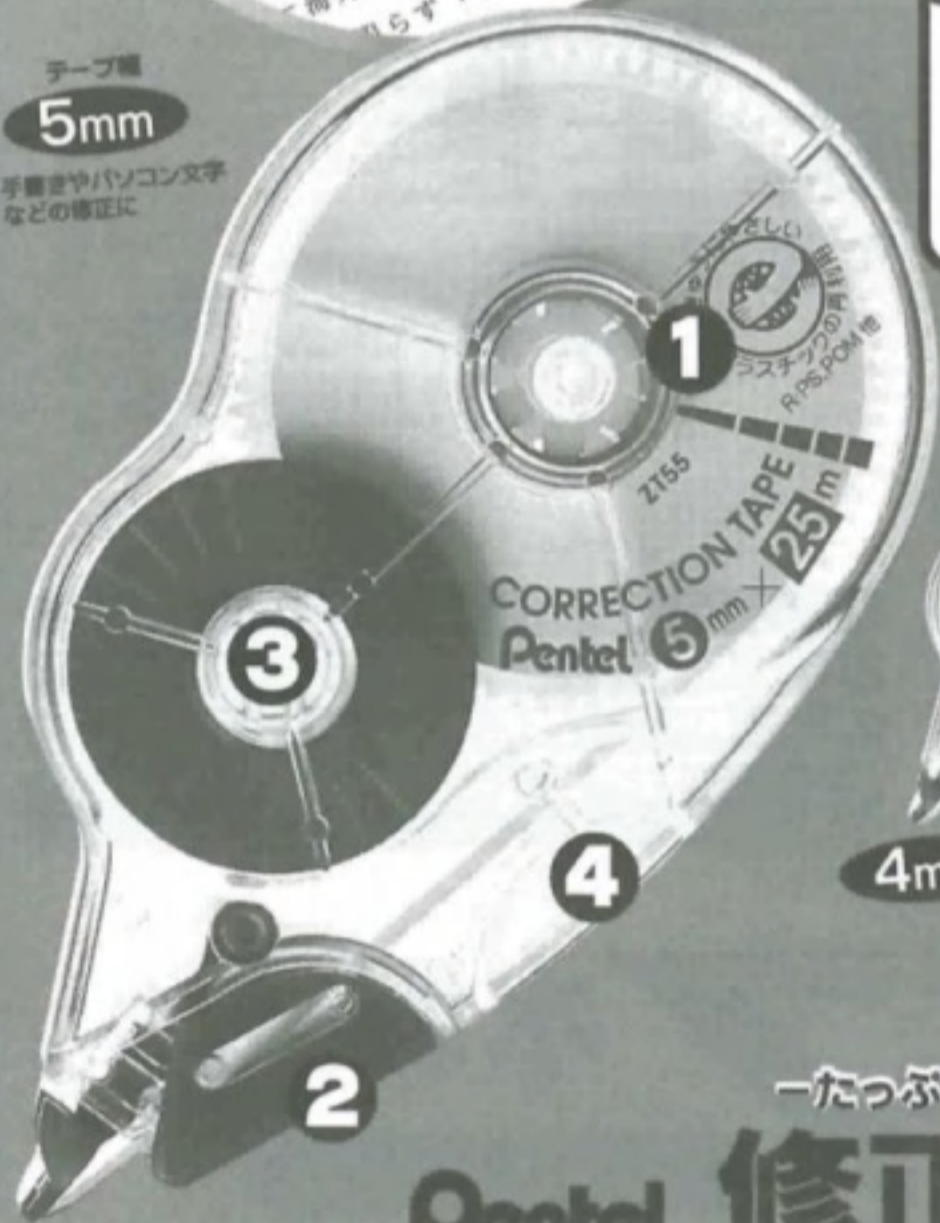
ゼムクリップなどを差し込んで
矢印の方向に回してください。

4 分別廃棄できる!

スライドカバーを外してから
底部のスリットにコインなどを
差し込んでねじると各部品
がはずれ、分別することができます。

おまかせの
リサイクル

テープ幅
5mm
手書きやパソコン文字
などの修正に



4mm 罫線や、手帳など
細かい文字の修正に

6mm 大文字の修正や
マスキングに

1コ ¥500 (税別)

—たっぷり使えて、断然おトク!—

Pentel. **修正テープ 25m**

ペンてる株式会社 〒110-8534 東京都中央区日本橋小網町7-2 電話(03)5571-2335 (大代通) www.pentel.co.jp

Pentel.

水の加減で淡彩風・ガッシュ風に、
また平滑なデザイン画用にと
さまざまなタッチが
得られます。



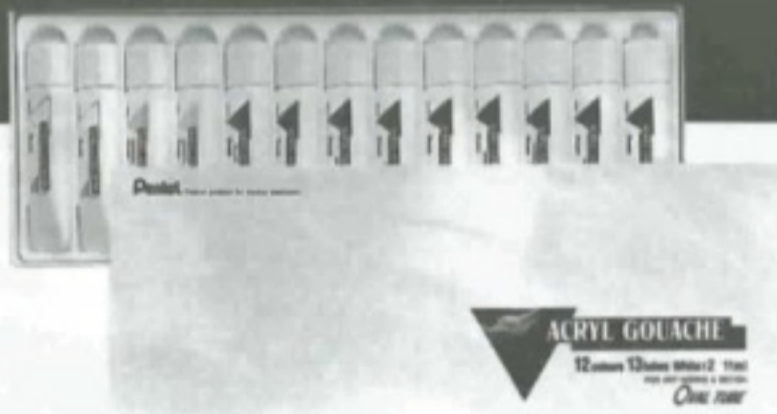
11ml入りチューブ
単色 ¥130 (税別)

オーバルチューブ採用
OVAL TUBE

ペンてるが独自に開発した、最後まで乾かぬように、乾かりにくい素材で、チューブの開閉も簡単なチューブです。

Pentelアクリルガッシュの特徴

- 紙、木材、樹脂、石材、紙粘土など、さまざまな素材に着色できます。
- 淡彩画に適し、筆跡（色ムラ）もきれいにし出すことができます。また、ポスターカラーとして各種、デザイン用途に使えます。

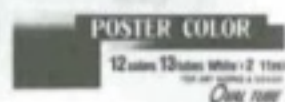


12色・13本(白2本入り) ¥1,400 (税別)
14色15本入り(白2本) ¥1,600
8色9本入り ¥1,000

アクリルガッシュ ACRYL GOUACHE



Pentel



CE

- ポスターカラー
「オーバルチューブ」
もあります。

12色・13本入り(白2本) ¥1,300 (税別)
14色15本入り(白2本) ¥1,500
8色9本入り ¥950

ペンてる株式会社 〒103-8538 東京都中央区日本橋小網町7-2 TEL 03(3667)3333(大代表)

ワシンの学校教材用塗料

健康志向塗料 Ecology-2000シリーズ

天然ワックス **木肌マモール**
KIHADA MAMÖRU



屋内素地木部用〈半ねりワックス〉

用途：木工作品、柱などの木部

特長：植物より精製したワックスと植物性油脂を主成分に作られた天然ワックス。表面のキズ、よごれなどから守る。木曽ヒノキ油によるアロマセラピーと抗菌効果。自然な光沢に仕上がる。

自然塗料 **木地マモール**
KIJI MAMÖRU



屋内素地木部用〈ホルムアルデヒド抑制ニス〉

用途：木工作品などの保護、よごれ防止

特長：天然樹脂(セラック)と精製ヒノキ油の成分により合板などから発生するホルムアルデヒドの抑制効果。木曽ヒノキ油によるアロマセラピーと抗菌効果。速乾で撥水性があり、キズ、よごれから木部を守る。

和信ペイント株式会社 東京サービスセンター 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-11-4 TEL.03(3942)9111 FAX.03(3942)9113

●学校教材用のカタログを用意しております。上記へ電話、FAX又はハガキでご請求ください。

★・アクリル 絵具
for Artist
GOLDEN
A C R Y L I C S
ゴールデンアクリックス

右も、左も、おなじ色ではもの足りない。
新、個性色。ゴールデンアクリックス

ひとりひとり違う個性を、おなじ絵具で表現しきれぬだろう。もっと、描きたいものがある。もっと、造りたいものがある。となりとおなじ絵具ではもの足りないあなたの創造力に、新・アクリル絵具、ゴールデンアクリックスを誕生。

色の伸び、発色の良さ、そして多彩なメディウム群が、アメリカのプロ達から絶賛を浴びた名品です。

◆20ml 60ml ラミネートチューブ入り全98色 メディウム全31種

もう
ゴールデンを知った私は、
は使えない。

明日の色をつくる……
タニタニ 色彩株式会社
〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2-15-7 TEL.(06)6308-1212 FAX.(06)6305-3018
〒171-0052 東京都豊島区南長崎9-1-3 TEL.(03)3953-5181 FAX.(03)3953-5153

第9回
(社)家の光協会
主催

世界こども図画コンテスト

作品募集!

応募のきまり

● 作品のテーマ
・テーマ部門 植物や動物、風景など「自然」に関連した作品をお寄せください。

・自由部門 右記以外の自由なテーマでお寄せください。

● 応募のできる人

小学校1年生から中学校2年生まで

● 作品の大きさ

49cm×70cm以内

● 募集期間

平成13年7月1日～平成13年11月1日

● 入選発表

「家の光」「ちゃべりん」誌上および応募団体に文書を送付

● 表彰

金賞20名・銀賞40名・銅賞60名の各入選者に賞状と賞品、佳作80名に賞状を贈呈。国内応募者には全員に参加賞、100名に特別賞。国内上位入賞者(小学5年生以上)から7名を海外旅行へ招待。

● 応募について

① 左記のあて先までご連絡ください。応募用紙を兼ねた詳細パンフレットをお送りします。

② 水彩絵の具、クレヨン、パステル、また版画でもけっこうです。

③ 作品は学校単位で一括送付願います。作品は返却できません。

● 送り先・問い合わせ先

〒162-0848 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9037

家の光協会・文化センター「世界こども図画コンテスト」係

● 審査員の先生がた

東京国立近代美術館館長

東京芸術大学教授

聖徳大学教授

全国造形教育連盟委員長

全日本芸術教育振興協議会会長

● 後援

国際ライファイゼン連盟、国際美術教育学会、外務省、文部

科学省、農林水産省、NHK、全国造形教育連盟

● 協賛

全国農協中央会、農林中央金庫、(株)農協観光

美術教育、 造形活動の ための教材

〈取扱品〉

絵画・版画・デザイン・製図・色彩・紙工・小学生の工作・彫刻・陶芸・木工木彫素材・着色塗料・接着剤・金工素材・木工具・金工具・電動工具・電気・七宝・合成樹脂・モザイク・ステンドグラス・竹工・藤・手芸・織り物・染色・記念品・学校設備品・鑑賞資料・カラースライド・ビデオテープ・CGコンピュータソフト・美術出版社美術書



教材総合カタログをご参照下さい。

● ● ● **美術出版社サービスセンター**

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-19 電話 03-3260-2388 (ご注文電話)

軽さを生かす作品に最適なねんど

カルモ

超軽量ねんど



カルモ200g カルモL300g

〈カルモ〉は、今までの軽量ねんどの約半分の軽さ、手ざわりがなめらか、手につきにくく、収縮も少ないので、作りやすいねんどです。



カルモ1個使用

PADICO

株式会社パジコ

東京都目黒区中目黒1-1-71 電話03(3710)3011代

教育総合出版・教材・教具

株式
会社

北海教育評論社

〒065-0041 札幌市東区本町1条1丁目1-11

TEL(011)785-3231・FAX(011)785-3731

より美しく より速く

情報化社会に素早く対応できるよう最新のシステムで、みなさまのおこしをお待ちしています。生徒会誌、研究紀要、記念誌、等なんでも気軽にご相談ください。

日通印刷株式会社

〒060-0009 札幌市中央区北9条西23丁目 TEL (011)641-5373

FAX (011)611-4343



第54回全国造形教育研究大会北海道大会 in 札幌
第51回全道造形教育研究大会
大会紀要

発行 平成13年 8月20日
第54回全国造形教育研究大会
大会長 芝木秀昭
編集 大会実行委員会・広報局
印刷 小南印刷株式会社
札幌市中央区北9条西23丁目 ☎011-641-5373

